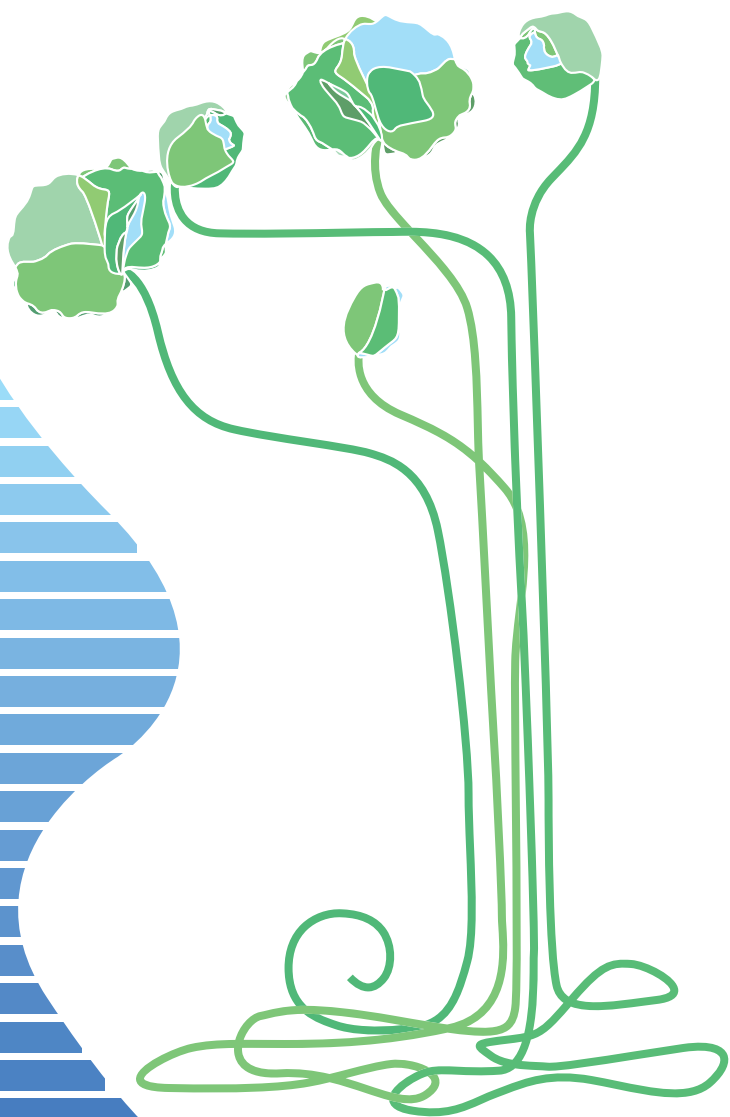
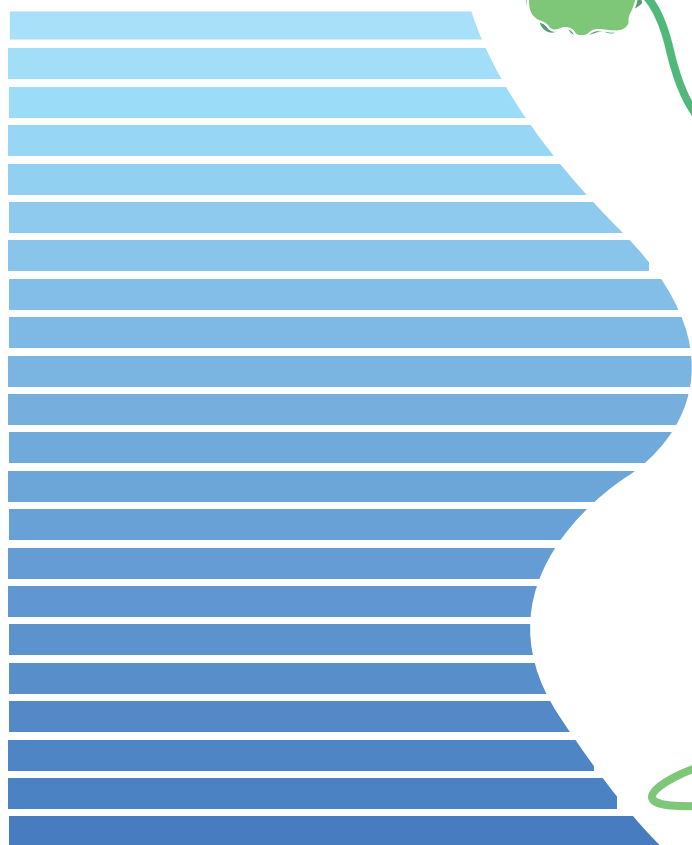


WINET 情報

ウイネット

創刊号
1998.3



国立婦人教育会館

WINET情報 CONTENTS

創刊号 平成10年3月

創刊にあたって 大野 曜 1

婦人教育情報センター利用案内

ホームページからWINET-DBへ 2

WINETを利用したレファレンスQ&A 4

会館事業情報

「教師のための男女平等教育セミナー」実施報告 7

女性及び家庭教育に関する

学習事例データベース(平成7年度調査)紹介 9

レポート：各国の女性事情

ブータンの女性 チミ・ワングモ・ダゼール 12

クック諸島からカントリーレポート

ルース・ロイロイ・ポクラ・ヌー・テェカ ... 20

海外からの来館者紹介 28

書誌情報

女性・家族関係雑誌記事インデックス 33

新着図書案内 64

編集後記

創刊にあたって

国立婦人教育会館長 大野 曜

国立婦人教育会館は、国立としては唯一の成人女性のための社会教育施設として、昭和52年に開館し、昨年平成9年11月に20周年を迎えました。

会館の情報誌としては昭和54年以来18年間にわたり「婦人教育情報」を発行し、女性関連施設が当面する課題を特集テーマに取り上げ、多くの方々に活用されて参りましたが、20周年を機に会館は国内外の女性の生涯学習に関する、ジェンダーの視点に立った研究成果を公表し、婦人教育の進展に寄与するために「国立婦人教育会館紀要」を創刊いたしました。それにともない「婦人教育情報」を見直し、新たな情報誌を創刊することにいたしました。

新情報誌では、どのような内容を発信していくのがよいのか、どのような名前にしようかと検討を重ねてきました。昨年11月に行われた開館20周年記念国際フォーラムにおいて、会館の果たす役割は女性の社会参画の拠点として、女性の生涯学習施設として、また女性学・ジェンダー研究・女性情報のナショナルセンターとして今後一層重要であることが再確認されました。そこで婦人教育情報センターがこれまで蓄積してきた資料及びWINETデータベースをより多くの人々に利用してほしいとの願いを伝えるものとして、また、会館の主催事業についての情報やWINETの利用方法のあれこれ、全国各地の女性たちのネットワークをつなげるきっかけになるような情報をお伝えするために「WINET情報」を発刊することといたしました。

「WINET（ウィネット）」は会館の持つ女性及び家族に関するデータベース検索システムWomen's Information Network Systemの愛称として親しまれておりましたが、さらに女性情報データベースの利用を基盤とした、女性たちの情報ネットワークの形成充実に役立つものを作っていきたいという願いをこめております。

この「WINET情報」が多くの皆様に親しまれ、活用されますよう、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

会館ホームページから WINET-DBへ

WINET接続方法には、直接会館に電話回線でアクセスする方法（いわゆるパソコン通信）とインターネットを利用した接続方法があります。

今回はインターネットを利用した接続方法についてご説明いたします。

近年のインターネット環境の普及には、目を見張るものがあります。各機関のホームページ上からも、手軽に知りたい情報を収集できるようになりました。

国立婦人教育会館では、平成7年12月25日よりホームページを開設し、会館からの情報を発信しております。また、WINET（女性学習情報オンラインシステム）についても、インターネットを利用した情報検索が可能です。これにより、会館から遠隔地の方々にも安価な通信料でWINET-DBを利用できるようになりました。Telnetを利用した接続については、すでに平成7年より皆さまにご案内しておりますが、今回、ご紹介するのは、会館ホームページからのTelnet利用による接続方法です。これにより接続に関する負担は大幅に軽減されることと思われまます。それでは、接続手順をご紹介します。

まず、お手元のパソコンで会館ホームページ(<http://www.nwec.go.jp>)を表示してください。つぎに「会館案内」をクリック、さらに「婦人教育情報センター」を選択してください。すると婦人教育情報センターのホームページ(<http://www.nwec.go.jp/Kaikan/center/center.html>)が表示（図1参照）されます。つぎにWINET-DB

を選択してください。このページ（図2参照）からWINET-DBにアクセスすることができます。そのページの「WINET接続(telnet)」をクリックしてください。ご利用のWWWブラウザに関連づけられたtelnet利用ソフトウェアが起動します。そこで、「漢字コード」の選択、「利用者ID」および「パスワード」の入力を行えばWINET-DBの利用が可能となります。終了の手順は検索画面の場合「END」の入力、後は選択肢に従い、終了のコード番号を入力するだけです。以上のことはホームページ上でもご説明しておりますので、どうぞご利用ください。

また、WINETは、より多くの方に、より使いやすくを目標に平成11年1月、新システムへと移行します。来年からは24時間いつでも検索が可能になりますし、（現行は9：00～18：00）、検索方法もコマンド方式から、メニュー方式へと変わります。検索をするのにコマンドは必要なくなりますので、初めての方でも、マニュアルなしで簡単にできるようになる訳です。

今後も国立婦人教育会館婦人教育センターでは、WINET-DBのデータの充実、簡易な検索システムの実現などに努めて参ります。

皆さまのご意見ご要望をお待ちしております。

NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTRE
婦人教育情報センター



国立婦人教育情報センター WWW 専事計画 NEWS LETTER スエックニュース 各種情報

Data Base

- WINET-DB
- 家庭教育-DB
- 所蔵雑誌検索

About Center

- 利用案内
- 収集資料
- センター配置図
- 資料の探し方
- 提供サービス

WINET-DB

- ★ 文献情報データベース
- ★ 学習情報データベース
- ★ 統計情報データベース

WINET接続申請
受付中

詳細は
WINET-DBの
ページをご覧
ください。

婦人教育情報センターは、女性及び家族の分野の学習・調査・研究に資するため内外の資料・情報を収集し提供するとともに、各種データベースを作成し、全国的に女性学習情報のオンラインサービスを行っています。

728, SUGAYA, RANZAN-MACHI, HIROGUN,SAITAMA-KEN, 305-0292
 TEL.0493-62-6721(EXT.2220) FAX.0493-62-6721
 E-mail:webmaster@nwec.ac.jp

ここを
クリック

図-1

NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTRE, JAPAN

WINET-DB

WINET概要

WINET (ウィネット) はスエック婦人教育情報センターの提供する女性・家族に関する情報を検索するためのシステムです。

WINET接続(telnet)

Telnet経由でWINETに接続します。[接続手順]

接続には、利用者ID及びPASS WORDが必要です。

(利用時間 9:00 - 18:00)

WINET検索手順

WINETの利用方法を分かりやすく解説します。

HOME BACK

Copyright (C) 1995, National Women's Education Centre, Japan. All rights reserved.
 E-mail: webmaster@nwec.ac.jp

ここを
クリック

図-2

WINETを利用したレファレンスQ&A

Q 日本青年館所長の板本洋子氏が最近どこで講演をしたか知りたい。

A 講演情報は、新聞記事に掲載されることが多い。したがって、まず新聞記事インデックスデータベースを利用する。新聞記事中の人名については、すべてAUTHOR項目に入力されている。

《検索方法》 集合番号 検索条件

1/ A 板本洋子

2/ S 1997 OR 1998

3/ AND 1,2

《検索表示例》

4/D AL

(1)

OPID : 179707939 YEAR1 : 1997

TRS : 男性社会変えていこう : 東京の結婚相談所長が講演 : 花巻「イーハートーブ会議」 クニイシヤカガ
イコリ : トキヨウノケツコンソクダシヨウカ^カ コエン : ハマキ イハートーブ^カ 加件

PUB : 盛岡 : 岩手日報社,1997.08.27

VTK : OH VTS: 女性記事 VTR: WOM8

VTK : OH VTS: 婦人問題97-2 VTR: WOM97-2

PTBL : 岩手日報 イハニッポウ PTBLK: a

AL : 板本,洋子 イタモト,ヨウコ

SHK : FREE SHS : 花巻市 SHC : L

SHK : FREE SHS : 豊かな農村生活推進事業 SHC : L

SHK : FREE SHS : アグリイハートーブ 検討会議 SHC : L

SHK : FREE SHS : 日本青年館 SHC : L

SHK : FREE SHS : 結婚相談所 SHC : L

SHK : FREE SHS : 結婚難 SHC : L

SHK : FREE SHS : 嫁不足 SHC : L

SHK : FREE SHS : 婦人問題 SHC : L

SHK : FREE SHS : 農山漁村 SHC : L

配架 = 情報センター 登録番号 = 7709707939

Q キャンパスセクハラについて現状がわかる資料があるか。

当館の図書資料データベースは、各資料の内容を「婦人教育シソーラス」を用いてキーワードを付与している。「セクハラ」は、「性的嫌がらせ」という語に統一されている。

A よって、「キャンパスセクハラ」も「性的嫌がらせ」というキーワードが付与されている。「キャンパス」ということで、「大学」「短期大学」「大学教員」等のキーワードをかけあわせて検索する。

《検索方法》 集合番号 検索条件

1/ SH 性的嫌がらせ

2/ SH 大学 OR 短期大学 OR 大学教員 OR 女子教員 OR 女子学生

3/ AND 1,2

《 検索表示例 》

4/D N,5;6;9;10 D3

(5)

書名/著者：キャンパス性差別事情：ストップ・ザ・アカハラ / 上野千鶴子編

出版：東京：三省堂,1997.7

形態：265p ; 21cm

表紙書名：Gender discrimination in academy

ISBN：4385357315

配架 = 情報センター

請求記号 = 367.2:Ky1 登録番号 = 1000107785

(6)

書名/著者：キャンパス・セクシュアル・ハラスメント：調査・分析・対策 / 渡辺和子、
女性学教育ネットワーク編著

出版：京都：啓文社,1997.11

形態：iv、466p ; 21cm

注記：セクシュアル・ハラスメント関連文献資料：p463-464

ISBN：4772915567

配架 = 情報センター

請求記号 = 367.2:Ky1 登録番号 = 1000108475

(9)

書名/著者：女性教員・女子卒業生からみた京都大学：研究・教育環境調査から /
京都大学女性教官懇話会編

出版：京都：京都大学女性教官懇話会,1996.3

形態：32p ; 26cm

配架 = 情報センター

請求記号 = 367.2:J76 登録番号 = 1005012085

(10)

書名/著者：女性研究者とキャンパス・セクシュアル・ハラスメント：
女性科学研究者の環境改善に関する懇談会(JAICOWS)&愛知女性研究者の会シンポジウム

出版：大府：愛知女性研究者の会,1996.12

形態：46p ; 30cm

配架 = 情報センター

請求記号 = 367.2:J76 登録番号 = 1005012047

Q 父親をテーマにして講座を行っているところと学習プログラムを知りたい。

講座・講演の結果を調べるには学習事例データベース、地方行政資料データベース、新聞記事インデックスデータベースが利用できるが、学習プログラムを調べたい場合、学習事例データベースが有効である。テーマの中に「チチ*」(*は前方一致を表す)「オヤジ」「オトウサン」という言葉を含む事例を検索してみる。

A

《検索方法》集合番号 検索条件

1/ T チチ* OR オヤジ OR オトウサン

自治体名を表示させるモードは、G1,G2,G4。学習プログラムを表示させるモードは、G3,G4。

《検索表示例》

2/D N.9 G3

(9)

G I D : 219701046

事業名 : お父さんの子育て講座

テーマ名 : 父親の家庭教育参加促進

題目名 : 子どもと料理をつくろう

内容 : その他

方法 : 実習

題目名 : 子どもとのつきあい方1 ロールプレイング 子どもと心とつきあうには?

内容 : 心身の発達

方法 : 演習

題目名 : 子どもとのつきあい方2 ロールプレイング ホメルと勇気付けのちがいは?

内容 : 心身の発達

方法 : 演習

題目名 : 子どもとのつきあい方3 ロールプレイング 子どもが問題解決できる聞き上手

内容 : 心身の発達

方法 : 演習

題目名 : 現代の子どもたちの特徴 今、子どもたちに命の輝きを!

内容 : 育児・家庭教育

方法 : 講義

題目名 : 後継者育成と子育て 父と子のふれあい

内容 : 育児・家庭教育

方法 : 講義

題目名 : 親子で楽しく 父と子のふれあい

内容 : スポーツ

方法 : 実習

題目名 : 家族で楽しく 家族のふれあい 夢の語り合い

内容 : スポーツ

方法 : 実習

題目名 : 家庭の教育機能 人を育てる心と言葉

内容 : 育児・家庭教育

方法 : 講義

「教師のための 男女平等教育セミナー」 実施報告

平成9年8月26日～27日の二日間、全国から教員及び教育委員会指導主事等、定員をこえる140名の参加を得て、『教師のための男女平等教育セミナー』を開催した。

本事業は、男女共同参画社会の形成にむけ、教師のための生涯学習の一環として、学校教育における男女平等に関する指導の充実、及びジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）に敏感な視点の定着と深化に資する実践的な研修を行うことを趣旨とした新規事業で、テーマは「学校教育のなかのジェンダー／男女平等教育を考える」と設定した。

第1日目は、お茶の水女子大学の天野正子教授による講義「学校でつくられるジェンダー」、続いて、学校現場における5つの領域（学級運営、進路指導、道徳・特別活動、メディア・リテラシー、教科指導）をそれぞれ「ジェンダーの視点で考える」をテーマに5分科会において協議をおこなった。第2日目の全体会では分科会の報告と分科会助言者からの講評そして参加者の意見交換を行なった。

講義と各分科会の概要を次に紹介する。

講義「学校でつくられるジェンダー」

はじめに分科会の前提となる基礎知識として「ジェンダーとは何か」、続いて、いま学校における男女平等教育について考えることの必要性について話された。

『学校はジェンダーの縛りから解放された意識や感覚をつくる上で、また逆にジェンダーを再生産する上でも非常に大きな役割を持っている。男女平等社会を作る上で、戦略的に大きな領域であると言える。学校という世界は、他の領域に比べて性別による不平等が見えにくい。教育機会均等という制度的な枠組みの中で、女性の教育水準の向上、女性自身の平等意識・権利意識の形成も推

進されてきた。しかし、実際には児童・生徒が経験している世界は男か女かによって異なっているものがある。一見男女平等にみえる学校文化のなかで、目に見えない側面で組み込まれているもの、それが学校文化の中の「隠れたカリキュラム」である。これをどう変えていくかが大きな課題である。』

「隠れたカリキュラム」として、学校知の中のバイアス（教科書が男中心の世界で取り扱われている現状）、「教師・生徒」の相互作用過程（教師の生徒に対応する態度・時間が男子生徒に偏っている現状、それを認識している児童生徒）、クラス名簿（男が先で女が後という概念の植え付け）、進路指導（男は理系、女は文系という

教師の固定概念、自由な選択の妨害) 教師集団の構成(管理職において女性が少ないこと、担当教科による男女の偏り・多様な生き方のモデルの不足等)等の視点をあげ、これらの課題解決には個々の教師の内なる性差別意識の自覚と変革によるしかないこと、そういう意味で教師の果たす役割が大きいことを強調された。

分科会 A : 「学級運営をジェンダーの視点で考える」

公立全小・中学校において男女混合名簿を実施している水戸市の男女平等教育の事例発表があった。男女混合名簿の実施はジェンダーについて考える一つの要素であること、実施することだけが目的ではなく、実施することについて職場全体で協議しあうことに意味があること等が協議された。

分科会 B : 「進路指導をジェンダーの視点で考える」

教師のジェンダー観が最も反映するものである。現実の社会では、求人は男子には多いが女子には少ない。そのために女子の夢がどんどん薄れ、将来の展望に対する不安を抱くなどの現状がある。進路指導は、学校生活全般、ライフスタイルに影響するもの全てを視野にいれて行われるべきであること等が協議された。

分科会 C : 「道徳・特別活動をジェンダーの視点で考える」

道徳の副読本の中には、男女別の役割をイメージさせるような教材が扱われていることがある。教材が子どもたちに伝えるメッセージを見直すことが大切である。実際に使われている教材の中に描かれている男性像と女性像を分析しながら、教材をジェンダーの視点をもって見直すことの必要性、取り扱い上の留意すべき事柄等が協議された。

分科会 D : 「メディア・リテラシーをジェンダーの視点で考える」

メディアをジェンダーの視点からみると、多様な意見・女性像・生き方があることを伝えることが本来の使命である。メディアで表現されたものは、事実の一部であり、かつ加工・編集されていること、いろいろな角度から出来事を見るのがメディア・リテラシーの初歩であることを踏まえて、知的な「受け手」と「送り手」を育てることがメディア教育において重要であることを、テレビCMの分析を通して学習した。

分科会 E : 「教科指導をジェンダーの視点で考える ～家庭科男女共修を事例として～」

女性学で得たものを高校家庭科の授業で生かした事例発表があった。役割分業意識を変えることは難しいが、初等中等教育の段階から行うことが効果的であるとの報告をうけて、家庭科男女必修上の課題について協議された。

3時間半の分科会でもまだ話したりないとの意見もあり、談話室等では幾つかの小グループが自主的に夜遅くまで活発な意見交換を行った。「ジェンダー」という言葉を初めて聞いたという教師から、「男女混合名簿」実施に向けて積極的に活動している教師まで、男女平等意識の差はあったが、男女共同参画社会にむけて、学校教育の果たす役割の大きさを自覚できたこと、学校教育に携わる一人一人がジェンダーに敏感でなければならないことを確認できた意味は大きい。今後、教育委員会の指導主事や生涯学習センターの研修主事等、教職員の指導的立場にある関係者の積極的な参加が期待される。

女性及び家庭教育に関する 学習事例データベース(平成7年度調査)紹介

国立婦人教育会館で公開しているWINET (Women's Information Network System)は、女性及び家族に関するデータベースの検索システムです。文献情報検索システム、学習情報検索システム、統計情報検索システムの3種類から構成されていますが、今回は学習情報検索システムの中の、昨年度新しく公開された「女性及び家庭教育に関する学習事例データベース(平成7年度調査)」を紹介いたします。

学習情報検索システムは会館が調査した結果を公開しているデータベースです。女性及び家庭教育に関する学習事例の調査は、生涯学習社会への移行が進むなかで、女性の学習における選択の自由を拡大し、生涯にわたる学習活動を支援するシステムをつくるものとして、関係者にとって重要な課題として位置づけられてきました。そこで、各地に個別に蓄積されている学習事例の情報交換を促進し、女性の学習機会の拡大を図るとともに、婦人教育・家庭教育の振興に資することを目的として、全国各地でおこなわれている女性及び家庭教育に関する学級・セミナー・講座・講演会等に関する事例を収集し、関係者にその情報を提供するための調査の第1回目が、平成4年(調査内容は平成3年度)に実施されました。こちらにも既にデータベース化されて公開されています。その後女性・家庭教育に関する学習会等はひきつづき各地で催されており、平成8年、再び調査を実施しました。それが、平成9年11月に公開された学

習事例95データベースです。調査は前回と同様に都道府県・指定都市の生涯学習・社会教育主管当局のご協力を得て、郵送による調査票記入方式で行われ、2805件の回答を得ました。

調査の対象となった事業等は以下のとおりです。

- (1) 都道府県・指定都市教育委員会が実施した女性及び家庭教育に関する学級・講座・講演会、シンポジウム、研究協議会、セミナー、実技、実習等。
- (2) 都道府県・指定都市の首長部局が実施した女性・家庭・家族に関する講座・講演会、シンポジウム、研究協議会、セミナー、実技・実習等。
- (3) 市長村教育委員会が実施した、文部省補助事業による婦人教育及び家庭教育に関する学級等

調査項目は次のとおりです。

- (1) 事業名
- (2) 事業のテーマ
- (3) 事業の目的
- (4) 主催者
- (5) 主催者の連絡先
- (6) 開催期間
- (7) 参加者(対象者、参加資格、人数)
- (8) 参加費
- (9) 修了証書・取得資格
- (10) 企画運営委員(有無、人数、構成員)
- (11) 事業費・国庫補助金
- (12) 講座内容(講義名、内容、学習形態)

会館事業情報

今回の調査における学習内容別講座数は下記のようになっています。

講座名	講座数	講座名	講座数
女性問題一般	444	社会問題（他）	44
女性学・女性解放思想	144	福祉一般	61
婦人教育	122	保育	15
婦人行政	59	高齢者問題	136
女性史	56	障害者問題	41
女性問題（他）	143	福祉（他）	20
育児・家庭教育一般	899	健康づくり一般	275
子どもの心身の発達	539	保健・衛生	119
家庭教育（他）	278	医療	96
教育一般	55	スポーツ・レクリエーション	404
学校教育	52	健康・医療（他）	63
社会教育	71	労働	83
生涯教育	114	自己開発	85
その他の教育（他）	28	資格取得	66
家族・家庭環境	207	労働（他）	28
生活設計	54	美術・絵画・工芸	209
衣・食・住生活	441	映像・写真	26
余暇生活	82	音楽	114
家族・家庭生活（他）	68	演劇	49
社会参加・地域活動一般	235	趣味一般(華道・茶道等)	167
政治参加	28	文化（他）	104
ボランティア活動	192	文学	64
婦人団体・グループ活動	87	哲学・思想・宗教・心理学	47
PTA活動	12	歴史（郷土史を含む）	142
青少年育成活動	24	風俗・習慣・文化財	114
社会参加（他）	31	政治・経済・法律	104
社会問題一般	107	自然科学・技術	87
国際理解・国際交流	138	情報	42
消費者問題	53	人文・社会・自然科学（他）	30
環境問題	159	その他	284
人権問題	304	計	8,345

どのようなデータが入っているのか、データベースから1件の事例を紹介いたします。

G I D : 219702796

事業名 : 父親学級

テーマ名 : たくましく、心豊かな子供をはぐくむ親のあり方を求めて

主催者 : 仲南町教育委員会

実施者 : 市町村教育委員会

共催者 : 仲南町立東・西・北幼稚園

事業目的 : 心豊かな中に、たくましく生きる子供たち、その育成は子を持つ親たちすべての願いである。本事業では、町内三幼稚園の父親や母親たちがすすんでそのあり方を求め、子供たちと共に有意義で楽しい時がもてる場所作りを目指す。

国庫補助 : 有

補助金 : 父親家庭教育参加

開催期間 : 1995/ 5 / 7 ~ 1996/ 2 / 9

コマ数 : 6

総時間 : 30時間

開催曜日 : 平日 (祝日を除く月曜 ~ 金曜)

開催時間 : 午前 (6 : 00 ~ 12 : 00 のいずれかの時間帯) 男性89人合計89人

企画委員 : 女性3人男性2人合計5人

託児所 : 無

題目名 : 父親学級

内容 : 育児・家庭教育

内容 : 心身の発達

方法 : 講義

題目名 : 野菜を使ったおやつづくり

内容 : 衣食住

方法 : 実習

題目名 : フォークダンス

内容 : スポーツ

方法 : 実習

題目名 : 社会見学

内容 : 自然科学

方法 : 見学

題目名 : 楽しい料理教室

内容 : 衣食住

方法 : 実習

レポート：各国の女性事情

国立婦人教育会館では、1989年度から毎年「海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業」を実施してきました。この事業の目的は、アジア太平洋地域の婦人教育、女性情報の専門家を招致し、会館のこれまでの女性情報システム構築等の経験を活かして、女性問題の意識啓発に関する情報処理技術の研修を行うもので、本研修を通して、アジア太平洋地域の女性問題に関して相互理解を深め、域内の女性情報ネットワークの促進を図ろうとするものです。1997年度までに36ヶ国、40名の方をお迎えしました。

研修生は参加にあたって、自国の女性問題に関するカントリーレポートの提出が求められます。これらのレポートは、各国の女性をとりまく最近の状況を知る為の情報源として、会館の婦人教育情報センターに保管されてきました。

この欄では、その年度に提出されたいくつかのレポートを日本語に翻訳し、シリーズとしてご紹介いたします。



ブータンの女性

チミ・ワングモ・ダゼール
(ブータン全国女性協会プロジェクト・コーディネーター)

1. 序説

ブータンは、面積46,500平方キロ(18,000平方マイル)の内陸国である。北は中国、南はインドに接している。

ブータンはほぼ全域が山岳地帯で、平地は、中部の比較的広大な河川流域と南部の一部に限られている。気候は、南部の暑く湿度の高い亜熱帯性気候から1年中氷と雪に覆われるヒマラヤ山脈地帯まで、この規模の国としては、世界で最も多様な気候となっている。

ブータンは、推定人口1,639,430人の王国で、女性はほぼ半数の49.5%を占める。人口のおよそ95%が農村地域に住む。しかし大都市の居住区がないことから、都市人口と農村人口の区分は事実上ほとんどない。

人口の87%が、GDPの40.7%を占める農業に従事する。自然人口増加率は、およそ3.1である。

公用語は、ゾンカ語である。しかし、各地方にそれぞれ方言がある。これは、地勢上の理由に加え、これまでインフラストラクチャーが整備されていなかったことから、地域間の人の交流が盛んには行われなかったためである。学校教育には英語が使用されており、若い世代の大多数は英語を話す。

2. 女性の経済・社会的地位

2.1 人口動態

ブータンは長く鎖国政策をとってきたことから、開発計画が実行されたのは、35年前のことで

ある。計画のためにデータ検索システムが導入されたのも最近のことであるため、過去数十年に関して信頼できる統計の入手は容易ならぬことである。しかしながら、開発計画が実行に移されて以来、ブータンは、多方面にわたる開発が目覚ましい進展を遂げ、その結果、全国民の生活水準は向上し、福利も改善された。

正常出産1,000人当たりの妊産婦死亡率は、1984年の7.7から1994年には3.8に減少した。乳児死亡率も1984年の142から1994年には70.7に減少した。平均余命は1985年の48才から1994年には64才となり、乳児死亡率も1985年の1,000人当たり142から1994年には70.7に減少した。

2.2 保健と栄養

過去においてブータンの保健衛生の状況は、低い栄養摂取と貧しい衛生状態を反映したものであった。しかし今日状況は大きく改善された。保健サービスが広く行き渡り、その普及率は1985年の50%から1996年には90%へと大きく拡大した。辺境地域においては、十分な訓練を受けた医療補助員を配備した基礎保健部隊(BHU)が軽度の疾患の治療に当たり、伝染病流行の防止対策について助言を行っている。また、保健局の管理の下、予防注射、母子保健サービス、家族計画などの特別プログラムも多数実施されている。

2.3 女性の法的地位

ブータン王国では、性による区別や法令による差別がないことは、十分に確証された注目すべき事実である。法律は、地位、カースト、富、男女の差別なくすべての国民の利益のために制定されている。

男女は、相続、婚姻、離婚、その他あらゆる民事・刑事事件を含め、生活のすべての面において、同等の権利を与えられている。

ブータンの社会においては、女性は常に中枢の役割を果たしている。農業経済国であるブータンでは、女性が農場を切り盛りしている。様々な基準は明らかに女性に有利となっている。女性の役割は、国の法令や宗教などよりも、農業の社会経済体系によって特徴づけられる。国の大半の地域において、社会構造は母系制が中心となっている。農地を維持する上での有用な要素として、女性が農地を相続する。

i. 婚姻に関する法律

1980年に成文化された婚姻法は、婚姻に関する法的指針を規定し、自身の宗教的慣習に従い婚姻関係を結ぶことができるが、法の下ではすべての婚姻は同一の規則・規定に従うものと定めている。基本的婚姻制度は単婚であるが、配偶者の同意があれば複婚も法律で認められている。婚姻関係を結んだ場合は、婚姻関係を有効なものとするため、男女一人ずつの証人2名立会の下で地方裁判所から婚姻証明書(Nyinthem)を取得しなければならない。

3回の婚姻において、いずれの場合も自らの姦通が原因で離婚した場合、4度目の婚姻については、婚姻証明書(Nyinthem)を取得する資格はない。

再婚のために裁判所から婚姻証明書を取得しようとする女性または男性に対し、前配偶者との離婚証書(Yikthi)が法律に従い作成されない限り、婚姻証明書は授与されない。

ii. 離婚法

他の多くの社会とは異なり、ブータンには離婚に対し社会的禁制はまったくない。ただ、離婚をし、離婚証書を交わすに当たっては、証人の立会

が必要である。離婚は、男女いずれからも行うことができる。当事者の一方が、被害者である他方に対し補償責任を負う。法律は、結婚持参金制度をはじめ、女性の自由あるいは権利を侵害するような制度を認めていない。そのような制度は、ブータンの社会では一切存在しない。また、組織的な売春制度も法律で認められていない。

離婚した男女は、法律に準ずるかぎり、社会的不利益を受けることなく再婚することができる。女性はどのような資産でも所有できる。離婚に際し、結婚以前に取得した個人資産は、当初の所有者に帰属し、結婚後に取得した資産については、夫と妻、また子供がある場合は子供も含め、対等に分与する。10才未満の子供の親権は母親に与えられる。10才以上の子供については、様々な経済的その他考慮すべき事項ならびに子供自身の希望を考慮に入れ、裁判所が裁量権を行使する。

iii. 財産法

相続に関しては、両親が家族資産の分配について最終的決定権を有する。一般に、資産のすべて、またはより多くの資産分与が娘たちに行われる。但し、ブータンの南部、ならびに東部のいくつかの民族では、娘ではなく息子に行われる。したがって、一般に、農地および関連資産について母系相続が行われている社会においては、女性は比較的利益な地位にある。このような背景から、他の民族に比べ、女性には家庭内の経済的意思決定においてより中心的な役割が与えられる傾向にある。しかしながら、両親が遺言をしないで死んだ場合は、ブータンの法律では、家内財産について年齢・性別に関係なくすべての子供に平等な権利が与えられている。

4. 雇用と所得創出

4.1 農業における雇用

ブータンの経済においては、農業が依然主力を占めている。15才から64才の国民の87.2%が農業に従事している。男女別では、それぞれ78.4%と

95.4%となっている。この数字からも、女性が農業において果たす役割の重要性が明らかである。女性は、畑の準備をし、種をまき、移植し、肥料をやり、雑草を取り、収穫して脱穀し、市場で売るまで、すべてに携わっている。男性は通常耕耘など主な力仕事を担っており、女性はその他畑の作業すべてをこなす。しかし農業の機械化にともない、女性もトラクターや耕耘機を使って耕耘作業も進んで行っている。

土地の所有は、わずかな面積であり、依然自給農業が主流を占める。山岳地帯という地勢上、耕作に向く土地には限りがあることから、農業の将来性は高くない。この結果、最適規模以上の人が農業に従事し、不完全雇用を生んでいる。このような要因は、伝統的に家計と農地の管理人である女性に多大な困難を課しており、女性は、生活費を更に多く得るために追加収入の道を求めることを余儀なくされている。

4.2 政府の雇用

公式部門に働く女性、すなわち公務員や会社の俸給生活者は、極めて少ない。公務員の中で女性の占める割合は16%たらずである。女性の大半は、非公式部門の職業・所得創出活動に従事する。

行政、銀行、会計・監査、医学、工学、教育、外交、貿易、商業、工業などの女性管理職の草分けとしてより高い地位で政策の立案や意思決定に携わっている女性も、わずかであるがいる。その数は年々増加しているが、正確な割合はまだ明らかではない。

4.3 自営

i. 事業

村、小さな町および都市の中心部の店は、ほぼすべて女性の経営である。店の大半は女性が所有者である。他方、旅行代理店と請負業を営む

女性は少ない。現在進められている市場改革の結果、女性企業家の進出が増大している。とりわけ農村地域の女性の所得創出能力を増進するために、ブータン開発金融公社（BDFC）とブータン全国女性協会（NWAB）は、農村に利益をもたらす様々な事業に着手している。これらの事業の最大の受益者は、女性である。

ii. 家内工業および小規模産業

ii.i. 機織り

農業に次いで、女性の主な経済活動となっているのは機織りである。とりわけ東部の女性の機織り技術は優れている。この技術は母親から娘へと受け継がれている。教えられるというよりは、見て自然と習うというのがほとんどである。

機織りは、家計の一部を支える相当な所得を女性にもたらす。機織りには、地元で製造できる伝統的な織機が使われている。機織りは主に、畑での作業が少なくなる冬期に行われる。しかし、機織りを職業とし、人並みの収入を得ている女性も一部にいる。大半の女性は機織りで得た収入を子供の養育に充てている。

ii.ii. 籐および竹製品

籐や竹の手工芸品で生計を立てる女性も多くいる。「パンチュン」と呼ばれる一般に食品などを運ぶためのバスケットやマットなどの様々な実用品を製作し、地元の住民や、あるいは観光客向けに地元の市場で売っている。

ii.iii. 製紙

まったく機械類を使わず伝統的な方法で手漉きの紙を作っている女性が少なからずいる。

5. 失業

統計によれば、15才から64才までの女性の失業率は3.6%である。他方男性は9.6%である。このように女性の失業率の方が低いのは、女性の大半が

何らかの収入創出活動に従事しているという実情を反映したものである。

6. 女性の資源の利用・入手の機会

6.1 土地

女性の土地の利用や入手の機会は、地域社会により様々である。例えば、母系家族制を採る西部や中部に住む女性は、通常父系家族制を採る東部や南部の女性に比べ、土地の利用・入手の機会は多い。父系家族制は、ヒンズー教徒である南部のブータン人に比べ、東部ではそれほど顕著ではない。しかし法律では、土地・資産の分与について、年齢・性別に関係なく対等の権利が、あるいは両親の希望に従った分与が、認められている。一般に多くの場合、家を管理する娘により多くの分与がなされる。

したがって、農地およびあらゆる関連資産の相続人である女性が、家族内で中核的役割を果たしている。

6.2 信用供与

公的融資の利用の機会は、ブータンでは極めて限られている。農村融資制度が導入されたのも、この数年のことである。農村地域の人々の融資の利用を改善するために、ブータン開発金融公社(BDFC)が設立された。しかしそのような制度を通じて融資を得るためには、手続き上数回にわたり地区本部に出向く必要があり、家事を置いて出かけることが難しい女性にとっては、とりわけ利用しにくいものとなっている。そのような欠点に気付いたBDFCでは、区画(ブロック)レベルで申請者が融資を利用できるブロック貸付委員会を設置した。現在BDFCでは、貧しい農民の利用を更に改善するために、団体貸付制度に主眼を置いている。また、ブータン全国女性協会(NWAB)では、とりわけ農村の女性をはじめ貧しい農村の人々を対象とする事業の拡大を図るため、貯蓄・融資制度を開始した。同制度は、73,000米ドルを資金に1993年に設置されたものである。現在は東部の6地区で事業を行っている。

これは、グラミン銀行の制度を真似た手法を採用している。これまでに合計1,315人の女性が利用している。うち489人が融資を得、残りは貯蓄制度に加入し、ブータン全国女性協会の資金が増大した際には融資を得る機会を待っている。

7. 女性の地位向上に果たす政府および主要機関の役割

7.1 政策とプログラム

国連婦人の10年(1976年 - 1985年)以前は、女性に関する政策や事業はまったくなかった。ブータンには幸いにして性別による格差はまったく存在しなかった。しかしながら、他の南アジア諸国と同様、女性にはキャリア志向が欠如していることから、公的部門の専門職やサービスにおいて女性には後れを取っている。このような事情を背景に、また政府が開発のプロセスにおいて女性が果たす重要な役割を認識したことから、第53回議会において、国内に女性組織の設置を求める決議が可決された。それを受けて1981年4月9日、ソナム・チョドロン・ワンチュク王女を総裁にブータン全国女性協会が設立された。

1981年 - 1987年の第5次5か年計画に、初めて独立して女性に関する章が盛り込まれた。これには、ブータン全国女性協会が策定した以下の目標が明記された。(協会の委任事項は今も変わらない。)

- ・女性、とりわけ農村地域の女性の生活水準を向上する。
- ・女性、とりわけ農村地域の女性の社会経済的地位を向上する。
- ・国民の一般的保健衛生状況の改善を図るために、適切な母子保健、栄養、清潔な飲料水、衛生、衛生設備などの重要性に対する女性の認識を育む。
- ・社会経済開発計画をはじめあらゆる国家建設活動に積極的に参加することを女性に奨励する。
- ・国の豊かな社会・文化・精神的遺産に対する誇りを女性に教え込む。
- ・国民の国王に対する忠誠心、愛、献身を深める。
- ・協会の利益促進のために必要な施策を講じる。

7.2 ブータン全国女性協会の活動

ブータン全国女性協会は創設に伴い、農村地域の女性の向上を礎とする委任事項の達成のため数多くの資金調達活動を開始した。

i. 保健

数名のメンバーが女性と子供の保健衛生に関する保健省の特訓コースに参加し始めた。訓練を受けたメンバーは、農村を訪ね、女性と接触する。協会ではまた、1985年には、農村の人々のモデルとなる、コミュニティ浴場と便所をいくつか供給した。

i.i. 在来のストーブによる健康への危害に気づいたブータン全国女性協会は、まずティンブー地区においてパイロット・プロジェクトとして22台の無煙ストーブを設置し、後にいくつかの地区を選び、更に13,000台の無煙ストーブを配布した。政府は、協会の努力を認め、このプロジェクトを実施し、現在では全国規模のプログラムとなっている。

ii. 農業

ブータン全国女性協会は、1984年から1986年までの期間、東部の5地区において野菜の種を無料で配布し、合計14,442世帯がこのプログラムの恩恵に与った。更に協会では豆腐作りに使用する石臼553台を製造・配布した。また、農村の女性を対象にチーズの生産工程の実演を行った。

iii. 教育

教育はあらゆる開発の鍵であることから、ブータン全国女性協会は女性非識字者を対象とする成人教育事業を1991年に開始した。同事業は現在、学校外教育(NFE)として教育局によって継続されている。

iv. 進行中のブータン全国女性協会プログラム

a. 全国手織り機開発プロジェクト(NHDP)

ブータン全国女性協会では、ブータン東部の

機織りなど、地域固有の伝統工芸に焦点を絞ってプロジェクトを進めてきた。NHDPIは、農村の女性に訓練を施すと共に、糸も供給している。プロジェクトではまた、織り上がった商品をプロジェクトに売り戻すことができるよう市場も提供している。すでに述べたとおり、機織りはブータンの農村地域の女性にとって何よりも重要な収入源のひとつである。プロジェクトは農村地域の低所得者層にとって大きな支援となっている。

b. 機織り訓練センター

ブータン全国女性協会では、女性の市場経済への参入を活発にするため、女性のための訓練プログラムを多数実施している。協会が着手したプロジェクトの中で成功を収めているのが、東ブータンのペマ・ガッシュルにある機織りセンターである。ここでは、農村女性の伝統的な機織り技術を育成することを目的に、12カ月の研修コースを実施している。研修生の募集には、女性の経済事情を考慮し、より貧しい世帯の女性を優先的に受け入れている。貧富の差を解消する上で、この方針は重要な要素であると考えられている。

c. コミュニティ開発支援プログラム

WWFブータン・プログラムの支援を得て、協会ではバンバンにおいてコミュニティ開発プロジェクトを開始した。このプロジェクトは、農村融資制度や森林保全拡張活動などの所得創出活動を通じて森林に対する人間の圧力を軽減することを目指している。森林に対する大きな圧力がもたらす結果について理解を深めるための学校外教育も、プロジェクトの一環として行っている。プロジェクトでは籐や竹の手工芸品の生産を奨励しており、持続可能な生産を保証するため籐と竹の養樹園の建設も実現している。

d. 貯蓄・融資制度

すでに説明したように、とりわけ貧しい農

村の女性を対象に現在協会が手がけているもうひとつの重要なプロジェクトである。プロジェクトについては東部地域では広く周知されている。手続きも簡単で利用しやすく、物理的な担保がまったく必要ないことから、農村の女性も利用している。これまでにおよそ600人の女性が同種のローンを申請しているものの、資金不足から融資を受けることができないでいる。したがってプロジェクトでは、この制度を支援できる寄付機関から資金の提供を期待している。

e. 手工芸品開発公社

当初通商貿易省の管轄下にあった手工芸品開発公社（HDC）が、協会の農村における所得創出事業の販路として、政府により協会に委譲された。HDCはまた、協会本部スタッフの人件費の補助も行っている。

f. 訓練センター

女性の技能と潜在能力の増進を目的に、日本のRAVACから資金提供を受け、ティンブーに多目的訓練センターが設立された。センターでは、洋服の仕立て、編み物、家事、手工芸品製作をはじめとする所得創出活動の訓練コースが女性に提供されている。

7.3 教育と訓練

ブータンの総合教育制度は、1961年に、学校11校、生徒総数440人でスタートした。今日では、学校数は他の教育機関も含め全国に312校に増大し、92,000人の学生が学んでいる。

教育制度においては、女子学生に対する差別は存在しないものの、若年結婚、家事労働や生計のための労働、あるいは女子は社会的保護が必要との両親の思い込みなどの社会文化的要因が、女子の学校教育を阻んでいる。その結果、高等教育に関する統計では、女子より男子の方が高い数字となっている。

すでに述べたように、農村地域の親は、とりわけ女子の方が家事については優れているということもあり、数々の家庭の事情から、娘を家庭にとどめておく方が賢明と考えている。

しかし、これも時代を経て大きく変わってきた。女子の就学率が大幅に増大している。これは、教育制度の改善によるものと言える。農村の女子の都合を考え、農村地域にコミュニティ・スクールが導入されたのである。就学率は72%を超えた。また識字率は、1980年の23%から1996年には54%まで増加した。就学者数は、1992年の51,411人から1997年には72,000人に増加した。女子の就学率は同期間に42%から44%に改善した。

7.4 職業教育と訓練

とりわけ農村地域においては、女性は様々な形で社会・経済生活の維持に責任を負っている。政府は女性の重要な貢献を認め、彼らがその技能や稼働能力を向上させることができるように特別訓練プログラムを提供している。

農業省は、様々な地区において、女性を対象としたいくつかの訓練プロジェクトを設置している。東部のトラシガン地区のカングマにおいては、国際農業開発基金からの資金提供による農業プロジェクトが、子供のヘルスケア、食品の加工・保存法や台所の改善などを中心に、女性のための特別訓練コースを実施している。

8. 結論

伝統的な社会から現代社会に移行する中で、ブータンでは依然多くの女性が変わらぬ生活を送っている。資格と訓練が施されれば、女性も、職業を選び、男性と同様の仕事上の特権を受ける対等の機会を享受することができる。両親が娘を家に置いておきたいがために生じていた不均衡も、教育の出現と共に解消するものと思われ、現実には女子の就学率は増大している。

5カ年計画においても、ブータン政府は人的資

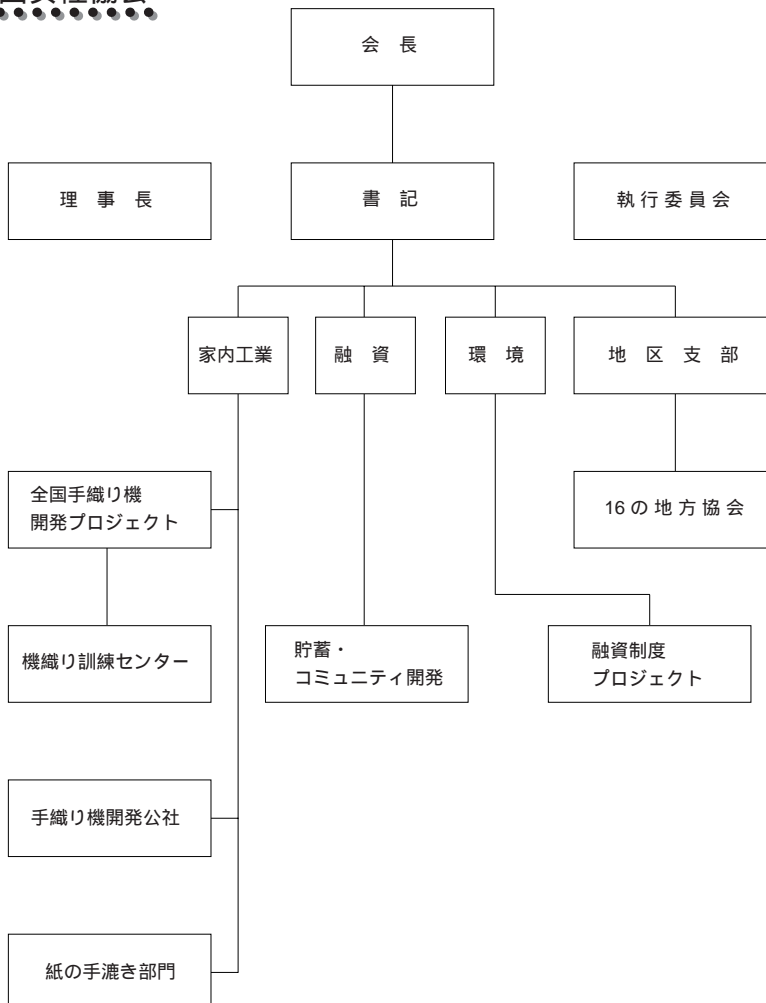
源の開発を優先課題としている。女性が総人口のほぼ半数を占めることから、政府は、この人的資源を最大限に開発し、コミュニティの福利と国益のために有効に動員する考えである。この目的を達成するために、あらゆる政府機関の計画やプログラムは、女性と女子に刺激を与え、国家建設の主流に取り込むことを目指している。

参考文献

1. 『第8次5か年計画（1997 - 2002年）』、第1巻 主要文書、ブータン王国政府計画省。
2. 『ブータン統計年鑑1993年』、ブータン王国政府計画省中央統計機関。
3. 『各国報告』、第4回世界女性会議（北京、1995年9月4 - 9日）のためにブータン王国政府が作成したもの。
4. 『非公式部門の女性』、ブータン全国女性協会が SAARC 連帯ジャーナルのために用意した記事。

ブータン全国女性協会

組織図





クック諸島報告

ルース・ロイロイ・ポクラ・ヌー・テユカ
(内務省女性部内公共サービス協会企画調査員)

目次

序文

1. 序説
2. クック諸島における女性の向上に果たす国家機関の役割
 - 2.1 女性局
 - 2.2 NGO（非政府組織）
3. 女性のためのおよび女性に対する情報 - クック諸島における情報提供方法
4. 現状
 - 4.1 女性と人口
 - 4.2 女性と教育
 - 4.3 女性と保健
 - 4.4 女性と雇用
 - 4.5 女性とリーダーシップ
5. 結論
6. 参考文献

1.序説

キア オラナ コトウ カトアトア - これは、我々の言葉で、「皆さんに長寿を」という意味の挨拶の言葉である。

クック諸島の地勢、経済および社会情勢の概観

クック諸島は、南太平洋上の専管経済水域200万平方キロに散在する主要15島と3つの小さな環礁から成る。一番離れた2島の距離は、およそ1,400キロに及ぶ（アジア開発銀行1995年 p.1）。クック諸島の総面積は236.7平方キロで、南部（ラロトンガ、アイツタキ、アティウ、ミティアロ、マウケ、マンガイア、マヌアエおよびタクテア）と北部（パーマストーン、ペンリン、ラカハンガ、マニヒキ、ブカブカ、ナサウおよびスワロウ）の2地方に分割される。南部地方の中でラロトンガに最も近い島嶼はマンガイア（204キロ）で、最も遠い島はマウケ（278キロ）である。北部地

方の中でラロトンガに最も近い島嶼はパーマストーン（500キロ）で、最も遠い島はペンリン（1,365キロ）である（アジア開発銀行1995年、p.207）。

マヌアエ環礁とタクテアのサンドケイ（海岸に平行な砂状の小さな島）を除き、クック諸島のすべての島に居住者がいる。その中でも、ラロトンガおよび南部の諸島に人口が集中している。南部の島は主に火山活動によりできた島で、植物も豊かで耕作に適している。北部の島々はすべて低地の珊瑚礁で、ココナツとパンダナスが主な植物である。これらの島の土壌は多孔性で不毛である。

土着民は、マオリ族と呼ばれる「ポリネシア」人である。クック諸島の人々はニュージーランド国籍で、ニュージーランドの永住権を有する。人口の半数以上に当たる18,904人（統計局MF EM 1996年）が政庁所在地であり、商業と観光の中心

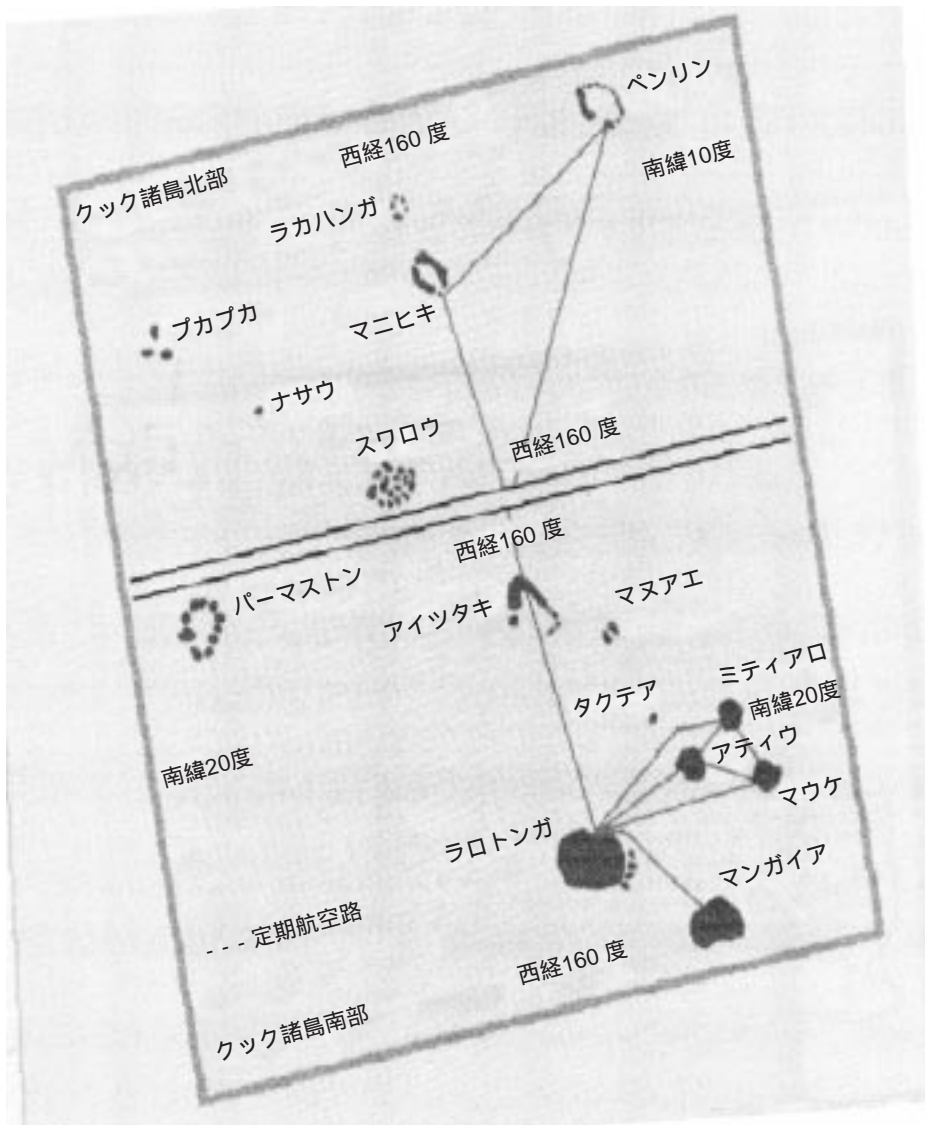
地であるラロトンガ島に住む。クック諸島の国民の大半は外国に居住するおよそ35,000人から40,000人がニュージーランドに、また少なくとも6,000人がオーストラリアに住む。

宗教を持つクック諸島の人々の大半はキリスト

教徒で、プロテスタントとローマカトリックが中心である。

国の経済は主に、農産物（果物、野菜、（乾燥したやしの実である）コブラ、加工食品など）と観光で成り立っている。

クック諸島地図



2.クック諸島における女性の向上に果たす国家機関の役割

1979年以來、女性開発担当官が、女性のための技能および家政学研修を推進している。

1993年には、女性のための野心的な開発計画の推進を目的に、内務省に女性局が設置された。女性局は直ちに女性にとっての情報基地および意思決定主体となった。女性局の主たる目的は、国の総合的な開発プロセスに女性を統合し、女性問題を公共政策およびプログラムの主流に組み込むことにある。

2.1 女性局

A. 女性局 (DWA) の役割：

- *クック諸島における女性のためのプログラムの国内調整機関となる。
- *情報センターとなる。
- *海外から資金提供を受けた女性のプロジェクトやプログラムの監視/評価機関となる。
- *国家女性政策の行動計画実施の主要機関となる。

B. 女性局の目的：

- *政府の開発政策が、開発において女性の社会・経済・政治的向上を推進するように図る。
- *政府各省と協議・協力して、事業努力の重複や財源の浪費を防止する。
- *研修プログラムや技術サービスを提供して、

ビジネス事業や家内工業への女性の参加を増大する。

- *離島の人的資源の能力や将来性の増大・向上を支援する。
- *クック諸島の地域および国際レベルでの参画を効果的かつ効率的なものに保つ。
- *能力構築プログラムや自信育成プログラムにおいて女性の開発を反映した研修プログラムを開始する。

女性局の主な活動

A 研究・援助活動：

- ・ジェンダー研修の実施
- ・一般市民の啓発キャンペーンの実施
- ・メディアを通じた援助活動
- ・NGOを通じた援助活動
- ・国際会議への参加
- ・ジェンダーの視点からのデータ分析
- ・男女別のデータ収集
- ・情報センター、すなわち資料係

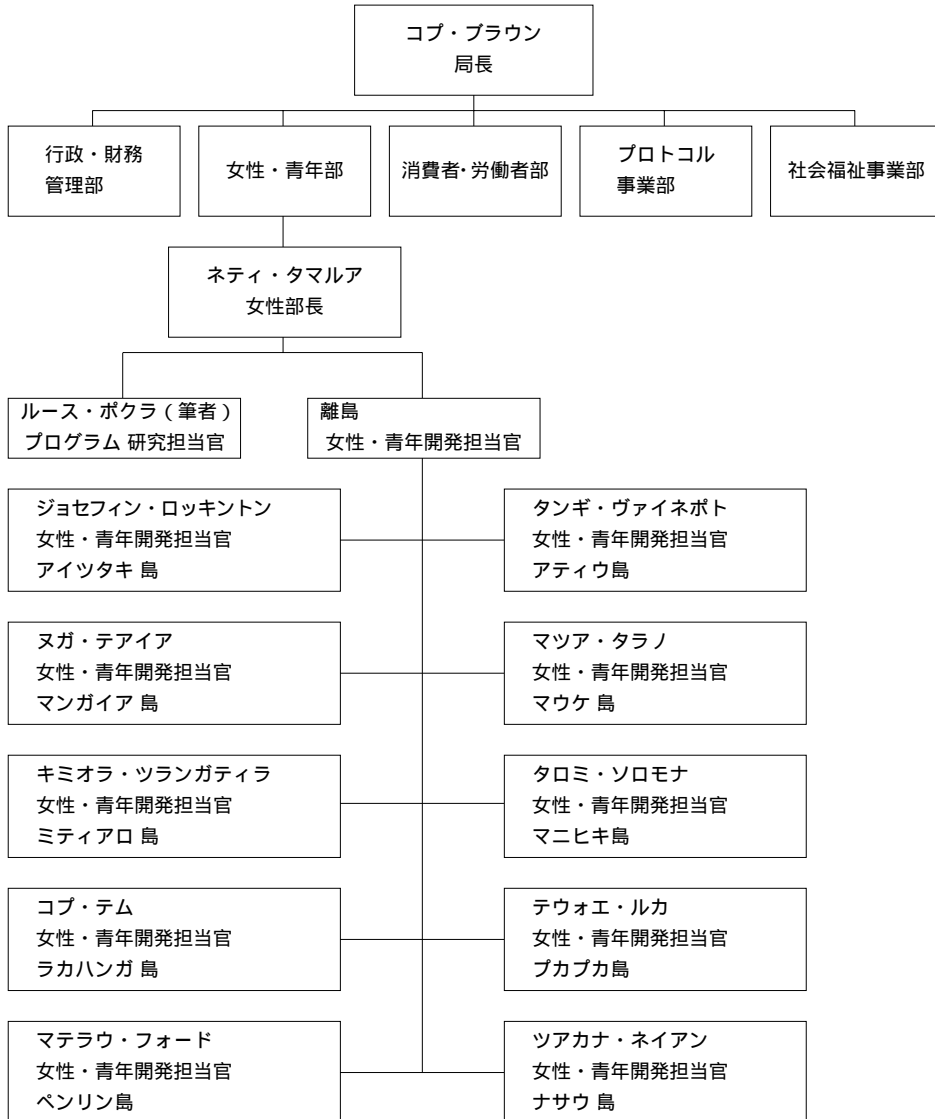
B 政策・企画：

- ・主張・擁護
- ・女性向上を目的とした国家政策およびプログラムの実施状況の監視
- ・ジェンダーの視点からの政策の分析
- ・女性の向上を目的とした国家政策の計画・調整



内務省

女性局組織図



上記組織図では、主要な島嶼であるラロトンガ島にスタッフ2名、各離島には担当官1名ずつしか配備されていない。これは、経済危機下においてとられた措置であるが、経済危機は今も引き続いている。

2.2 NGO（非政府組織）

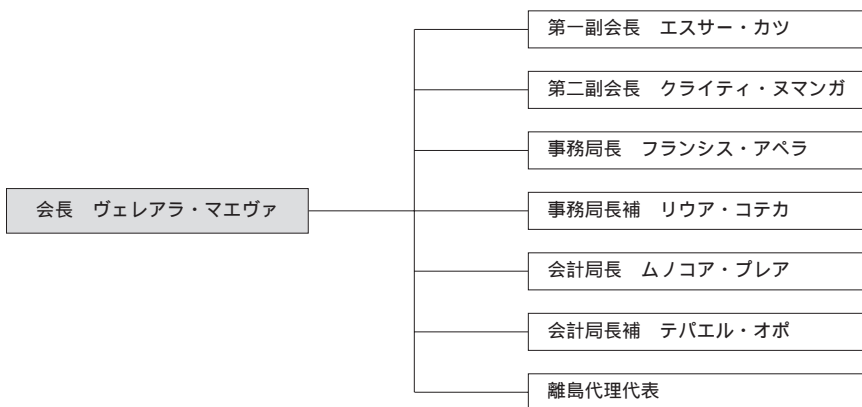
クック諸島全国女性協議会（CINCW）は、各種女性団体を束ねるNGO（非政府組織）であるが、政界においてはまだその潜在能力を十分には発揮していない。協議会は、クック諸島の女性の期待や目標に関する情報の研究・収集・活用よりはむしろ、国内向けのプログラムを中心に活動を行っている。

協議会は1984年に設立された。1986年に定款が正式に採択され、届出された。現在のところ、CINCWにはおよそ55の女性団体が加盟しており、およそ160の団体が未加盟である。

協議会の目的は以下のとおりである：

- ・クック諸島の女性、子供、家族の利益と福祉を推進する。
- ・あらゆる女性団体の連絡役を果たす。
- ・女性の友情と協力を促進する。
- ・クック諸島の文化、風習、伝統の保存を奨励する。
- ・国家開発のあらゆる分野への女性の参画を促進する。
- ・女性の意見が政府に届くように図る。

全国女性協議会組織図



3. 女性のためのおよび女性に対する情報 - クック諸島における情報提供方法

離島を含め、クック諸島における女性向けの情報の発信および援助活動は、通常主に以下の手段によって行っている：

1. 書信、ファックス、電話による通信
2. 内務省女性・青年局が発行する季刊の ニュースレター
3. 離島の女性開発担当官から女性局に送られてくる月1回および年4回の報告
4. 地方紙、テレビスポット、ラジオ番組などのマスコミ

しかしながら、一部の離島では常に次のような問題を抱えている。

- ・空港がないため、あらゆる通信は島嶼連絡船の到着を待たなければならない。
- ・（1艇しかない）船は、北部の最端の離島には3カ月に1度しか就航しない。
- ・電力 電気は昼夜一定の時間しか供給されない。
- ・ラジオ放送電波 一定の距離内でしか受信できない。

4. 現状

クック諸島の女性は、育児や家事、食料生産者として家族の健康・福利・安寧、来訪者のもてなしを含む肉親・近親者としての家族的責任のサポート、およびコミュニティ開発活動などにおける伝統的な役割や責任を、今も変わらずに担っている。

拡大し続ける女性の役割、開発プロセスへの女性の参画を制限する社会的規制、家庭やコミュニティにおける対等な責任分担の必要性などは、今日対処しなければならない課題である。女性が数多くの責務に当たる一方で、他者の面倒を見ながら自分のことも大事にする時間を持つためには、健康でいなければならない。

市場向けの野菜栽培者として女性が地元の消費者の需要を満たし、あるいは観光産業に従事することも、極めて重要である。農業における女性の役割も、この20余年に、従来の家庭用の生産から小規模ながら商業生産者へと変わった。しかし今日でも多くの女性は、育児、手工芸品作り、家庭菜園、家畜の世話、自給漁業、コブラ作り、真珠の養殖などのいわゆる「家族の義務」における家内労働やコミュニティ活動の無給労働者として、働き続けている。

学業、経済力や生活力、政治意識や理解において、女性は向上し続けているにもかかわらず、依然として国家政策や意思決定などの重要な領域に

参画していない。しかしながら、女性がついに「ガラスの天井」を破ることも、決して遠い将来ではなからう。

女性の開発プログラムに指針を与える国家女性政策が策定された。この政策の導入は、クック諸島にとって、これにより女性の向上の促進が確実なものとなるという点で、ひとつの成果と言える。内務省女性局は、全国女性協議会と共に、今後コミュニティや諸団体のために行動計画を推進する実施機関となるであろう。

1996年9月29日から10月4日までラロトンガにおいてクック諸島全国女性協議会の全国フォーラムが開催された。フォーラムの主要目的と成果は、代表者に国家政策が紹介され、フォーラムにおいて政策実施のための行動計画が策定されたことである。

女性は、非公式部門においてではあるが、クック諸島の経済社会開発に多大な貢献を果たしてきた。政府は、公式部門における女性の貢献が増大しつつある実情に鑑み、地方ならびに国家開発のあらゆる分野における討議や意思決定への女性の参画の増進を図りたいとの意向である。計画立案者、政策策定者、意思決定者は、女性の参画を強化する政策方針や決定を実施することによって、女性が開発プロセスの単なる傍観者ではなくなることを保証することが必要である。

4.1 女性と人口

人口の男女比率

年	男性	女性	合計	男女比率
1961	9,454	8,924	18,378	106
1966	9,746	9,498	19,244	103
1971	10,910	10,413	21,323	105
1976	9,294	8,834	19,128	105
1981	9,105	8,425	17,613	109
1986	9,188	8,425	17,613	109
1991	9,688	8,920	18,608	109
1996	9,786	9,118	18,904	

出典：統計局 - 国勢調査

人口構成

国勢調査によれば、1996年のクック諸島の人口は、男性9,786人、女性9,118人である。1991年の国勢調査に比べて、男性は89人増（訳注：上記の表によれば、98人増となる）、女性は198人増となっている。クック諸島の人口は男性の方が常に人口比率が高いが、その比率も1991年の52.1%から1996年には51.8%と、男女の格差は縮まっている。

4.2 女性と教育

とりわけ経営管理分野における知識や技能の向上を目指す南太平洋大学（USP）の公開講座を利用する女性が増大している。これは、家庭での責務や仕事と両立できる教育プログラムであるためである。

USP 大学公開講座による学業実績 - 1991年 - 1996年

性別	修了証書	学位免状	合計
女性	18	2	20
男性	7	4	11
合計	25	6	31

出典：USP 大学公開講座サービスセンター、ラロトンガ

4.3 女性と保健

利用されている家族計画の手段と利用者数 - 1994年

避妊具の種類	利用者数
経口避妊薬	1293
デボ・ポ・ロ [®] （注射避妊薬）	625
IUCD（リング）	182
ルプラント・インプラント	89
卵管結紮法	14
ペッサリー	3
コンドーム	41
精管切除	5

出典：Moldenhauer & Hermann、ラロトンガ 1995年

クック諸島の保健福祉制度は、ラロトンガ島にある総合病院1件（病床数90）、離島の病院8件、

13の外来専門の診療所、5つの保健所、57の母子福祉診療所で成り立っている。ラロトンガの病院は、クック諸島最大で、外来診療、入院治療、実験、X線診療、産前サービスを行っている。

女性は健康への関心を一層深めており、婦人科の定期検診を受ける女性も増え続けている。

4.4 女性と雇用

有給従業員の週あたりの平均所得1989年 - 1993年（単位：ニュージーランドドル）部門 / 地域 1989年 - 1993年

公的部門	男性	女性	男性	女性
ラロトンガ	221	176	264	237
クック諸島	177	169	215	219
民間部門				
ラロトンガ	206	145	263	195
クック諸島	195	140	242	184

出典：統計局 - 雇用調査

懸案は、労働力への女性の参加水準が相対的に低いことである。市場向け野菜栽培や観光業、家内工業などの小規模な所得創出事業のほかに、女性は、看護、教育、あるいは政府や民間企業の秘書としての事務職など伝統的な分野にあいかわらずに従事している。しかし、男性が主力を占める農業や技術者や機械のオペレーターなど男性が支配している職種にも進出する女性がわずかながらも出てきている。

4.5 女性とリーダーシップ

女性の政治参加 - 1994年3月

	議席数	登録有権者数		立候補者数	
		男性	女性	男性	女性
ラロトンガ	10	3489	3298	27	4
アイツタキ	3	647	618	8	0
マンガイア	3	342	326	8	0
アティウ	2	292	255	4	-
マウケ	1	168	177	3	-
ミティアロ	1	95	75	3	-
ラガハンガ	1	78	74	2	-
マニヒキ	1	193	170	2	-
ブカブカ/ナサウ	1	216	212	1	1
ベンリン	1	176	136	3	-
海外	1	385	352	4	0

出典：選挙局、1994年

クック諸島でこれまでに政治の要職についた女性は2人に過ぎず、政治を男性に任せるのは伝統的な傾向であると言われている。統計から明らかのように、登録有権者数も、立候補者数も、男性が女性をしのぐ。女性議員が誕生しない最も明白な原因は、女性の立候補者がいないことである。明らかな理由のひとつは、女性が女性の利益を代表する候補者のために選挙活動をすることで、自分たちの利益を主張するという事に関心がないからである。

5. 結論

女性は、わが国にとって必要不可欠な構成要素である。コミュニティや国家開発への女性の参画が何よりも重要であるが、現実には国家開発に対する女性の多大な貢献は十分認められているとは言いがたい。わが国の女性は単なる受け身の傍観者であってはならない。

女性のエンパワーメントのパートナーとしての男性

女性の中小企業経営者、島嶼議員や国会議員、教会の意思決定者、公的部門の最高経営責任者がより多く生まれる日が来ることを期待している。

わが国の将来の計画や開発に、より多くの女性が参画できる環境を作ってこそ、そのような日が実現する。

開発プロセスにおいて、女性は男性の対等なパートナーであってしかるべきである。

クック諸島国家女性政策は、女性もコミュニティに参画するという、島民、とりわけ女性の開発に関するビジョンや期待を反映したものであり、女性政策は、女性の総合的な開発に努力を傾注し、人的資源の開発と意思決定のあらゆる分野における女性の対等な機会に対する権利を保証することを意図している。女性の役割と責任は、家庭から労働力、地域開発、そして今や国家開発にまで拡大した。そのいっぽうで、女性は引き続き家庭と地域社会の安定剤としての役割を果たしている。

6. 参考文献

- クック諸島国家女性政策
- クック諸島国勢調査1996年（予備調査結果）
- クック諸島国家女性政策、2カ年行動計画
- 各国報告 ファナウラ・K・キングストーン著
- 1995年中国北京における国連世界会議に向けた準備活動

Ms. J. Mireya P. C. D. Franco 地域教育局第三専門長官 (グアテマラ)
Mr. Baudilio Diaz Sales 地域教育局地域教育長官 (グアテマラ)
Mr. Leonel O. Vielman Reyes 教育局地域訓練コーディネーター (グアテマラ)

《1998. 1.30 ~ 2. 1 : 開発と女性に関する文化横断的調査研究》●●●●●●●●●●

Ms. Laxmi Keshari Manandhar トリブバン大学生生活科学及び女性開発学部長 (ネパール)
Dr. Govind Kelkar アジア工科大学環境・資源・開発学部ジェンダー・開発学センター長 (タイ)
Dr. Nongluck Suphanchaimat コンケン大学農学部農業経済学科教授 (タイ)

《1998. 1.27 ~ 2.26 : 女性の教育問題担当官セミナー》●●●●●●●●●●

Ms. Shahana Begum 初等教育局事務局次長 (バングラデシュ)
Ms. Kuy Phala 教育・青少年・スポーツ省教育情報システムセンター所長 (カンボディア)
Ms. Nkamchor Emilia Nji 女性省女性局長 (カメルーン)
Ms. Sekoue Dehipieu Jeanne 国立教育・基礎育成省統計評価計画局調査官 (コートボール)
Ms. Linda Asturias de Barrios 文部省国内外協力局コーディネーター (グアテマラ)
Ms. Triwuli Nilawati 技術・職業教育局計画・評価課長 (インドネシア)
Ms. Roseline A. A. Onyuka 教育省ナヤンザ県教育長 (ケニア)
Ms. Alica Naomi Mkandawire 女性・青少年・地域事業省女性プログラム担当官 (マラウイ)
Ms. Daw Yi Yi May ミャンマー教育研究局上級研究官 (ミャンマー)
Ms. Khin-Lay Yi 歯科大学解剖学部長 (ミャンマー)
Ms. Gaiyabu Maria Innvendo 南太平洋大学センター所長 (ナウル)
Ms. Mah-I-Laqa Rafiq 教育省副教育アドバイザー (パキスタン)
Ms. Nesta Verian Sekwad 教育文化省教育委員長補佐 (タンザニア)

《1998. 3.26 : 視察》●●●●●●●●●●

Ms. Manju Kumari Shrestha 森林土壌保全省土壌保全局事務官補 (ネパール)

女性・家族関係雑誌記事インデックス

当会館婦人教育情報センター所蔵の和雑誌のうち、1996年にデータベース化された記事・論文の中から、女性の学習・研究に役立つものを掲載しています（排列は日本十進分類法に準拠）。WINET（情報検索サービス）では全データが検索できますので、あわせてご利用下さい。

凡例

No. 記事タイトル/執筆者名

雑誌名[巻号](発行年月) ページ数

分類 (記事番号)

0 総記	1 - 14	5 技術	901 - 947
1 哲学	15 - 25	6 産業	948 - 954
2 歴史	26 - 36	7 芸術	955 - 964
3 社会科学	37 - 852	8 言語	965 - 969
4 自然科学	853 - 900	9 文学	970 - 989

総記

1. 女性とメディア戦争と情報操作 / あごら
あごら [218](1996.05) p.19-58
2. WINETのこれから / 青島なな子
女性施設ジャーナル [2](1996) p.38-41
3. エンパワーメントに欠かせない情報リテラシー / 結城美恵子
女性教養 [527](1996.09) p.3-6
4. 韓国における「女性とメディア研究」の動向 / 鄭好善
女性学 [4](1996) p.59-82
5. 女性図書館員の誕生：大正期に図書館員教習所で学んだ女性たちを中心として / 宮崎真紀子
図書館界 [47-6](1996.03) p.342-346
6. 映像資料の収集と提供：横浜女性フォーラムの場合 / 大谷昌子
女性施設ジャーナル [2](1996) p.60-66
7. 図書の収集と提供：足立区女性総合センターの場合 / 下村美恵子[ほか]
女性施設ジャーナル [2](1996) p.68-73
8. 女性センター情報ライブラリーの活動 / 尼川洋子
女性施設ジャーナル [2](1996) p.30-36
9. 「女性とメディア」動向レポート：栗田明子さんに聞く：日本の著作権の輸出者として / 「女性とメディア」研究会
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.94-97

10. 広報誌の果たしてきた役割と課題-185誌の分析から / 青木玲子
女性施設ジャーナル [2](1996) p.42-48
11. 「清き誌上でご交際を」：明治末期少女雑誌投書欄に見る読者共同体の研究 / 佐藤（佐久間）りか
女性学 [4](1996) p.114-141
12. 欠けている基本的な「人権尊重」：なぜ女性に対する犯罪は、正面から取り上げられないのか / 高里鈴代
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.25-29
13. 「会議」はどう報道されたか：朝日・毎日・読売新聞の紙面分析から / 村松泰子, 藤原千賀
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.74-80
14. 女のことは「女の新聞」でなければ分らない / 米田禮子
女性施設ジャーナル [2](1996) p.119

哲学

15. 中学生の恋愛意識と行動 / 宮武朗子[ほか]
横浜国立大学教育紀要 [36](1996.10) p.173-196
16. 「女性である」ことをめぐって / 平島奈津子
Imago [7-13](1996.12) p.178-179

17. 成人期のアイデンティティ発達における「関係性」の側面について：理論的展望と生活レベルに見られる2,3の問題 / 岡本祐子
広島大学教育学部紀要.第2部 [44] (1996.03) p.145-154
18. 自己臭を気にする未婚女性と連想テスト / 小林俊雄
家庭科教育 [70-2] (1996.02) p.61-65
19. 幼児虐待と多重人格障害 / 上田紀行
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.124-131
20. フェミニズムとしての狂気 / ドーン・メンケン ; 杉浦悦子訳
Imago [7-12] (1996.11) p.101-117
21. 高齢者に対する音楽療法プログラムに関する一考察 / 手塚実, 武田千代美
島根大学教育学部紀要.人文・社会科学 [30] (1996.12) p.21-35
22. ある前思春期女子の心の成長過程における攻撃性の取り入れについて：拒食・不登校を呈したA子の箱庭療法過程 / 増澤菜生, 橋玲子
新潟大学教育学部紀要 [37-2] (1996.03) p.235-243
23. 心身障害児を持つ母親の心理 / 鈴木光子, 木村宏子, 辻田陽子
弘前大学教育学部紀要 [75] (1996.03) p.99-111
24. 細い本を読む / スーザン・ボルドー ; 杉浦悦子訳
Imago [7-2] (1996.02) p.46-67
25. アリスの困惑：思春期における身体異和と精神病理 / 山登敬之
Imago [7-2] (1996.02) p.36-45

歴史

26. 原始古代の女性と戦争 / 今井堯
歴史評論 [552] (1996.04) p.2-11
27. 中世の合戦と女性の地位 / 田端泰子
歴史評論 [552] (1996.04) p.12-23
28. 15年戦争下の国民統合政策と女性 / 堀サチ子
歴史評論 [552] (1996.04) p.24-34
29. 「従軍慰安婦」問題の解決のために：責任を任うべき主体は誰か / 吉見義明
世界 [626] (1996.09) p.44-49
30. クマラスワミ報告と慰安婦問題 / 秦郁彦
千葉大学法学論集 [11-2] (1996.08) p.9-54
31. 戦争と性とアジア：インドネシアの「慰安婦」問題 / 川田文子
神奈川大学評論 [25] (1996.11) p.97-105
32. 元日本軍兵士の変わらない性意識 / 池田恵理子
アジアに生きる女たちの21世紀 [9] (1996.12) p.49-52

33. ヴァージニア・ヘンダーソンの足跡 / 小玉香津子
看護 [48-8] (1996.06) p.32-41
34. 渤海小考その2：女帝と交流の礎石 / 森田豊
国際文化研究所紀要 [2] (1996.08) p.49-63
35. 平安前期の貴族の「家」と女性：北政所成立の前提と妻 / 服藤早苗
昭和女子大学女性文化研究所紀要 [18] (1996.09) p.79-94
36. 女性解放思想史講座：マーガレット・ミッチェル：信念と行動力に満ちた最後のサザン・ベル / 安田容子
季刊女子教育もんたい [66] (1996.冬) p.95-103

社会

37. 女性の政治参画：一人ひとりの参画から / 国広陽子
女性教養 [519] (1996.01) p.3-6
38. 近代日本の国家と家族に関する一考察：大正期・内務官僚の思想に見る / 加藤千香子
横浜国立大学人文紀要.第1類.哲学・社会科学 [42] (1996.10) p.1-18
39. The New Morality を求めて：急進的フェミニスト・ジャーナル The Freewoman 研究(2) / 風間末起子
総合文化研究所紀要 [13] (1996) p.19-30
40. アメリカにみる選挙と女性団体 / 久保公子
月刊婦人展望 [476] (1996.10) p.10-11
41. 女性参政50周年女性の政治参画シリーズ 第4回：審議会と女性 / 井波良子, 縫田暉子, 久保公子
月刊婦人展望 [473] (1996.07) p.12-14
42. インタビュー：女性議員調査にとりくむIPUのクリスティーヌ・ピンタットさん / クリスティーヌ・ピンタット, 久保公子
月刊婦人展望 [472] (1996.06) p.9-11
43. 女性議員を増やすために / 渡辺光子
くらしと教育をつなぐ We [5-4] (1996.07) p.16-24
44. 参政権50年,問われる女性の政治参画の内実：ジェンダーに敏感な視点で社会構造を問うものに / 津和慶子
季刊女子教育もんたい [68] (1996.夏) p.21-26
45. 婦選獲得同盟の地域活動 / 伊藤康子
中京女子大学研究紀要 [30] (1996.03) p.37-48
46. 39人の第1期婦人代議士：民主改革の星たち / 大海薫子
日米女性ジャーナル [20] (1996.05) p.31-55
47. 全女性候補者の選挙結果：現憲法下では最多の23人が当選
月刊婦人展望 [477] (1996.12) p.8-12

48. 世界女性国会議員比率ランキング：日本は衆院120位・参院20位
月刊婦人展望 [477](1996.12) p.13-15
49. ノルウェー男女平等オンブッドに聞く / 三井マリ子, アンネ・リーゼ・リーエル
婦人公論 [81-13](1996.12) p.262-268
50. 女性学序説：女性にとっての戦争と平和 / 三木秀雄
武蔵野短期大学研究紀要 [10](1996) p.53-60
51. 第49回国連広報局NGO総会に出席して / 飯島松美
国際女性 [10](1996.12) p.43-45
52. 外交と対外政策における女性の役割の変遷 / 飯倉章
国際文化研究所紀要 [2](1996.08) p.1-24
53. 女性・子どもの人権と基地・軍隊 / 桑江テル子
月刊自治研 [38-8](1996.08) p.69-77
54. 武力によらない国際社会を：行動綱領の実行を求めて / 桑江テル子
月刊社会教育 [40-9](1996.09) p.29-35
55. 男女平等条項の成果と課題：ペアテ草案の今日的意義 / 星野安三郎
季刊女子教育もんだい [68](1996.夏) p.4-12
56. 「日本人の配偶者等」の在留資格と婚姻の破綻をめぐって：最近の裁判例を中心として / 山神進
国際人流 [9-10](1996.10) p.23-29
57. 夫婦別姓のシチュアション / 丸山茂
神奈川大学評論 [25](1996.11) p.154-164
58. 「同じであること」と「同じでないこと」：子どもにとっての「夫婦別姓制」 / 本田和子
法律のひろば [49-6](1996.06) p.40-43
59. 協議上の離婚の「効果」：子の面接交渉、養育費分担、財産分与をめぐって / 水谷英夫, 小島妙子
法律のひろば [49-6](1996.06) p.50-56
60. 女性の意識変化を映し出した調査結果 / 小島明日奈
世界と人口 [270](1996.09) p.26-30
61. 多様な家族を認める社会に / 沼崎一郎
世界 [624](1996.07) p.98-105
62. いくつもの「ほんとうの名前」 / 清水真砂子
世界 [624](1996.07) p.108-112
63. <母の親権>の誕生：近代家父長制分析の一試論 / 広井多鶴子
女性学 [4](1996) p.142-160
64. 婚姻法に関する若干の初期判決(4) / 関彌一郎
横浜国立大学人文紀要, 第1類, 哲学・社会科学 [42](1996.10) p.37(100) -61(76)
65. 国際養子縁組の最近の動向：日本の国際養子縁組の法制度化を考える / 森恭子, 大槻弥栄子
社会福祉 [37](1996) p.114-123
66. 民法改正と女性：「五年別居離婚」を中心に / 小林和恵
月刊女性&運動 [159](1996.01) p.18-21
67. からだ・性・居場所をめぐる自己決定と婚姻法制度：日本国憲法24条・22条から考える / 星野澄子
季刊女子教育もんだい [68](1996.夏) p.27-34
68. 日本の家族と戸籍制度 / 福島瑞穂
月刊自治研 [38-6](1996.06) p.18-25
69. 民法改正要綱の到達点と課題 / 吉岡睦子
月刊自治研 [38-6](1996.06) p.26-33
70. 「戸籍制度」がもたらす問題を考える / 駒井昭雄[ほか]
月刊自治研 [38-6](1996.06) p.67-79
71. 実親子関係とDNA鑑定・序説 / 椿寿夫
ジュリスト [1099](1996.10.15) p.29-35
72. 海外法律情報：シンガポール：「女性憲章」の改正
ジュリスト [1087](1996.04.01) p.113
73. DNAを利用した親子鑑定 / 勝又義直
ジュリスト [1099](1996.10.15) p.94-98
74. 海外法律情報：ドイツ：夫婦間強姦可罰化のための刑法改正案 / 齋藤純子
ジュリスト [1088](1996.04.15) p.80
75. 女性の地位向上のためのナイロビ将来戦略実施のモニタリング：その他の問題：女子差別撤廃条約への選択議定書草案の検討
国際女性 [10](1996.12) p.90-101
76. 女子差別撤廃条約における個人通報制度の検討について / 米田眞澄
国際女性 [10](1996.12) p.63-69
77. 第15回女子差別撤廃委員会の報告 / 佐藤ギン子
国際女性 [10](1996.12) p.12-13
78. 女子差別撤廃委員会 (CEDAW) 第15会期の活動について / 米田眞澄
国際女性 [10](1996.12) p.14-17
79. CEDAW第15会期における各国レポート：審議概要：国連報告書の抄訳 / 国際女性編集委員会訳
国際女性 [10](1996.12) p.25-39
80. 第50回国連総会第三委員会報告 / 目黒依子
国際女性 [10](1996.12) p.5-7
81. 経済学とジェンダー：性別賃金格差論を手がかりに / 中川スミ
賃金と社会保障 [1188](1996.10) p.4-16
82. 男性優位の経済政策を見直す / マリリン・ウォーリング
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.53-60
83. 構造調整とは何か / パメラ・スパー
アジアに生きる女たちの21世紀 [6](1996.03) p.44-48
84. 主要国女子の年齢別出生率および合計特殊出生率：最新資料
人口問題研究 [51-4](1996.01) p.70-75

85. 女性の意識の変化に対応できる政策であること / 織田輝哉
こども未来 [293](1996.02) p.8-11
86. 海外の文献から：アフリカに見る男性の理想子供数と家族計画
世界と人口 [269](1996.08) p.10-17
87. 横浜国際女性フォーラム：21世紀を考える：開発人口女性/ナフィス・サディック[ほか]
世界と人口 [268](1996.07) p.6-12
88. 対談 女性の健康と幸せのために：「世界人口デー」記念・特別シンポジウムから
世界と人口 [270](1996.09) p.7-13
89. IPPFのビジョン：女性のエンパワメントのために / アティヤ・イナヤトウラ
世界と人口 [267](1996.06) p.46-51
90. 低出生率と公共政策 / 宮島洋
AGING [14-2](1996.秋) p.10-17
91. イスラム教は家族計画を支持している / 谷口裕
世界と人口 [262](1996.01) p.6-13
92. ベーベルの女性論再考(第2報) Die Frau und der Sozialismusにおける人口と女性：「グリッペン女性史コレクション」を利用して / 伊藤セツ
昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要 [5](1996.03) p.51-61
93. 少子化の動向とその要因 / 「少子化問題」共同調査班
立法と調査 [別冊](1996.03) p.2-10
94. 香港の蓋を開けてみれば：繁栄した香港の影で女性たちは？ / サカモトサンディ
女性学年報 [17](1996) p.143-147
95. 企業家特性の構成要素とその獲得過程の分析：生涯企業家教育モデル構築の試み / 鹿住倫世
生活社会科学研究 [3](1996.09) p.105-117
96. 「ジェンダー・ニュートラル」な人事考課をもとめて / 黒田兼一
賃金と社会保障 [1170](1996.01.25) p.36-42
97. ガラスの天井をなくすために：アメリカ連邦政府「ガラスの天井委員会」報告書
日米女性ジャーナル [20](1996.05) p.73-75
98. 秘書教育における情報教育 / 水谷啓子
一宮女子短期大学紀要 [35](1996.12) p.97-103
99. 戦後日本市場の発展における女性の役割(1) / 渡辺好章
国際文化研究所紀要 [2](1996.08) p.77-106
100. 夫婦連名預金の法的性質(上)：財産面における夫婦の「個と共同性」に関する一考察 / 大村敦志
ジュリスト [1102](1996.12) p.63-67
101. 夫婦連名預金の法的性質(下)：財産面における夫婦の「個と共同性」に関する一考察 / 大村敦志
ジュリスト [1103](1996.12) p.91-98
102. 女性統計の国際的展開 / 田中尚美
統計 [47-4](1996.04) p.1-6
103. 日本におけるジェンダー統計 / 伊藤陽一
統計 [47-4](1996.04) p.7-12
104. ジェンダー統計の国際的展開と日本の課題 / 杉橋やよい
女性労働研究 [30](1996.07) p.32-36
105. 全国人口の再生産に関する主要指標1995年人口問題研究 [52-3/4](1996.11) p.49-57
106. 都道府県別女子の年齢(5歳階級)別出生率および合計特殊出生率
人口問題研究 [52-3/4](1996.11) p.65-69
107. 子どものテレビ政策：子どもの権利とメディア・リテラシー
fct GAZETTE [16-60](1996.11) p.1-6
108. カナダにおける子どものテレビ政策：テレビの暴力(テレビ暴力)から子どもたちをどうやって守るか
fct GAZETTE [16-60](1996.11) p.8-11
109. 欧米にみる 子どもに及ぼす映像描写の影響研究 / 小平さち子
放送研究と調査 [46-9](1996.09) p.2-21
110. 若者文化と私たちの課題：メディア文化と性文化を中心にして / 池谷壽夫
教育 [46-3](1996.03) p.18-26
111. 世界における「メディアについての教育(ME)」事情 / 猪股富美子
fct GAZETTE [15-58](1996.03) p.14-15
112. 青少年の外国や社会に対する意識：日本とフィンランドの比較調査から / 川竹和夫, 原由美子, 杉山明子
放送研究と調査 [46-4](1996.04) p.42-51
113. 女性たちはいま：日本：「差別」より恐い「無関心」：諦めきれない、ごまかしきれない溝 / 朴香樹
季刊女子教育もんだい [67](1996.春) p.100-103
114. 中国映画とテレビにおける女性像 / 銭有ギョク
アジア女性研究 [5](1996.03) p.92-94
115. 東京女子高等師範学校卒業生の戦後50年：昭和18年～20年卒業生のライフコース / 湯沢雅彦, 古谷恵子
生活社会科学研究 [3](1996.09) p.7-27
116. 東京女子高等師範学校卒業生のライフコースにおけるコーホート間差異：大正末期および戦争末期卒業コーホートの比較
生活社会科学研究 [3](1996.09) p.29-42
117. 卒業生の社会活動の状況 / 鶴家栄里子
東京女子大学社会学会紀要：経済と社会 [別冊](1996) p.23-29

118. 職業歴パターン別にみる社会活動 / 小池香織, 平松香枝, 中山理恵
東京女子大学社会学会紀要: 経済と社会 [別冊] (1996) p.30-36
119. 現代都市の女性のエンパワーメント: 都市・ジェンダー・権力の組織化をめぐる / 矢澤澄子
東京女子大学社会学会紀要: 経済と社会 [24] (1996) p.1-27
120. 都市化と女性 / 芦野由利子 [ほか]
世界と人口 [271] (1996.10) p.6-22
121. 家族をめぐる新しい風: 法律相談の現場から / 富岡恵美子
生活研究 [27-3] (1996.08) p.48-63
122. 被差別部落女性のライフ・ヒストリー / 木村涼子
人間関係論集 [13] (1996.03) p.37-98
123. 社会変化と子産み・子育ての変容: 東北農業地区と四国漁業地区の事例研究から / 中山まき子, 高橋由紀
家庭教育研究所紀要 [18] (1996) p.91-103
124. (食)と(母)と(女)をめぐる一考察: ペルー文化を中心に / 山脇千賀子
母子研究 [17] (1996.03) p.18-29
125. 遺族年金と男女平等 / 島田とみ子
女性労働 [21] (1996.09) p.106-111
126. 家計・家族・生活問題のこの10年間と今後の展望 / 喜多村治雄, 一番ヶ瀬康子, 江見康一
季刊家計経済研究 [32] (1996.秋) p.8-17
127. 社会保障とジェンダー・エクイティ / 上掛利博
女性労働研究 [30] (1996.07) p.37-41
128. 経済審議会雇用・労働ワーキング・グループ報告書: 配偶者控除・配偶者特別控除の撤廃提言をどうみるか / 杉井静子
賃金と社会保障 [1190] (1996.11.25) p.4-7
129. 社会保障制度審議会の勧告をめぐる / 栃本一三郎
世界の児童と母性 [41] (1996.10) p.9-13
130. 社会保障制度の性差別をなくすためには, 個人単位の普遍主義に変える必要がある / 伊田広行
女性と仕事ジャーナル [4] (1996.08) p.55-69
131. 国民年金第3号被保険者の保険料について: 家事労働評価とかかわらせて / 塩田咲子
高崎経済大学論集 [38-4] (1996.03) p.49-71
132. 高齢者介護のマンパワー問題: 介護保険制度との関連から / 篠塚英子
季刊社会保障研究 [32-3] (1996.Winter) p.293-309
133. 家庭内の男女平等促進のための課題: 行動綱領の提起しているもの / 杉井静子
自由と正義 [47-2] (1996.02) p.109-112
134. 連載「妻の座」を問う 2: 健康保険・年金制度から考える / 杉井静子
月刊女性 & 運動 [161] (1996.03) p.26-29
135. 女性と年金 / 堀勝洋
季刊社会保障研究 [31-4] (1996.Spring) p.353-367
136. 「公的介護保険」をめぐる / 古橋エツ子
女性と労働 [4-16] (1996.04) p.16-26
137. 21世紀福祉ビジョンの点検: 保健医療・介護の供給システムについて / 城戸喜子
女性と労働 [4-16] (1996.04) p.27-40
138. 女性と年金 / 大石亜希子
季刊年金と雇用 [15-2] (1996.08) p.35-45
139. 都市における継承世代家族の住宅および住生活の特質・動向とその家族の論理に関する研究(1) / 大岡敏昭
熊本県立大学生活科学部紀要 [2] (1996.03) p.21-36
140. 茶の間と女性 / 平井聖
昭和女子大学女性文化研究所紀要 [18] (1996.09) p.61-77
141. HABITAT2 (第二回国連人間居住会議) 政府間会議を傍聴して / 加藤登紀子
あごら [220] (1996.08) p.119-122
142. ライフステージ別にみた父親の場に関する研究 / 中島喜代子, 草薨亜紀
三重大学教育学部研究紀要.人文科学・社会科学 [47] (1996.03) p.157-173
143. 同居住宅に関する研究(第2報): 親・子世帯の意識に影響を与える要因 / 佐藤美枝子, 沖田富美子
日本家政学会誌 [47-9] (1996.09) p.93-102
144. 世界の都市化と「ハビタット2」: WACLA会議を中心に / 東郷尚武
都市問題 [87-9] (1996.09) p.101-115
145. 家計における消費支出指標と平均余命の都道府県別動向 / 酒井映子
名古屋女子大学紀要家政・自然編 [42] (1996.03) p.59-68
146. 共働き世帯の家計構造 / 時子山ひろみ
生活の設計 [184] (1996.06) p.21-26
147. 教育関係費におよぼす子ども数の効果 / 堤伸子
日本家政学会誌 [47-4] (1996.04) p.25-31
148. 都市居住の有配偶女性の経済的条件とその課題: 家計・生計分析からみた都市生活の一断面として / 久米礼子
日本女子大学人間社会研究科紀要 [2] (1996) p.115-130
149. 子どもにとっての教育と教育費 / 本間三和子
教育と情報 [464] (1996.11) p.2-5
150. シニア女性の衣料購入と生活行動について / 赤星礼子, 甲斐今日子
家庭科教育 [70-10] (1996.10) p.74-78

151. 「自由時間」のジェンダーギャップ：ドイツにおける雇用者の時間認識に関する事例研究 / 柚木理子
家庭経営学研究 [31](1996.03) p.57-64
152. 既婚女性の家事時間配分とライフスタイル / 品田知美
家族社会学研究 [8](1996) p.163-173
153. 日本人の生活時間・1995年：新方式調査の結果から / 牧田徹雄, 吉田理恵
放送研究と調査 [46-3](1996.03) p.30-45
154. 占領下の日本における家庭科教育の成立と展開(1) : M.ウィリアムソンの果たした役割 / 柴静子
広島大学教育学部紀要.第2部[44](1996.03)p.133-143
155. 高齢化社会における食生活家事労働の社会化 / 伊藤純, 伊藤セツ
日本家政学会誌 [47-2](1996.02) p.21-26
156. 男性の家事行動に対する余暇としての意識：帯広市における / 下坂智恵, 下村道子
日本家政学会誌 [47-2](1996.02) p.27-35
157. 座談会：平成8年社会生活基本調査への期待 / 伊藤セツ[ほか]
統計 [47-7](1996.07) p.23-32
158. 東京都世田谷区在住雇用労働者夫妻の生活時間1995年調査(第3報)：組織文化におけるジェンダーロールが生活時間に及ぼす影響 / 齋藤悦子, 水野谷武志, 伊藤セツ
日本家政学会誌 [47-9](1996.09) p.21-26
159. 家事の経済的重要性 / 武藤博道
統計 [47-7](1996.07) p.3-7
160. 子どもの生活リズムに関する一考察：幼稚園児の実態調査を通して / 岸本弘子, 糸井昌子
紀要 [28](1996) p.131-161
161. 生活改善問題と女性 / 小山静子
女性学年報 [17](1996) p.56-65
162. 日本の消費者運動史:地婦連の歩みと田中里子 / 小林嬌一
月刊消費者 [437](1996.01) p.44-49
163. 初の専門紙「アンペイドワーク」を創刊するまで / 又木京子
アジアに生きる女たちの21世紀[8](1996.09)p.25-28
164. 生活者運動の形成にむけて：生活クラブ生協を事例として / 天野正子
都市問題 [87-10](1996.10) p.29-42
165. 90年代生協運動の可能性7：市民社会の成熟と生活クラブ：座談会「ジェンダーと生活クラブ」を読んで / 池田徹
社会運動 [198](1996.09) p.22-33
166. ワイワイフォーラム生活クラブ運動と女性性：いま、改めて考える女性であるということ / 清水亮子
社会運動 [195](1996.06) p.16-19
167. 90年代生協運動の可能性6：座談会：ジェンダーと生活クラブ：ワイワイフォーラム「生活クラブと女性性」を終えて / 久場燿子[ほか]
社会運動 [196](1996.07) p.2-2
168. 消費生活相談にみる男性消費者の特徴 / 調査研究部
国民生活研究 [36-1](1996.06) p.39-54
169. 生命系文明時代と家庭経営学におけるリプロノミックス / 長嶋俊介
家庭経営学研究 [31](1996.03) p.25-31
170. 生活経済とジェンダー関係の変容 / 御船美智子
家庭経営学研究 [31](1996.03) p.32-39
171. 日本と韓国の食生活に関する家事の省力化と安全性に対する意識と行動 / 竹中由香, 姜守貞
季刊家計経済研究 [31](1996.夏) p.74-79
172. 農村の中老年女性における老後意識の追跡研究(第1報)：1982年と1993年における出生コーホート内変化 / 佐藤宏子
日本家政学会誌 [47-2](1996.02) p.37-48
173. 消費者問題に関わる10年の理論の展開と今後の課題 / 鈴木深雪
季刊家計経済研究 [32](1996.秋) p.70-77
174. 生活時間調査の国際動向について：第18回国際生活時間学会ウィーン会議出席報告 / 三矢恵子
放送研究と調査 [46-12](1996.12) p.54-55
175. 女性の就労と資格：消費生活アドバイザーを例として / 野城尚代
日本女子大学紀要.家政学部 [43](1996) p.143-152
176. 戦後50年の家計とこれからの家計 / 御船美智子
季刊家計経済研究 [29](1996.冬) p.27-38
177. 均等法・女子保護規定見直し問題：(公益委員案)とゼンセン同盟の意見：1996年11月末賃金と社会保障 [1192](1996.12.25) p.69-72
178. 全国の婦人少年室における10年間の男女雇用機会均等業務の取組 / 労働省婦人局婦人政策課 婦人と年少者 [118](1996.12) p.12-14
179. 均等法時代から家族的責任の時代へ / 金子雅臣
はたらく女性 [44](1996.11) p.11-15
180. 雇用差別とポジティブ・アクション / 浅倉むつ子
国際女性 [10](1996.12) p.55-58
181. 労働問題：雇用における男女平等 / 寺沢勝子
自由と正義 [47-2](1996.02) p.107-109
182. 新法令紹介 167：育児休業等に関する法律の一部を改正する法律(平成七年法律第七七号) / 及川千春
自由と正義 [47-2](1996.02) p.115-122
183. 均等法・労基法の改正をめぐって / 坂本福子
婦人通信 [443](1996.02) p.36-39

184. 「女性のみ」又は「女性優遇」の措置についての考え方について：男女雇用機会均等問題研究会報告の概要／婦人局婦人政策課
労働時報 [49-1](1996.01) p.48-51
185. 女子雇用管理の現状と問題点／込田晶代
労務事情 [880](1996.07.15) p.8-13
186. 婦人少年問題審議会婦人部会における審議状況について／労働省婦人局婦人政策課
婦人と年少者 [117](1996.09) p.3-7
187. ILO家内労働条約及び勧告について／荒竜夫
婦人と年少者 [117](1996.09) p.12-14
188. 均等法施行10年目の女子雇用の状況／労働省
労働経済旬報 [50-1557](1996.04.05) p.49-54
189. 男女共通基盤の形成に向けて：連合の男女雇用機会均等法・労基法改正について：連合女性局次長に聞く／吉宮聰悟
労働経済旬報 [50-1562](1996.06.20) p.4-8
190. 「男女雇用機会均等法等改正要求案」と今後の取り組みについて／連合
労働経済旬報 [50-1562](1996.06.20) p.20-24
191. カナダ・オンタリオ州「雇用衡平法」の廃止と経営側の動向／木村愛子
世界の労働 [46-1](1996.01) p.54-58
192. 米国三菱自動車セクシュアル・ハラスメント事件：その全容／柏木宏
賃金と社会保障 [1184](1996.08.25) p.5-17
193. 均等法・女子保護規定の見直し審議状況／婦少審婦人部会
賃金と社会保障 [1184](1996.08.25) p.36-41
194. 均等法改善提言／日本弁護士連合会
賃金と社会保障 [1184](1996.08.25) p.41-44
195. 性差別禁止法の制定を求める／ワーキング・ウイメンズ・ネットワーク
賃金と社会保障 [1184](1996.08.25) p.45-48
196. 実効ある均等法に、女子保護規定撤廃反対／全労連
賃金と社会保障 [1184](1996.08.25) p.48-49,74
197. 男女雇用機会均等法・労基法等改正案／日本労働組合総連合会
賃金と社会保障 [1184](1996.08.25) p.50-57,74
198. ILOにおける男女労働者の「平等と保護」／木村愛子
女性と仕事ジャーナル [4](1996.08) p.7-13
199. ECの女性政策：第三次男女機会均等推進中期行動計画（1991年～1995年）／石田久仁子訳
女性と仕事ジャーナル [4](1996.08) p.14-22
200. 多い女性の無償労働：日本は男性の九倍：「ILO行動ガイドライン」
婦人通信 [452](1996.10) p.23-24
201. ILO：ヨーロッパの労働裁判所：国際基準の適用と性差別の禁止／浅倉むつ子
世界の労働 [46-9](1996.09) p.41-47
202. 今日の雇用差別と均等法改正の課題／浅倉むつ子
女性労働研究 [30](1996.07) p.53-58
203. 女子保護規定解消から男女共通規定へ：連合の均等法・労基法改正要求案／吉宮聰悟
季刊女子教育もんだい [69](1996.秋) p.12-19
204. 女性差別を再編強化した均等法：男女ともに適用される性差別禁止法／中島通子
季刊女子教育もんだい [69](1996.秋) p.20-27
205. 均等法実践ネットワーク講座からWWNへ：男女賃金差別撤廃に向けて／宮地光子
季刊女子教育もんだい [69](1996.秋) p.28-34
206. 労働法制改定の動向と女性労働者／井上幸夫
女性労働研究 [30](1996.07) p.47-52
207. 均等法の施行と女性の就業環境の変化：資料・調査にみる10年間／高橋桂子
季刊女子教育もんだい [69](1996.秋) p.4-11
208. 均等法および女子保護規定に関する意識／日本労働組合総連合会
労政時報 [3284](1996.12.13) p.31-35
209. アイルランドにおける女性労働と家族の在り方をめぐる法政策の展開／増田幸弘
海外社会保障情報 [117](1996.Winter) p.28-39
210. 男女平等と雇用機会均等法／小林美津江
立法と調査 [196](1996.11) p.24-27
211. 諸外国の男女雇用機会均等法制と「女子のみ」の措置、女子保護規定について／労働省婦人局
女性労働 [21](1996.09) p.83-91
212. 連合の「男女雇用機会均等法・労基法改正要求」／連合第22回中央委員会
女性労働 [21](1996.09) p.27-33
213. 均等法十年の検証と改正の課題／中島通子
女性労働 [21](1996.09) p.4-10
214. 男女平等雇用の実現とアフターマティブ・アクション／山岡照子
女性労働 [21](1996.09) p.34-52
215. EU(EC)労働・社会政策に関する立法過程の展開：雇用平等に関する理事会指令について／柴山恵美子
生活文化研究 [7](1996.03) p.3-28
216. ゼンセン同盟における女子保護規定撤廃に対する考え方について／秋元かおる
月刊自治研 [38-9](1996.09) p.77-81
217. 均等法・労基法改正をめぐって／奥山明良
月刊自治研 [38-9](1996.09) p.30-36
218. 男女平等と母性・女性保護をめぐる国際的動向／山田省三
月刊自治研 [38-9](1996.09) p.45-53
219. 女性労働行政の抱える課題：ジェンダーの視点から／金子雅臣
月刊自治研 [38-9](1996.09) p.54-58

220. 労働力の女性化と雇用平等 / 金井淑子, 岡沢憲美
月刊自治研 [38-9] (1996.09) p.18-29
221. 均等法下の女子短大生 : 超氷河期時代の差別と課題 / 柴山恵美子
教育評論 [594] (1996.11) p.34-39
222. 男女雇用機会均等法 : 今、問われているもの / 中野麻美
教育評論 [594] (1996.11) p.44-50
223. 婦人少年問題審議会婦人部会における 審議状況について / 労働省婦人局婦人政策課
教育評論 [594] (1996.11) p.10-18
224. 雇用における男女平等の実現を / 高島順子
教育評論 [594] (1996.11) p.26-29
225. 差別禁止から「格差」解消へむけて : 均等法10年目の課題 / 浅倉むつ子
神奈川大学評論 [23] (1996.03) p.163-169
226. OECD「経済における女性の役割作業部会」に参加して / 田口晶子
婦人と年少者 [115] (1996.03) p.21-23
227. 女性現場労働者の夜間労働禁止と平等原則 : ドイツ連邦憲法裁判所判決を中心に / 倉田原志
大阪教育大学紀要 2. 社会科学・生活科学 [44-2] (1996.02) p.63-74
228. 強力なナショナル・マシーナリーの活動 イギリスから学ぶこと / 浅倉むつ子
婦人通信 [446] (1996.04) p.26-30
229. インド「貧困」女性の開発言説受容に関する一考察 : 女性開発NGO・SEWA会員の語りを中心に / 喜多村百合
アジア女性研究 [5] (1996.03) p.38-44
230. イタリアにおける男女平等のためのポジティブ・アクション(上) : ポジティブ・アクション法第125号の理解をめぐって / 亀田利光
大原社会問題研究所雑誌 [453] (1996.08) p.1-19
231. イタリアにおける男女平等のためのポジティブ・アクション(中) : ポジティブアクション法第125号の理解をめぐって / 亀田利光
大原社会問題研究所雑誌 [454] (1996.09) p.23-36
232. イタリアにおける男女平等のためのポジティブ・アクション(下) : ポジティブアクション法第125号の理解をめぐって / 亀田利光
大原社会問題研究所雑誌 [455] (1996.10) p.21-40
233. 均等法10年の再検討 / 花見忠
季刊労働法 [178] (1996.05) p.2-10
234. 雇用機会均等法から性差別禁止法へ / 山田省三
季刊労働法 [178] (1996.05) p.12-28
235. 均等法改正,カナダとアメリカからの示唆 / 桑原昌宏
季刊労働法 [178] (1996.05) p.29-54
236. 性差別救済手続きに関する提言 / 中野麻美
季刊労働法 [178] (1996.05) p.55-70
237. 均等法下の雇用差別の実態 : 「女子学生の就職難」の視点から / 磯哲司
季刊労働法 [178] (1996.05) p.71-79
238. カナダにおける男女同一価値労働同一賃金法制の展開と課題 (1) / 木村愛子
季刊労働法 [178] (1996.05) p.82-104
239. 働く女性の裁判 : 丸子警報器臨時労働者賃金差別事件
女性と労働21 [5-17] (1996.08) p.90-93
240. 「婦人少年問題審議会婦人部会における審議状況」について / 林陽子
女性と労働21 [5-17] (1996.08) p.7-13
241. 構造的男女差別の是正とポジティブ・アクション / 浅倉むつ子
女性と労働21 [5-17] (1996.08) p.14-23
242. 労働者派遣法の改正とこれからの課題 / 中野麻美
女性と労働21 [5-17] (1996.08) p.24-34
243. 「男女雇用機会均等法改正要求案」と今後の取り組みについて / 日本労働組合総連合会
女性と労働21 [5-17] (1996.08) p.35-49
244. 雇用における男女平等の確立等に関する要請 / 中村紀伊, 中村道子, 松浦三知子
女性と労働21 [5-17] (1996.08) p.50-52
245. 在米日系企業におけるセクハラ対策 / 若林喬
ジュリスト [1097] (1996.09.15) p.63-68
246. わが国におけるセクシュアル・ハラスメントの私法的救済 / 山川隆一
ジュリスト [1097] (1996.09.15) p.69-75
247. 各省庁にみる「男性と子育て」の取り組み : 職業・家庭生活との両立支援対策の総合的,体系的推進 / 川村徹宏
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.74-76
248. 海外法律情報 : カナダ : 雇用衡平法の全面改正 / 齋藤憲司
ジュリスト [1092] (1996.06.15) p.68
249. 景気の安全弁になっている女子高校生 / 井上恭宏
教育評論 [594] (1996.11) p.40-43
250. 四大卒女子の就職状況 : 均等法で何が変わったか? / 木村陽子
女性労働 [21] (1996.09) p.74-82
251. 均等法一期女性の在職率は三割弱 : 均等法施行10年・上場企業の女性社員の処遇と活用調査 / 社会経済生産性本部
賃金と社会保障 [1178] (1996.05.25) p.61-65
252. 座談会 : パート・アルバイト及び転職に関する新しい調査結果 / 清家篤[ほか]
統計 [47-10] (1996.10) p.41-45
253. 雇用流動化・アウトソーシング・女性労働 / 奥田伸子
名古屋市立女子短期大学研究紀要 [56] (1996.03) p.79-95

254. アメリカにおける募集や採用時の差別の禁止
日米女性ジャーナル [20] (1996.05) p.69-72
255. 女性総合職退職者の自由記述意見：「女性総合職退職者追跡調査報告」より / 連合
労働経済旬報 [50-1563] (1996.07.05) p.44-53
256. 高齢労働者：第3章高齢女子労働者のかかえる諸問題 / LOIS B. SHAW ; 入江信子訳
明治大学短期大学紀要 [58] (1996.02) p.113-155
257. 経済が女性労働者を必要とする理由 / 大沢真知子
婦人と年少者 [117] (1996.09) p.22-24
258. 時間外・休日労働の制限不要は67.0%：「男女雇用機会均等にかかる女子労働者調査結果」 / 労働省
労務事情 [880] (1996.07.15) p.17-26
259. 働く女性の増加と課題 / 柴田知子
家庭科学 [62-4] (1996.08) p.24-29
260. 今後の働き方は専門職かジェネラリストか? : 卒業生調査卒業学科別にみる卒業生のライフスタイルから / 江頭説子
東京女子大学社会学会紀要：経済と社会 [別冊] (1996) p.19-22
261. 再・中途就職する女性の環境について / 朝倉めぐみ
東京女子大学社会学会紀要：経済と社会 [別冊] (1996) p.15-18
262. 働く女性の母性健康管理：事業所における母性保護の実施状況 / 草野隆彦
母子保健情報 [34] (1996.11) p.71-75
263. 夫婦の生活リズムに与える職業労働の影響 / 平田道憲
広島大学教育学部紀要・第2部 [45] (1996) p.191-198
264. 職場における女性の現状 / 福澤寧子
家庭科学 [62-4] (1996.08) p.59-62
265. 第4回女性の共同の輪ひろげて：民間放送で働く女性：深夜・徹夜・泊まり勤務実態調査から / 民放労連女性協議会
月刊女性 & 運動 [161] (1996.03) p.30-33
266. 座談会：職業生活と家庭生活の両立を考える / 河原畑剛 [ほか]
労働時報 [49-9] (1996.09) p.4-13
267. 「働く女性の身体と心を考える委員会」報告について / 労働省婦人局婦人労働課
婦人と年少者 [116] (1996.06) p.18-22
268. 芝信用金庫：昇進・昇格差別裁判をたたかって / 浜田邦子
賃金と社会保障 [1170] (1996.01.25) p.25-30
269. 育児休業制度が女性の就業行動に及ぼす影響 / 金子能宏
こども未来 [301] (1996.10) p.8-11
270. 女子保護規定の撤廃（労基法上の母性保護除く）
労政時報 [3284] (1996.12.13) p.36-38
271. 職種別男女間賃金格差 / 堀春彦
JILリサーチ [25] (1996.春) p.36-39
272. 日本の女性労働と低賃金化 / 中野麻美
アジアに生きる女たちの21世紀 [6] (1996.03) p.33-36
273. 下級審時の判例：正社員とパートタイマーの賃金格差の違法性：丸子警報器事件
ジュリスト [1094] (1996.07.15) p.99-101
274. なぜ丸子警報器の女性たちは立ち上がったのか：丸子警報器賃金差別訴訟 / 笹原恵
季刊女子教育もんたい [69] (1996.秋) p.87-92
275. イギリスの職務評価と同一価値労働同一賃金 / 高島道枝
女性労働研究 [30] (1996.07) p.59-65
276. 職場での女性賃金差別は正のたたかい / 高久行子
女性労働研究 [30] (1996.07) p.76-78
277. 賃金における統計的差別と法 / 山田省三
SEXUAL HUMAN RIGHTS [2] (1996.02) p.12-19
278. 賃金格差と賃金水準：男女賃金格差は正をめぐるいくつかの論点 / 中川スミ
賃金と社会保障 [1176] (1996.04.25) p.4-15
279. 男女賃金差別訴訟に勝訴して / 石崎本店・女性差別賃金訴訟を闘う川原洋子さんを支援する連絡会
あごら [223] (1996.11) p.28-34
280. いま、JRの職場では / 星砂の会事務局
あごら [223] (1996.11) p.24-28
281. 生協組合員によるワーカーズ・コープ：ワーカーズコープ・キュービックの事例 / 塚本一郎
大原社会問題研究所雑誌 [446] (1996.01) p.34-55
282. 多様化する雇用形態：パートタイム労働と契約労働：ILO：契約労働 / スラブ・エゴロフ
世界の労働 [46-12] (1996.12) p.21-25
283. ヨーロッパ諸国のパートタイム労働：ILO海外労働事情視察団報告について / 矢加部勝美
世界の労働 [46-12] (1996.12) p.8-13
284. 多様化する雇用形態：パートタイム労働と契約労働：ILO：パートタイム労働条約 / ビットリオ・ディ・マルチーノ
世界の労働 [46-12] (1996.12) p.14-21
285. 英国女子パートタイム就労の研究：「女性と雇用調査」の分析結果より / 白波瀬佐和子
生活社会科学研究 [3] (1996.09) p.89-103
286. 経済が女性労働者を必要とする理由(その2) / 大沢真知子
婦人と年少者 [118] (1996.12) p.15-17
287. 女性の就業意識に関する一考察：女子短大生の場合 / 根本由美子
山陽学園短期大学紀要 [27] (1996) p.47-57

288. 女子VDT作業者のコンピュータについての意識調査 / 零石礼子
岩手県立盛岡短期大学研究報告・生活科学・保育・共通編 [48](1996.03) p.69-75
289. 「開発」のパラダイムを変えるために：ネパールにおけるアンペイドワークの評価 / 田中雅子
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.49-51
290. アジア女性たちの無償労働と日本の私たち / 松井やより
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.41-46
291. 無報酬労働の測定と評価：二つの大きな「誤解」から解いていこう / 久場嬭子
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.3-5
292. 日本式経営とアンペイドワーク / 竹信三恵子
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.6-9
293. 家内労働とアンペイドワーク / 古田睦美
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.9-12
294. パート労働からみたアンペイドワーク / 酒井和子
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.13-15
295. 裁判で家事労働はどう計算されているか / 中野麻美
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.16-20
296. 臨時女性社員28名はなぜ裁判にふみ切ったか：JMIU丸子警報器支部と臨時社員差別撤廃への取り組み / 松澤秀紀
賃金と社会保障 [1180](1996.06.25) p.4-8
297. 「臨時社員」に対する差別は許されない：丸子警報器「臨時社員」差別事件判決が切り開いたもの / 岩下智和
賃金と社会保障 [1180](1996.06.25) p.9-15
298. 女性労働力の国際移動：ジェンダー視点からみた外国人労働者問題 / 天童睦子
東京女子大学社会学会紀要：経済と社会 [24](1996) p.85-98
299. パート労働者の法的地位 / 中下裕子
法律のひろば [49-7](1996.07) p.41-47
300. 生協におけるパート労働：その現状と課題：コープかながわパート労組員のアンケート調査にもとづいて / 八谷真智子
賃金と社会保障 [1170](1996.01.25) p.31-35
301. 心の健康を求めて10：女性の社会進出と性格傾向 / 牛島定信
教育と医学 [44-10](1996.10) p.86-92
302. 女子就業率の上昇と産業構造の変動 / 小川直宏
統計 [47-12](1996.12) p.11-17
303. 21世紀への女性運動女性労働運動 / 林陽子 [ほか]
女性労働研究 [30](1996.07) p.9-21
304. 労働・雇用におけるジェンダーの平等と女性の自立 / 池田資子
女性労働研究 [30](1996.07) p.27-31
305. 公開国際シンポジウム：「女性・労働・家族 - 日本と中国 - 」記録 / 有賀克明 [ほか]
生活文化研究 [7](1996.03) p.43-96
306. 日本における女性労働者の地位 / 柴山恵美子
生活文化研究 [7](1996.03) p.97-111
307. 均等法以降の女性の継続就業 / 篠塚英子
女性労働 [21](1996.09) p.53-61
308. 均等法十年目にみる中途求人広告と女性 / 高梨千恵
女性労働 [21](1996.09) p.62-67
309. 法律と現場：保護思想から平等への一断面 / 足立喜美子
女性労働 [21](1996.09) p.97-102
310. 女性労働研究の最近の動向 / 篠塚英子
季刊家計経済研究 [32](1996.秋) p.104-111
311. 仕事も家庭も 半分こ：現代社会における男女の役割 / 井田美恵子
放送研究と調査 [46-7](1996.07) p.58-61
312. 雇用平等への課題：差別をなくせない均等法 / 宮地光子
賃金と社会保障 [1170](1996.01.25) p.12-18
313. 就職差別は許さない：Girls, Be Ambitious! / 犬塚英華
賃金と社会保障 [1170](1996.01.25) p.19-24
314. 企業文化におけるジェンダーロールと日本的経営 / 斎藤悦子
賃金と社会保障 [1170](1996.01.25) p.57-65
315. 均等法10年の女性労働 / 竹信三恵子
女性教養 [520](1996.02) p.3-6
316. 10年目を迎えた均等法調査報告 / 連合
労働経済旬報 [50-1562](1996.06.20) p.29-42
317. 女性の離職・転職に影響を及ぼす心理的・社会的要因：予備的研究 / 本多ハワード素子
日本女子大学人間社会研究科紀要 [2](1996.03) p.137-150
318. アメリカ社会学における性別職域分離研究の理論的枠組みと今後の研究方向 / 合場敬子
日米女性ジャーナル [20](1996.05) p.100-115
319. 無償労働の発見：労働概念の拡張の社会的諸結果 / Susan Himmelweit ; 久場嬭子訳
日米女性ジャーナル [20](1996.05) p.116-136
320. 女も男も、仕事も家庭も / 杉井静子
日本の学童はいく [254](1996.10) p.28-33

321. 日欧女性起業国際シンポジウムを開催して：女性の起業が世界をつなぐ：自分で事業家になっちゃおうという時代企業の天井がハードなら / 金谷千恵子
女性と仕事ジャーナル [4] (1996.08) p.92-96
322. 女性の起業と職業訓練・ビジネス教育の課題：あらたな地球市民社会の構築とともに / 金谷千恵子
女性と仕事ジャーナル [4] (1996.08) p.126-130
323. 中国女性の就業意識 / 川久保美智子
関西学院大学社会学部紀要 [74] (1996.03) p.95-110
324. 女性労働者の現状と男女雇用機会均等法, 労基法改正をめぐって / 坂本福子
月刊女性 & 運動 [160] (1996.02) p.8-11
325. 「機会の平等」の隠れた問題点 / 山岡照子
国際女性 [10] (1996.12) p.115-116
326. 産業構造の変化とわが国女子労働の特徴 / 谷内篤博
経営論集 [6-1] (1996.12) p.111-134
327. 専門職に就業する女性のキャリアと子育て / 瀧沢由美子
生活社会科学研究 [3] (1996.09) p.59-73
328. 女性労働白書の「ウソ」と「マコト」 / 福田光子
あごら [223] (1996.11) p.3-10
329. 戦後日本における性別分業の動態：女性の職場進出と二重の障壁 / 田中重人
家族社会学研究 [8] (1996) p.151-161
330. 各職場での母乳育児支援の現状 / 永山美千子
周産期医学 [26-4] (1996.04) p.587-592
331. 国際シンポジウム「女性と労働」 / カリーナ・コンスタンティーノ・デイビット[ほか]
アジア女性研究 [5] (1996.03) p.1-37
332. 台湾の女性問題と社会保障 / 荏秀美
アジア女性研究 [5] (1996.03) p.52-56
333. パキスタンの綿花生産における女性の見えない役割：綿摘み女性労働者 / ファルザナ・バリ, 織田由紀子
アジア女性研究 [5] (1996.03) p.81-88
334. 雇用における女性の人権：戦力化される女性労働と拡大する男女間賃金格差 / 中野麻美
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.13-20
335. 現代日本の女性問題の基本視点 / 宮崎礼子
家政経済学論叢 [32] (1996.05) p.1-12
336. 女性政策をめぐる欧米と日本の国際比較 / 住沢博紀
家政経済学論叢 [32] (1996.05) p.43-52
337. 「大卒女性と職業...均等法10年のなかで」 / 堀越栄子[ほか]
家政経済学論叢 [32] (1996.05) p.53-87
338. 日本女性の社会的地位と統計：出産と就業に関するミクロ・データの視点から / 中野英子
統計 [47-4] (1996.04) p.13-18
339. 女性就労と児童発達：母親の就労が子供の成績に及ぼす影響 / 吉本敏子[ほか]
三重大学教育学部研究紀要.教育科学 [47] (1996.03) p.89-97
340. 女性の起業支援に向けて / 津田正夫
くらしと教育をつなぐ-We [4-10] (1996.02) p.24-27
341. 働く女性の妊娠・出産・育児 / 堤マサエ
看護 [48-4 (臨増)] (1996.03) p.259-287
342. 課題としての北京会議 / 内藤和美[ほか]
季刊女子教育もんだい [67] (1996.春) p.4-16
343. 男女共同参画社会の実現に向けて / 名取はにわ
統計 [47-4] (1996.04) p.19-24
344. 21世紀へのビジョン：男女平等・多民族共生・環境持続性の社会を：総理府「男女共同参画審議会部会における論点整理」に私たちの対案(要案) / 「女たちの21世紀」編集委員会
アジアに生きる女たちの21世紀 [6] (1996.03) p.67-72
345. 第4回世界女性会議の意義：背景と経過 / 松井やより
かながわ女性ジャーナル [14] (1996.03) p.12-36
346. 「行動綱領」12の重要分野：評価と課題 / 戒能民江[ほか]
かながわ女性ジャーナル [14] (1996.03) p.39-122
347. 北京行動綱領から国内行動計画へ / 金井淑子
かながわ女性ジャーナル [14] (1996.03) p.123-151
348. 「女子差別撤廃条約の実施に関する日本報告」に対する最終見解(国連女子差別撤廃委員会) / 婦団連国際部
婦人通信 [444 (臨)] (1996.02) p.36-37
349. 北京女性会議から21世紀へ / 深尾凱子
はたらく女性 [43] (1996.03) p.8-11
350. 日本国憲法理念の定着と変容(4) 人権：平等原則とアフーマティブ・アクション / 戸松秀典
ジュリスト [1089] (1996.05.01・15) p.185-190
351. 各省庁にみる「男性と子育て」の取り組み：男女共同参画社会の実現に向けて / 青山彩子
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.65-68
352. 地方自治体における国際協力の人材養成：女性政策の充実を通して / 花見楨子, 久保田真弓
国際理解 [27] (1996.03) p.90-99

353. 第4回世界女性会議・NGOフォーラム北京 '95に参加して：「第4回世界女性会議・NGOフォーラム参加状況調査」結果
家庭経営学研究 [31] (1996.03) p.74-77
354. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説4：女性と武力紛争、環境 / 堀江ゆり
月刊女性 & 運動 [166] (1996.08) p.47-48
355. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説3：女性の人権 / 富岡恵美子
月刊女性 & 運動 [165] (1996.07) p.32-33
356. NGO女性フォーラムでみた女性と家族 / 酒井はるみ
家族社会学研究 [8] (1996) p.181-184
357. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説2：女性と教育、メディア
月刊女性 & 運動 [164] (1996.06) p.32-33
358. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説5：権力及び意思決定における女性 女性の地位向上のための制度的な仕組み / 久保公子
月刊女性 & 運動 [167] (1996.09) p.34-35
359. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説6：女性と経済 / 今野久子
月刊女性 & 運動 [168] (1996.10) p.24-25
360. 行動綱領を読む6：暴力・メディア / ゆのまえ知子
月刊婦人展望 [473] (1996.07) p.16-17
361. 行動綱領を読む5：健康・人権 / 芦野由利子
月刊婦人展望 [472] (1996.06) p.14-15
362. 国連女子差別撤廃委員会婦人の地位委員会の報告会
月刊婦人展望 [472] (1996.06) p.16
363. クラスワミ報告から「慰安婦」問題を考える / 有馬真喜子, 川田司, 武者小路公秀, 山口みつ子司会
月刊婦人展望 [473] (1996.07) p.5-10
364. 行動綱領を読む4：権力：地位向上システム / 藤枝澯子
月刊婦人展望 [471] (1996.05) p.14-15
365. ポスト北京会議一年炎は燃えて未来が広がる：北京会議の提起した女性問題の課題 / 船橋邦子
月刊婦人教育 [40-9] (1996.09) p.7-13
366. 五つの提言：第二段階に入った女性政策のために / 上野千鶴子
女性施設ジャーナル [2] (1996) p.100-113
367. 占領期の熊本における女性対策 / 伴栄子
新女性史研究 [1] (1996) p.12-15
368. 女性と貧困：第4回世界女性会議：「行動綱領」解説1 / 大関清子
月刊女性 & 運動 [163] (1996.05) p.47-48
369. 二十一世紀へ、行動綱領の実現を：男女平等・女性の地位向上をめざす私たちの提言：「第4回世界女性会議行動綱領」シリーズ第三弾 / 新日本婦人の会
月刊女性 & 運動 [163] (1996.05) p.33-46
370. 行動綱領・北京宣言を学ぶ：「第四回世界女性会議行動綱領」シリーズ第一弾 / 井上美代
月刊女性 & 運動 [161] (1996.03) p.20-25
371. 行動綱領を読む3：教育・育児 / 山本和代
月刊婦人展望 [470] (1996.04) p.16-17
372. 男女共同参画審議会部会における論点をまとめて / 藤原房子[ほか]
月刊婦人展望 [468] (1996.02) p.4-9
373. 行動綱領を読む1：貧困・経済 / 松井やより
月刊婦人展望 [468] (1996.02) p.12-13
374. 男女共同参画審議会の「論点整理」を読んで / 天野正子[ほか]
月刊婦人展望 [469] (1996.03) p.5-9
375. 行動綱領を読む2：平和・環境 / 江尻美穂子
月刊婦人展望 [469] (1996.03) p.10-11
376. 欧州連合を男女平等のテコに：「ル・モンド・ディプロマティック」より / エリアーヌ・フォーゲル=ボルスキー；斎藤かぐみ訳
世界 [627] (1996.10) p.302-305
377. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説7：女性と健康 / 芦野由利子
月刊女性 & 運動 [169] (1996.11) p.30-31
378. 「男女共同参画ビジョン」の提出に当たって / 男女共同参画審議会
女性と労働21 [5-18] (1996.11) p.48-49
379. 「男女共同参画ビジョン」の特徴と意義：男女共同参画審議会メンバーの一人として / 大沢真理
女性と労働21 [5-18] (1996.11) p.6-38
380. こんな女性センターがほしい：女性行政の総合化と女性問題解決のために / 埼玉の女性政策を進めるネットワーク
あごら [224] (1996.12) p.32-35
381. 第4回世界女性会議「行動綱領」解説最終回：草の根からの実践を / 井上美代
月刊女性 & 運動 [170] (1996.12) p.34-37
382. アジア太平洋地域における女性の地位向上のためのナショナルマシーナリーの現状と課題 / 橋本ヒロ子
女性学 [4] (1996) p.83-112
383. ポスト北京における女性学の会議・学会報告 / 渡辺和子
女性学年報 [17] (1996) p.161-165
384. フェミニスト・エスノグラフィーを考える：調査者と調査参加者の対等な関係をめざして / 小橋模子
女性学年報 [17] (1996) p.130-137

385. 「男女共同参画ビジョン」が描く21世紀と私たちの働き方 / 佐藤洋子
女性と労働21 [5-18](1996.11) p.41-47
386. 現実界 は非歴史的に性化されているか? : フェミニズムとジジェク / 竹村和子
現代思想 [24-15](1996.12) p.196-210
387. 女性の身体政治学 : ファット・フェミニズムの挑戦 / ローリー・エディソン, デビー・ノトキン, 落合恵子
Imago [7-13](1996.12) p.30-43
388. フェミニズムの試金石 : 北京「行動綱領」に問われているもの / 伊藤誠
女性労働研究 [30](1996.07) p.4-8
389. メディアとジェンダー : 北京「行動綱領」と私たちの課題 / 加藤春恵子
女性労働研究 [30](1996.07) p.42-46
390. 私のフェミニズム論第41回 : 女性の権利は人権である : 反差別国際運動の一員として / 羽後静子
季刊女子教育もんだい [69](1996.秋) p.69-75
391. 第2回東アジア女性フォーラム'96年8月22~24日ソウルで開かれる : その意義と課題 / 國信潤子
アジアに生きる女たちの21世紀 [8](1996.09) p.86-90
392. 「女子教育もんだい」の原点と課題 : 社会全体の具体的象徴として問い直す / 一番ヶ瀬康子, 奥山えみ子
季刊女子教育もんだい [66](1996.冬) p.10-22
393. 間違った「エンパワメント」をエールしていても何も変わりはない / 森田ゆり
婦人新報 [1155](1996.12) p.16-19
394. GHQ / SCAP資料からみた終戦直後の女性変革 / 北川信
女性労働 [21](1996.09) p.92-96
395. 国家主権より人権へ : 沖縄女性の人権の視点から / 内海(宮城) 恵美子
神奈川大学評論 [25](1996.11) p.73-79
396. アメリカの女性学との出会い / 吉原令子
くらしと教育をつなぐ-We [5-8](1996.12) p.16-21
397. 北京会議から二一世紀への女性運動の課題 / 伊藤セツ
賃金と社会保障 [1170](1996.01.25) p.4-11
398. 大学生の性別意識についての日台比較 / 長津美代子, 鄭淑子
日本家政学会誌 [47-7](1996.07) p.11-21
399. 虐待と搾取のただ中にあるアジアの女性出稼ぎ労働者 / チャクラバルティ・ラガバン
社会運動 [193](1996.04) p.34-38
400. 「慰安婦」とされた人々の証言を追って : インドネシアの女性たち / 川田文子
教育評論 [588](1996.05) p.54-57
401. 第4回世界女性会議の意義と今後の課題 : ASPBAEの取り組みから / 國信潤子
解放教育 [26-2](1996.02) p.16-25
402. NGOが担った北京: 国際女性フォーラム報告 / 園崎寿子
解放教育 [26-2](1996.02) p.26-33
403. 怒りの感情から,響き合う関係を : 地域市民時代の憤り方・受けとめ方 / 福田真弓
解放教育 [26-2](1996.02) p.34-47
404. 教師と親のジェンダー意識 / 東清和
児童心理 [50-3 (増)](1996.02) p.43-51
405. ジェンダー・フリーの教育 : 性役割,男女の協力を求めて / 望月重信
児童心理 [50-3 (増)](1996.02) p.82-90
406. ジェンダー・フリーの学級経営 : 子どもたちとの一日 / 渡部淳子
児童心理 [50-3 (増)](1996.02) p.91-98
407. 女性のネットワークとエンパワメントの主流化 / 織田由紀子
教育と医学 [44-1](1996.01) p.48-53
408. 北京会議とインターネット / 田口やよい
女性施設ジャーナル [2](1996) p.54-59
409. 変革(エンパワメント)への女性たちの取組み : NGOフォーラム「メディア」関連ワークショップに参加して / 井上輝子
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.68-73
410. NGOフォーラム「メディア」関連プログラム一覧
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.81-85
411. ワークショップ=日本の発表から
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.86-88
412. 取材記者,取材態勢は
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.88-89
413. 日本のメディアと政府へ向けた提言
総合ジャーナリズム研究 [33-1](1996.冬) p.90
414. ワーキングウイメン・インジャパン(WWJ)から
ワーキングウイメン・ネットワーク(WWN)へ / 正路怜子
月刊社会教育 [40-1](1996.01) p.85-86
415. 女性のエンパワメントのために / 橋本ヒロ子, ヤンソン由実子, 山口みつ子
月刊婦人展望 [467](1996.01) p.4-7

416. 1996年を振り返る：見えにくくなった女性問題 / 鹿嶋敬, 加藤富子, 山口みつ子
月刊婦人展望 [477](1996.12) p.4-7
417. 多様なフェミニズムとアイデンティティの自己決定：日本人女性が「見える」ものになるために / 堀田碧
女性学 [4](1996) p.161-179
418. 卒業生の人生設計とジェンダー意識 / 三宅まり
東京女子大学社会学会紀要：経済と社会 [別冊] (1996) p.37-51
419. 第4回国連世界女性会議フォローアップ：NGOのグローバルネットワーク / 羽後静子
国際女性 [10](1996.12) p.46-50
420. 女性に対する暴力 / 富岡恵美子
自由と正義 [47-2](1996.02) p.112-114
421. 国連第四回世界女性会議と北京宣言・行動綱領 / 安藤ヨイ子
自由と正義 [47-2](1996.02) p.91-99
422. NGOの参加と役割 / 三木恵美子
自由と正義 [47-2](1996.02) p.100-103
423. 告発！女性への暴力：国連世界女性会議報告 / 永井多恵子
婦人公論 [81-1](1996.01) p.248-253
424. 子連れ出勤論争の表うら / 江原由美子
現代のエスプリ [342](1996.01) p.152-156
425. 青年期後期における性役割：大学生の対人場面における性役割行動・性役割観・性役割受容の性差 / 渡邊恵子
日本女子大学紀要 人間社会学部 [7](1996) p.89-100
426. 自己変革・社会変革につながる女性の学習を：新座はんさむウーマンネットワーク・北京会議の取り組みから / 内田典子
月刊社会教育 [40-9](1996.09) p.14-21
427. 憲法をとりまく環境(3) 憲法分析方法における新しい動向：日本国憲法とフェミニズム / かみやまさこ
ジュリスト [1089](1996.05.01・15) p.82-88
428. 生涯発達のパラダイムからの発達観の再検討：女性差別の問題を手がかりに / 佐藤順子
社会教育学研究 [3](1996.04) p.9-16
429. 「ジェンダーと生活クラブ」をめぐる：アンペイドワークと生活クラブ運動の戦略 / 伊藤由理子
社会運動 [197](1996.08) p.12-17
430. 日本における外国人女性の人権 / Christine Lamarre
女性学研究 [4](1996.03) p.26-38
431. 性別役割分担を論じ直す / 内藤和美
女性学研究 [4](1996.03) p.43-59
432. 女性文化とジェンダー / 伊藤セツ, 掛川典子, 塩谷千恵子
昭和女子大学女性文化研究所紀要 [18](1996.09) p.3-48
433. 女性人権フェミニズム：アメリカからの展望について / シルビア・ブラウン浜野
女性学研究 [4](1996.03) p.1-25
434. 資本主義と再生産：シンボジウム「不払い労働と世界システム」 / マリアローザ・ダラ・コスタ / 伊田久美子
情況 [7-6](1996.06) p.93-102
435. 発展と再生産：第十三回世界社会学会議：第八セッション：女性、開発、家事労働 / マリアローザ・ダラ・コスタ / 勝田由美
情況 [7-6](1996.06) p.103-125
436. [解説]ダラ・コスタと第三世界 / 伊田久美子
情況 [7-6](1996.06) p.126-12
437. 国際婦人デーの歴史
婦人通信 [444 (臨)](1996.02) p.41-44
438. 女性差別と天皇制：女性天皇は差別の解消につながるか / 加納実紀代
婦人新報 [1145](1996.02) p.6-8
439. 軍隊こそ人権侵害の原点：沖縄における軍隊による性暴力 / 高里鈴代
あごら [220](1996.08) p.68-80
440. 女性と意志決定・民主的権利 / ヴィグディス・フィンボガドッティル
あごら [218](1996.05) p.6-16
441. 「やりがい」論を超えて、自活のために働く意志を / 松井真知子
季刊女子教育もんだい [68](1996.夏) p.95-99
442. 男性とフェミニズムを語る(1) PP21とジェンダー：女と男、自然と人間の関係をどう創り変えるか / 武藤一羊, 松井やより
アジアに生きる女たちの21世紀 [6](1996.03) p.86-90
443. 日中戦争前後における「満州国」の婦人活動について / 沈潔
歴史評論 [552](1996.04) p.67-76
444. 平塚らいてうの「戦争責任」論序説 / 米田佐代子
歴史評論 [552](1996.04) p.46-56
445. 戦時下民衆女性の戦争協力 / 石月静恵
歴史評論 [552](1996.04) p.57-66
446. 「女と男の時空」の残された問題点(1) / 河野信子
女性史・女性学ノート [4](1996) p.1-5
447. 均等法・各地の動き：グループ・団体の活動から
あごら [223](1996.11) p.54-85
448. 「行動綱領」実現へのNGOビジョン：NGO日本女性大会 / 女性教養編集部
女性教養 [520](1996.02) p.10-11

449. 「女のスペース・おん」の活動：女性の政治参画支援活動を中心に / 近藤恵子
女性教養 [521] (1996.03) p.8-9
450. 女性学・フェミニズム・ジェンダー研究 / 江原由美子
季刊家計経済研究 [32] (1996.秋) p.86-93
451. 母子寮とフェミニズム / 石田由美子
SEXUAL HUMAN RIGHTS [2] (1996.02) p.24-27
452. 「国民国家」と「ジェンダー」：「女性の国民化」をめくって / 上野千鶴子
現代思想 [24-12] (1996.10) p.8-45
453. 韓国女性学と民族：日本軍「慰安婦」問題をめぐる民族議論を中心に / 山下英愛
女性学 [4] (1996) p.35-58
454. 韓国で「女性発展基本法」施行される：アフターマティブアクションの導入・セクシュアルハラスメントの防止など / 稲垣光江
季刊女子教育もんだい [69] (1996.秋) p.106-108
455. 中国の女性学：季小江の「女性研究運動」を中心に / 秋山洋子
女性学 [4] (1996) p.8-34
456. 第三世界と民衆女性の解放：フィリピンの場合：民族フェミニズムとは / サカモトサンディ
女性学年報 [17] (1996) p.110-121
457. フランスの女性運動・研究の現状と動向 / 梶本玲子
女性文化研究所紀要 [5] (1996.03) p.53-72
458. 山田太一の家族ドラマ「岸辺のアルバム」：主婦の生き方 / 菅谷よし子
生活科学研究所研究報告 [28] (1996.03) p.13-23
459. 現代アメリカにおける養育環境の変化：母親の就労化と子どもとの関係の視点より / 堀内真弓, 高橋重郷
人口問題研究 [51-4] (1996.01) p.57-67
460. 親と子のスペース 公園 を考える：「公園デビュー」からみると / 須貝道雄
女性教養 [526] (1996.08) p.3-6
461. シングルマザーを選ぶとき：家族の在り方の変遷 / 鶴田知佳子
女子教育 [19] (1996.04) p.9-21
462. 夫ばなれ、妻ばなれ：自立プレッシャーからの解放 / 山田昌弘
児童心理 [50-10] (1996.07) p.37-41
463. 少子家族のライフスタイル：心理・社会面での特性分析による多子家族との比較研究 / 神宮英夫
児童研究 [75] (1996) p.2-8
464. 少子家族のライフスタイル：健康面での特性分析・多子家族との比較研究 / 近藤洋子
児童研究 [75] (1996) p.9-15
465. 虐待問題から家族を見る：家族病理と法律家の役割 / 木下淳博
自由と正義 [47-9] (1996.09) p.83-90
466. なぜ、男性と子育てでなのか 世界的潮流から / 名取はにわ
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.4-7
467. 父親像の変遷平安時代から現代 / 窪籠子
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.8-14
468. 「男性」が「父親」になる過程 / 小野寺敦子
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.15-18
469. 変わる日本の女性・男性、家庭 / 柏木恵子
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.19-24
470. 幼少期の育児における父親の役割 / 川井尚
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.25-30
471. 思春期の子ども達の発達と父親の役割 / 皆川邦直
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.31-34
472. 男性の育児学「父子手帖」を作成する中で / 汐見稔幸
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.35-38
473. 男性保育者の実態と課題 / 日高聡
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.44-47
474. 父子家庭の子育て：児童福祉施設をパートナーとして / 高橋利一
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.48-51
475. 男性の子育てと企業支援 / 鹿嶋敬
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.52-55
476. 地域における男性と子どもの育て合い：現場からのレポート / 大下勝巳
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.56-60
477. お父さん文化を子育てに！：子育て真最中のお父さん体験を語る / 汐見稔幸, 島本一男, 菊池一英
子どもの文化 [28-6] (1996.06) p.4-11
478. 育児と家事に主体的に関わって：役割を替えて見えてきたこと / 小林成行
子どもの文化 [28-6] (1996.06) p.12-16
479. 転換期の家族社会学：シンポジウムの司会を担って / 渡辺秀樹
家族社会学研究 [8] (1996) p.3-5
480. 家族か個人か：階層単位とジェンダー / 盛山和夫
家族社会学研究 [8] (1996) p.33-45
481. 国際結婚が家族社会学研究に与えるインパクト / 篠崎正美
家族社会学研究 [8] (1996) p.47-51
482. 少子化時代の「きょうだい関係」 / 依田明
教育と情報 [458] (1996.05) p.6-12
483. 海女漁村における1972年と1992年の家族変化とその要因：三重県志摩郡阿児町志島地区 / 三輪聖子, 岡田照子
岐阜女子大学紀要 [25] (1996.03) p.155-162

484. 家族の現実と子育て：「家庭の教育力の低下」とは何か / 小玉亮子
教育 [46-10] (1996.10) p.79-81
485. 「家族とは何か」：有配偶女子からみた家族認識の範囲 / 西岡八郎, 才津芳昭
家政研究年報 [21] (1996.03) p.28-42
486. それは家族であるのか, 家族ではないのか, ではどうすれば家族であるのか：「家族」とその状況規定 / 木戸功
家政研究年報 [21] (1996.03) p.2-13
487. 家族の世紀末 / 山田昌弘
神奈川大学評論 [24] (1996.07) p.99-105
488. 私たちは何を指すべきか / 桜井陽子 [ほか]
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.104-118
489. 現代マレーシアの社会と家族：クアラランブル
家族調査中間報告 / 篠崎正美
アジア女性研究 [5] (1996.03) p.71-80
490. 日本の家族と社会における子ども観の一系譜
1870-1930 / 狩野浩二
青少年問題 [43-5] (1996.05) p.4-9
491. 日本の家族はドメスティック・バイオレンスを乗り越えられるか / 波田あい子
婦人新報 [1147] (1996.04) p.2-5
492. 最近の調査報告から：戦後50年間に「家族」は大きく変化した：平成7年度「国民生活白書」から / 松波紀子
生活の設計 [182] (1996.02) p.62-67
493. 子どもに愛が伝わっていますか / 近藤千恵
看護 [48-4 (臨増)] (1996.03) p.216-238
494. 1950年代のホスピタリズム論争の意味するもの：母子関係論の受容の方法をめぐる考察 / 野澤正子
社会問題研究 [45-2] (1996.03) p.35-58
495. 家族病理としての老親虐待とその社会的背景 / 菟淵緑
社会問題研究 [45-2] (1996.03) p.97-116
496. これからの社会における望ましい母親とは / 小此木啓吾
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.3-16
497. 母親はどう育つか：「母親イメージ形成」と「母親役割」のリアリティ / 蘭香代子
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.17-25
498. 母親が自分らしく生きるとはどういうことか：母親の自己実現 / 金崎美子
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.26-34
499. 母であることの心理 / 東山弘子
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.35-43
500. [データ]：母親が子どもに望むこと / 渡辺秀樹
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.44-54
501. 子育て情報 をどう読むか / 熱田恵美子
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.100-108
502. 不登校児の母子関係 / 菅佐和子
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.152-159
503. 児童虐待する母親の心理 / 多賀谷篤子
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.160-168
504. 親業訓練で学ぶ親の役割 / 近藤千恵
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.169-176
505. ソウルと北京の母親事情 / 深谷昌志
児童心理 [50-6 (臨増)] (1996.04) p.177-183
506. 家族・家庭生活, 地域社会の変容 / 「少子化問題」共同調査班
立法と調査 [別冊] (1996.03) p.18-24
507. 近代家族と民主主義：今日の日本と中国の家族を手がかりに / 遠山日出也
女性学年報 [17] (1996) p.75-87
508. 家族構成と家族構造の変化 / 清水浩昭
統計 [47-12] (1996.12) p.24-28
509. 「多様な家族」VS「イエ制度」 / 明石千衣子, 内藤弘正, 中田千鶴子
世界 [628] (1996.11) p.206-216
510. 多様な母親：乳幼児治療における, 母親の表象世界の役割を概念化するためのモデル / N・スターン・ブラッシュウエイラー, D・N・スターン ; 嶋田誠訳
Imago [7-1] (1996.01) p.106-123
511. 好かれる子を育てる家庭：父性の復権：親バカのおすすめ / 荘厳舜哉
児童心理 [50-16] (1996.11) p.123-128
512. 好かれる子を育てる家庭：生活をふりかえる：わが子を好かれる子に育てるために / 内田玲子
児童心理 [50-16] (1996.11) p.129-134
513. 家族理論の再考と今後の展望：過去10年の家族社会学における理論動向と展開 / 米村千代
季刊家計経済研究 [32] (1996.秋) p.53-60
514. 昭和二十年時代の「家庭科教育」誌に見る生活としての女性家庭科教員(1)：家庭と教職の両立 / 大塚洋子
家庭科教育 [70-11] (1996.11) p.64-69
515. これからの家族像を求めて：「大シングル時代」の家族大航海 / 樋口恵子, 阿藤誠
AGING [14-1] (1996.夏) p.44-48
516. これからの家族像を求めて：「シングル」からの家族再構築 / 樋口恵子, 落合恵子
AGING [14-2] (1996.秋) p.44-49
517. 子どもの虐待の理解とその予防：虐待をしない / させないために, わたしたちにはできることは / 村本邦子
発達 [17-67] (1996.Summer) p.51-56

518. 多様化時代の家族像 / 沖藤典子
法律のひろば [49-6] (1996.06) p.17-22
519. 親役割に関する研究(3): Co-parentingにおける子どもの性(gender)と親子関係 / 河野利津子
比治山女子短期大学紀要 [31] (1996) p.13-21
520. 子育て不安と児童虐待への援助 / 佐々木正美
母子保健情報 [33] (1996.05) p.29-33
521. 家族の多様化と個別化 / 長津美代子
日本家政学会誌 [47-8] (1996.08) p.31-37
522. 育児期における女性のアイデンティティ様態と家族関係に関する研究 / 岡本祐子
日本家政学会誌 [47-9] (1996.09) p.27-38
523. 別姓問題は男女の人権意識を試す / 田嶋陽子
世界 [624] (1996.07) p.106-107
524. 共に創る家族: 共働き家庭の生活実態と子育て・教育調査報告 / 大阪学童保育連絡協議会
日本の学童ほいく [254] (1996.10) p.38-43
525. 検証・民法「改正」案: 問題点を探る / 深江誠子
女性と仕事ジャーナル [4] (1996.08) p.75-77
526. 世話女房とその論理: アルコール依存症者: 「家族ミーティング」にて / Amy Borovoy
日米女性ジャーナル [20] (1996.05) p.56-68
527. 個人の発達・家族の発達: ふたつのライフサイクル論に対する検討 / 渡辺さちや
日本女子大学紀要・家政学部 [43] (1996) p.13-19
528. 教育における「家」の意味(1) / 塩見慎朗
大阪樟蔭女子大学論集 [33] (1996.03) p.209-222
529. 少子家庭の家庭教育 / 依田明
家庭科学 [62-4] (1996.08) p.19-23
530. サブクリニカルな若者たち: 親と子, そして家族 / 清水將之
こころの科学 [67] (1996.05) p.110-115
531. 外国人の結婚・子ども・家族 / 養父知美
自由と正義 [47-5] (1996.05) p.104-112
532. 子どもから見た家族: 父親と母親の場合 / 杉下知子
小児保健研究 [55-1] (1996.01) p.3-9
533. 娘同居と「家」制度: 息子のいない老親の場合 / 古谷野亘, 岡村清子
厚生生の指標 [43-3] (1996.03) p.23-26
534. 「性格形成と母子関係」日中共同調査: 横浜市・北京市・上海市との比較からみた台湾(高雄市)の母親の母性意識 / 芳川玲子, 曹純瓊
家庭教育研究所紀要 [18] (1996) p.71-78
535. これからの家族像を求めて: 家族の変化と新しい時代の法律 / 樋口恵子, 利谷信義
AGING [14-3] (1996.冬) p.44-49
536. 表象としての「家庭」と家族の歴史政治学: 「近代日本と家族」研究の一視覚 / 鈴木智道
東京大学大学院教育学研究科紀要 [36] (1996) p.175-183
537. 家族面接による母娘間のコミュニケーションの促進 / 大熊保彦
家族心理学研究 [10-1] (1996.05) p.1-13
538. 家庭の健康性に関する一研究: 大学生の子どもの観点から / 茂木千明
家族心理学研究 [10-1] (1996.05) p.47-62
539. 「やさしさの世代」としての「母」であること、「嫁」であること / 春日キスヨ
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.144-151
540. 子育て不安の現状とその背景 / 春日キスヨ[ほか]
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.5-27
541. 母子心中から日本の母子関係を考える / 佐藤達哉
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.70-78
542. 日本的な母子関係と夫婦関係 / 大日向雅美
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.137-143
543. ノルウェーのママは国事、パパ育児: ホームステイ・ルボ / 三井マリ子
婦人公論 [81-1] (1996.01) p.238-246
544. EUの子育て支援政策: 男女の機会平等とケアシステムの再編成 / 岩上真珠
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.214-218
545. わが国女子コウホート晩婚化の要因について: 平均初婚年齢差の過程・要因分解 / 金子隆一
人口問題研究 [51-2] (1995.07) p.20-33
546. 日本の婚姻・離婚の動向: 1993年 / 山本千鶴子, 小島克久
人口問題研究 [51-2] (1995.07) p.41-56
547. 塩田咲子さんに聞く: 女性にとって望ましい社会保障・社会政策とは? 母の友 [518] (1996.07) p.28-31
548. 日・韓・米の家族観の相違 / 井上俊一
世界と人口 [267] (1996.06) p.32-36
549. 女子短大生における家族生活および婚姻制度の改正案に対する意識 / 馬場優子, 浅川雅美
日本家政学会誌 [47-6] (1996.06) p.11-18
550. 低出生率の背景: ヨーロッパとの比較から / 河野禰果
統計 [47-10] (1996.10) p.35-36
551. 離婚の現状と離婚観の変遷 / 湯沢雅彦
法律のひろば [49-6] (1996.06) p.23-29
552. 少子化をめぐる高校生の結婚観と子ども観 / 齋藤美保子
家庭科教育 [70-11] (1996.11) p.23-31
553. 結婚・家族の発達の社会心理学: 社会変動のなかの家族 / 柏木恵子
発達 [17-68] (1996.Autumn) p.53-66

554. 大シングル時代の到来 / 阿藤誠
統計 [47-12] (1996.12) p.6-10
555. 現代青年の性・結婚・育児意識から見た家庭観について:日韓教育大生における比較研究 / 朴宣映, 天富美禰子
大阪教育大学紀要 2. 社会科学・生活科学 [44-2] (1996.02) p.109-125
556. 「だれもが結婚できる時代」は終わった?: 家族社会学からみた晩婚化現象 / 山田昌弘
子ども未来 [294] (1996.03) p.7-11
557. 「結婚」と「愛情」, どちらが先か?: 「夫婦別姓」問題のレトリックから / 苜米地伸
家政研究年報 [21] (1996.03) p.62-73
558. 国際結婚をめぐる諸問題: 「境界線」上の家族 / 嘉本伊都子
家族社会学研究 [8] (1996) p.53-66
559. 国際結婚と国際児の出生動向 / 原俊彦
家族社会学研究 [8] (1996) p.67-79
560. 農村におけるアジア系外国人妻の生活と居留意識: 山形県最上地方の中国・台湾, 韓国, フィリピン出身者を対象にして / 中澤進之右
家族社会学研究 [8] (1996) p.81-96
561. 五四新文化運動期の中国における婚姻制度と女性の地位 / 高橋保
国際文化研究所紀要 [2] (1996.08) p.25-48
562. 甘えと反抗の心理: 親ばなれと子どもの葛藤 / 渡辺久子
児童心理 [50-10] (1996.07) p.24-29
563. 親子関係と孤独感対処行動としての非行 / 田中寛二
ヒューマンサイエンス [2] (1996.03) p.39-56
564. 児童虐待と親子へのケア / 岩田泰子
こころの科学 [66] (1996.03) p.48-51
565. 思春期の親子関係・友達関係との関連 / 土谷みち子
家庭教育研究所紀要 [18] (1996) p.20-33
566. 日本弁護士連合会・弁護士会の子どもの人権救済活動の現状と課題 / 若穂井透
社会事業研究所年報 [32] (1996) p.93-171
567. 老人虐待の発見と介入: その視点と考え方 / 大塩まゆみ
滋賀文化短期大学研究紀要 [6] (1996) p.57-70
568. 高齢社会と家族 / 神戸博一
東海女子大学紀要 [15] (1996.03) p.215-223
569. あらためて女性の自立とは / 樋口恵子
看護 [48-4 (臨増)] (1996.03) p.4-32
570. 高齢社会における貧困の女性化 / 一番ヶ瀬康子
アジアに生きる女たちの21世紀 [6] (1996.03) p.32-33
571. 生活直接支援サービス労働と女性: ホームヘルプサービス職の経済的環境 / 堀越栄子
家政経済学論叢 [32] (1996.05) p.17-30
572. 高齢社会の中の女性の人權: 生存権・幸福追求権の保証ない日本 / 武田京子
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.35-41
573. レイプクライシス・カウンセリング: 米国における強姦被害者への危機介入 / 川島めぐみ
現代のエスプリ [351] (1996.10) p.132-143
574. 青少年のテレクラ等に関する意識と行動: 総務庁青少年対策本部報告書から / 月村祥子
青少年問題 [43-9] (1996.09) p.34-41
575. 在外日本企業とセクシュアル・ハラスメント問題: 米国三菱自動車製造事件を契機にして / 奥山明良
ジュリスト [1097] (1996.09.15) p.56-62
576. 日本における「女性への暴力」考 / 服部範子
女性学研究 [4] (1996.03) p.60-65
577. 売春防止法制定40年を経て: 今日の売買春を考える / 高橋喜久江, 常澤愛子, 佐藤洋子
月刊婦人展望 [471] (1996.05) p.6-13
578. 都性研「1996年, 児童・生徒の性意識・性行動調査」報告: 児童・生徒の性意識・性行動: 現状と最近15年の推移 / 東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会, 性意識・性行動調査委員会
現代性教育月報 [14-9] (1996.09) p.1-9
579. ジェンダーの二元性を超えて / 葛森樹
くらしと教育をつなぐ We [5-3] (1996.06) p.12-17
580. 外性器から男らしさ女らしさへ / 向原恵子
くらしと教育をつなぐ We [5-3] (1996.06) p.18-23
581. リラックスして性を語りあおう: 「性の教育」(「動物や人のたんじょう」)の授業から / 石川ちえみ
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.54-60
582. なぜ結婚をするの?: 「結婚」「家族」の授業から / 西村真弓
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.61-66
583. 模倣とジェンダーへの抵抗 / ジュディス・パトラー; 杉浦悦子訳
Imago [7-6] (1996.05) p.116-135
584. カミングアウトの政治性: セクシュアリティ代理 / 表象するのは誰か / キース・ヴィンセント, 大石敏寛, 河口和也
Imago [7-6] (1996.05) p.148-181
585. 見つめる視線とさまよう視線: ユッタ・プリュックナーの近代批判としてのボルノグラフィー論 / 越智和弘
Imago [7-6] (1996.05) p.226-242
586. 国家・軍隊による性暴力 / 山崎ひろみ
あごら [220] (1996.08) p.81-91

587. 「女性の身体の自己決定権」の根拠へ:自由主義原則と商品化体制を超えてそれを権利づけるために / 金井淑子
SEXUAL HUMAN RIGHTS [2](1996.02)
p.2-10
588. 「セクシュアル・リベラリストによるフェミニスト攻撃」: ボルノグラフィと売買春に賛成するセクシュアル・リベラリズムとは: ドーチェン・リードホルトによる序文抄訳 / 小幡詩子, 柿木和代
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.79-84
589. セクシュアル・ライツをめぐるカイロ人口開発会議から北京女性会議への流れ / 堀口悦子
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.71-72
590. セクシュアル・ライツとは何か: 性暴力と性の商品化のない社会をめざして / 松井やより
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.3-9
591. 日本仏教と性風土 / 源淳子
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.10-12
592. なぜ性産業は繁栄するか / 大島静子
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.13-16
593. 客さえいなければ... : 人権派の立場で考える売買春問題 / 柿木和代
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.17-20
594. 異装のポリティクス / 石井達朗
Imago [7-2](1996.02) p.136-151
595. 性転換のイデオロギー: アメリカにおける / G・O・マッケンジー; 久保儀明訳
Imago [7-2](1996.02) p.168-178
596. 父から娘への性的暴力 / ジュディス・ハーマン; 宮原明美訳
Imago [7-10](1996.09) p.230-244
597. 変貌するアメリカのレスビアンたち: 過去から現在へ / 富岡明美
Imago [7-11](1996.10) p.258-267
598. 日本の大衆ボルノ文化のジェンダー・イデオロギー: 女のアイデンティティーとセクシュアリティーの構築 / ホーン川嶋瑤子
日米女性ジャーナル [20](1996.05) p.3-30
599. 教育雑誌における性教育論の展開: 1920から30年代を中心に / 田代美江子
日本女子大学人間社会研究科紀要 [2](1996)
p.1-11
600. 性文化をめぐる日米の違い: ボルノを見ない自由, 拒否する権利 / ホーン川嶋瑤子
現代性教育研究月報 [14-1](1996.01) p.1-3
601. 教師のセクハラがもたらす心の傷 / 君和田和一
児童心理 [50-3 (増)](1996.02) p.191-199
602. 調査報告「性的被害の実態」: 大学生・専門学校生が経験した女性の「性的被害」 / 石川善之
現代性教育研究月報 [14-2](1996.02) p.1-5
603. 性愛も日常生活のさまざまな「よきこと」の一つにすぎない / 上野千鶴子, 山本直英
性と生の教育 [2](1996.01) p.68-75
604. 小学生の性役割形成に教師と親が及ぼす影響について / 遠田瑞穂, 田村毅
東京学芸大学紀要. 第6部門技術・家政・環境教育 [48](1996.12) p.85-91
605. 地域で, 模索するオヤジたち / 川崎おやじ連
AGING [14-3](1996.冬) p.32-37
606. 与謝野晶子「寧ろ父性を保護せよ」にみられる父親論 / 海妻径子
生活社会科学研究 [3](1996.09) p.43-57
607. ジェンダーの正義と世界規模のアパルトヘイト: 世界女性会議をめぐる / ヴァンダナ・シヴァ
社会運動 [191](1996.02) p.30-38
608. 短大生の性役割意識について(第1報) / 大竹智恵子
大妻女子大学紀要. 家政系 [32](1996.03)
p.173-182
609. 都市主婦の家事労働満足度と家庭生活満足度 / 安玉姫, 朴仁全
家政学研究 [42-2](1996.03) p.33-37
610. 企業文化と生活文化の関連: 家政学における生活文化論の意義 / 斎藤悦子, 伊藤セツ
日本家政学会誌 [47-4](1996.04) p.15-24
611. 男性の教育に登場した女性たち / Dale Spender; 高井葉子訳
日米女性ジャーナル [20](1996.05) p.76-99
612. 女子大生のエンパワーメント教育に関する考察: 日本文化理解の深化を通して / 富士谷あつ子
武庫川女性学研究 [1](1996) p.1-10
613. 性と人権4: 座談会: 女性の人権と対等なセクシュアリティ
SEXUAL HUMAN RIGHTS [4](1996.08)
p.2-19
614. 男性とフェミニズムを語る[4]男はどうしたら変わるか: 男のよろいを脱いで女とコミュニケーション / 水野阿修羅, 松井やより
アジアに生きる女たちの21世紀 [9](1996.12)
p.85-90
615. ジェンダー統計からみた我が国の現状: 1: 結婚観・子供観の変化 / 笠間美佳
統計 [47-12](1996.12) p.53-54
616. これからのパートナーのあり方 / 渡辺久子, 中村伸一, 平木典子
現代のエスプリ [353](1996.12) p.9-33

617. 沖縄、女たちの決起と国際連帯への試み / 由井晶子
情況 [7-3] (1996.04) p.40-50
618. 中年期女性の「もう一つの人生」：自由記述回答分析から / 河上婦志子
人文学研究所報 [29] (1996.03) p.1-14
619. フェミニズムの現在：「男女共生」という概念の危うさをめぐって / 板垣葉子
大東文化大学紀要・社会科学 [38] (1996) p.123-146
620. 広島女学院大学卒業生の社会活動参加および男女役割意識 / 篠原收
広島女学院大学生活科学部紀要 [3] (1996.03) p.67-88
621. BemとGilliganの研究から見る「女性の視点」による心理学研究への影響 / 佐藤順子、森和彦
秋田大学教育学部研究紀要・教育科学 [49] (1996.03) p.87-98
622. 高校生の家族観の実態と男女共学家庭科教育の課題 / 鈴木真由子
新潟大学教育学部紀要・人文・社会科学編 [37-2] (1996.03) p.207-219
623. 私のフェミニズム論：仏教のなかの女性差別：日本の文化全体を問題にする「フェミローグの会」 / 源淳子
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.76-82
624. グローバルな貧困の増大と女性と子どもの人権について：北京女性会議の行動綱領 / 北沢洋子
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.42-47
625. フィリピンにおける女性学の動向 / フロウデッツ・メイ・V・ダトゥイン
アジア女性研究 [5] (1996.03) p.57-62
626. 男らしさって何だろう / 伊藤公雄
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.39-46
627. ジェンダーと学校文化 / 木村涼子
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.62-69
628. CRグループと女性のエンパワーメント / 入江直子
群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編 [45] (1996.05) p.341-352
629. 中年期女性の危機と発達：アイデンティティの揺らぎと再確立 / 岡本祐子
教育と医学 [44-10] (1996.10) p.29-35
630. 女性理解の視点：4つの座標軸を基点として / 織田善幌
研究紀要 [29] (1996.08) p.1-22
631. 「開発」課題とジェンダー / 原ひろ子
家庭経営学研究 [31] (1996.03) p.3-8
632. 女性社会教育職員の性別役割分業意識：青森県女性社会教育職員調査から / 佐藤恵子
女性教養 [523] (1996.05) p.3-6
633. シンポジウム：女性の正組合員加入と女性役員のはたす役割 / 熊谷 (松田) 苑子 [ほか]
生活研究 [27-3] (1996.08) p.2-25
634. 総論 貧困の女性化とは何か / 松井やより
アジアに生きる女たちの21世紀 [6] (1996.03) p.3-10
635. アジアの都市スラムの女性たち / 伊従直子
アジアに生きる女たちの21世紀 [6] (1996.03) p.15-18
636. タイ経済の繁栄の陰で：タイ山岳民族カレンの人たち：貧困・環境破壊・売春とエイズ / 大津恵子
アジアに生きる女たちの21世紀 [6] (1996.03) p.19-22
637. 貧困の女性化：インドの女性組織SEWAの事例に学ぶ / 大塚朋子 [ほか]
開発教育 [34] (1996.11) p.22-27
638. 北海道における娼妓自由廃業：1900年前後を中心に / 星玲子
歴史評論 [553] (1996.05) p.63-80, 31
639. 国際観光がタイの女性セックスワーカーに与えたインパクト / 安福恵美子
女性文化研究所紀要 [5] (1996.03) p.1-34
640. 女性と福祉4：「援助交際」という名の「性の自由化」の欺瞞：現代性風俗と売春防止法 / 杉本貴代栄
SEXUAL HUMAN RIGHTS [4] (1996.08) p.20-27
641. 女性と福祉3：民間女性シェルター調査報告：アジア女性シェルター事例紹介と日本社会への提言 / 桑島薫
SEXUAL HUMAN RIGHTS [3] (1996.05) p.10-19
642. タイの児童売春に関する一考察 / 萩原康夫
日本社会事業大学研究紀要 [42] (1996.03) p.19-32
643. 1960年代の子殺しに見る日本社会 / 安達優雅子
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.63-69
644. レイプ被害者の心理社会的反応 / 森武夫
現代のエスプリ別冊、被災者の心のケア (1996.02) p.57-64
645. 流言なのか・レイプ多発の実態 / 中井清美
現代のエスプリ別冊、被災者の心のケア (1996.02) p.105-112
646. 変容する家庭と子どもの危機：背景・原因・対応 児童虐待を例にとりて / 津崎哲郎
社会福祉研究 [67] (1996.10) p.45-52
647. 幼児虐待の続発と対処：電話相談報告 / 東山千絵
現代のエスプリ別冊、被災者の心のケア (1996.02) p.113-120

648. 「望まない妊娠の結果生まれた児」への虐待をめぐる問題：児童虐待に関する調査と考察 / 藤井東治
家族心理学研究 [10-2] (1996.11) p.105-117
649. 障害者の子宮摘出問題の今日的課題 / 村上真理子, 河東田博
現代性教育月報 [14-7] (1996.07) p.1-5
650. 暴力被害女性を援助するサバイバル・セラピーの試み / 平川和子
SEXUAL HUMAN RIGHTS [4] (1996.08) p.32-35
651. 社会福祉の総合性 / 鎌田とし子
東京女子大学社会学会紀要：経済と社会 [24] (1996) p.47-65
652. 婦人保護事業の移り変わり：女性福祉法への展開 / 小島千恵子
SEXUAL HUMAN RIGHTS [5] (1996.11) p.27-31
653. 高齢者介護の法的評価に向けて：女性(嫁)の寄与について / 本田弘子
家庭科教育 [70-12] (1996.12) p.11-15
654. 震災遺児家庭の体験と実態 / 副田義也
母子研究 [17] (1996.03) p.1-6
655. 大震災時における母子保健 / 常石秀市, 中村肇
小児保健研究 [55-4] (1996.07) p.513-519
656. 座談会：検証日本の保育のよさ：いまのおとなたちにできること / 山崎美貴子[ほか]
保育の友 [44-5] (1996.05) p.10-26
657. 少子化対策と今後の課題 / 「少子化問題」共同調査班
立法と調査 [別冊] (1996.03) p.11-16
658. 少子化と社会保障 / 「少子化問題」共同調査班
立法と調査 [別冊] (1996.03) p.38-44
659. 子どもの権利条約の歴史の変遷：欧米の子ども認識の歴史から / 酒井玲子
季刊保育問題研究 [157] (1996.02) p.4-13
660. 座談会・育児サークルに参加して / 稲本啓子[ほか]
季刊保育問題研究 [157] (1996.02) p.58-86
661. ママの不安にこたえて：子育てアドバイザー事業の先駆的取り組み：神奈川県
子ども未来 [294] (1996.03) p.23-28
662. 子どもの虐待の実態を探る：虐待の歴史的経過と事例と発見法 / 加古明子
子どもの文化 [28-4] (1996.04) p.17-21
663. デンマーク：子どもと家庭への社会施策とそのプログラム / Oskar Plougmand
世界の児童と母性 [40] (1996.04) p.6-10
664. カナダ：レジデンシャルケアから在宅型子ども家庭サービスへ：カトリック児童保護援助協会における根本的变化 / Colin J.Maloney
世界の児童と母性 [40] (1996.04) p.11-15
665. オーストラリア：養護施設からコミュニティをベースにしたケアへ / Robin Clark
世界の児童と母性 [40] (1996.04) p.16-20
666. イギリス：子どもアドボカシーサービスのネットワーク化：子どもの権利サービスと子ども参画型児童福祉 / 前川朋子
世界の児童と母性 [40] (1996.04) p.21-27
667. シンガポール：家族と子育て支援プログラム / Sim Ngee Mong
世界の児童と母性 [40] (1996.04) p.28-32
668. 少子時代における児童家庭福祉行政の課題 / 栃尾勲
世界の児童と母性 [40] (1996.04) p.33-36
669. 子どもへの虐待と対応システムに関する研究：米国・マサチューセッツ州の現況 / 須永進, 渋谷百合
児童研究 [75] (1996) p.25-36
670. 子育て環境を見る：「児童環境づくり等総合調査研究事業海外調査」報告 / 武石恵美子[ほか]
子ども未来 [298] (1996.07) p.7-15
671. 「三つ子の魂」は絶対的なもの？：乳幼児期の子育てと大切な保育 / 庄司順一, 帆足暁子
子ども未来 [299] (1996.08) p.7-12
672. 地方自治体の男性と子育ての動き(東京都) / 加藤哲夫
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.77-81
673. 地方自治体の男性と子育ての動き(大阪府) / 足立一成
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.82-85
674. 各省庁にみる「男性と子育て」の取り組み：子育て支援策 父子家庭等支援事業等を中心に / 新保幸男
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.69-72
675. 幼稚園生活における幼児の不安感情に関する研究：第2報母親の育児不安との関連について / 中津郁子, 高梨一彦, 佐々木保行
小児保健研究 [55-4] (1996.07) p.530-536
676. 育児支援についての一考察：こどもの城「赤ちゃんサロン」をモデルとして / 中澤恵子[ほか]
小児保健研究 [55-4] (1996.07) p.584-590
677. 親と保育園の関係：これまでとこれから / 清水玲子
季刊保育問題研究 [159] (1996.06) p.58-71
678. 1990年代の保育問題と保育政策の課題：保育政策が忘れていたもの / 森田明美
季刊保育問題研究 [159] (1996.06) p.72-86

679. 座談会PART.2：検証日本の保育のよさ：保母は母親になれるか / 山崎美貴子[ほか]
保育の友 [44-6](1996.06) p.10-36
680. 年表・戦後東京の保育運動の流れ 1 / 鷲谷善教
保育の研究 [14](1996.06) p.75-88
681. 児童福祉施設改革の潮流 / 山縣文治
別冊発達 [21](1996.08) p.15-27
682. 子ども家庭サービスにおける分権化, 民間化の動向 / 網野武博
別冊発達 [21](1996.08) p.28-36
683. 地方自治体における子ども家庭施策の潮流 / 庄司順一, 益満孝一
別冊発達 [21](1996.08) p.37-52
684. 児童育成計画指針の問題点と課題：地方版エンゼルプラン策定現場の視点から / 山本真実
別冊発達 [21](1996.08) p.53-62
685. 子ども家庭施策の潮流 / 柏女豊峰
別冊発達 [21](1996.08) p.8-14
686. 「少子化」問題と「児童福祉法」改正 / 大野光彦
湊川女子短期大学紀要 [29](1996.03) p.1-10
687. 座談会：子育てと仕事のバランスをどう考える？ / 伊藤智子[ほか]
母の友 [517](1996.06) p.18-31
688. 少子社会のエンゼルたち：(1) 育児不安 / 川田文子
母の友 [517](1996.06) p.32-39
689. 国際社会福祉会議 (ICSW) による国内養子縁組及び国際養子縁組並びに 養育家庭ケアに関するガイドライン草案 / 養子と里親を考える会訳
新しい家族 [29](1996.10) p.81-90
690. 地方からの報告：[大阪府]：子ども家庭センターを設置し、児童虐待に本格的に取り組む
こども未来 [302](1996.11) p.24-28
691. 「母性」の発展的解消へ / 内藤和美
月刊自治研 [38-9](1996.09) p.37-44
692. 子どものウェルビーイングと児童福祉施設 / 柏女豊峰
月刊福祉 [79-11](1996.11) p.12-18
693. エンゼルプランと子どもの権利 / 松本寿昭
日本家政学会誌 [47-12](1996.12) p.55-61
694. 出産・子育てに対する公的支援策フィンランドの場合 / 田中里美
社会事業研究所年報 [32](1996) p.173-181
695. 家族政策と家族給付 / 都村敦子
社会事業研究所年報 [32](1996) p.183-199
696. 戦後の児童問題：乳児院 / 丹羽正子
一宮女子短期大学紀要 [35](1996.12) p.182-195
697. 被虐待児調査研究：養護施設における子どもの入所以前の経験と施設での生活状況に関する調査研究 / 堤賢[ほか]
社会事業研究所年報 [32](1996) p.213-243
698. 先進国公的扶助制度の国際比較研究 / 阿部實[ほか]
社会事業研究所年報 [32](1996) p.245-277
699. 子育て支援概念と保育所保育の方法技術：「措置保育」から「子育て支援保育」への転換 / 野澤正子
社会問題研究 [46-1](1996.12) p.1-19
700. 子育て不安・子育て支援まとめ / 佐藤達哉
現代のエスプリ [342](1996.01) p.219-224
701. 子育て支援と子どもたち：武蔵野「0123吉祥寺」ネットワーク / 森下久美子
現代のエスプリ [342](1996.01) p.172-176
702. 公的な保健サービス機関での育児支援：保健所や市町村での活動 / 成木弘子
現代のエスプリ [342](1996.01) p.182-186
703. 保育所の育児支援 / 都留民子
現代のエスプリ [342](1996.01) p.187-191
704. 子育て環境の変化と子育て支援 / 中野英子
現代のエスプリ [342](1996.01) p.192-198
705. 社会福祉政策としての子育て支援 / 藤松素子
現代のエスプリ [342](1996.01) p.199-207
706. オンタリオ州(カナダ国)の子ども家庭サービス / 高橋重宏
現代のエスプリ [342](1996.01) p.208-213
707. 保育サービス事業の現状と課題 / 林宜嗣
季刊社会保障研究 [32-2](1996.Autumn) p.158-166
708. 保育需要の経済分析 / 駒村康平
季刊社会保障研究 [32-2](1996.Autumn) p.210-223
709. 虐待家族に対する福祉的援助と法的介入：第50回養子と里親を考える会講述録・87 1995年5月13日東京聖テモテ教会にて / 吉田恒雄
新しい家族 [28](1996.02) p.2-15
710. 強制送還されたメリアンさんと二人の子どもたち：女性の家サーラーと私 / 吉田美穂
ひと [24-12](1996.12) p.12-19
711. 困難にある妊娠中の女性とその子どもへのサポートと養子縁組：第二種社会福祉事業「環」の会「4年の歩み」 / 横田和子, 星野寛美
新しい家族 [29](1996.10) p.44-61
712. 婦人保護施設「慈愛寮」の援助 / 河田貞子
新しい家族 [29](1996.10) p.62-74
713. 「婦人保護事業」の拡大する役割と現代的意義 / 田中弘子
新しい家族 [29](1996.10) p.75-80

714. 少子・高齢社会に対応する家族政策の視点 / 村川浩一
社会事業研究所年報 [32] (1996) p.201-212
715. 子育て情報誌「ままとんきっず」に見る生涯学習 : 学習記録づくりと評価 / 有北いくこ
月刊社会教育 [40-10] (1996.10) p.20-26
716. 親父の会 : 子どもたちとの触れ合いから、地域に視野を広げる父親たち / 高倉幸江
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.132-136
717. 医療者として生きる : 社会に対しても医者でありたい / 山田哲男
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.83-88
718. 女たちのやり方こそ改革の希望 : もう辞めたいとへたり込む女先生へ / しまようこ
ひと [24-3] (1996.03) p.19-25
719. 動員される差異 : 戦時期雑誌「教育」の郷土・女性・植民地 / 大内裕和
現代思想 [24-7] (1996.06) p.97-113
720. ジェンダーを再生産する底流 / 耳塚寛明
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.18-23
721. おもちゃによるジェンダー再生産 / 山村基毅
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.24-32
722. ポスト北京の教育課題 : 実践段階の「ジェンダーに敏感な教育」 / 賀谷恵美子
季刊女子教育もんだい [67] (1996.春) p.43-48
723. 女子高校生の大学進学に関する保護者の意識 / 高野卓郎, 深田成子
比治山女子短期大学紀要 [31] (1996) p.1-11
724. ホームスクーリング、フリースクール : 考えたい子どもの教育選択権 / 郡洋
母と子 [42-10] (1996.09) p.6-15
725. 日中で変容する「女の子」のイメージ : 日本教育学会の第55回大会3子供の「らしさ」意識と職業希望 / 木津治矢
内外教育 [4761] (1996.09.27) p.2-4
726. 「ごっこ」遊びに現れた家族・家庭生活 : 保育所児と養護施設児の観察から / 岡野雅子
日本家政学会誌 [47-5] (1996.05) p.21-30
727. 少子化が児童の発達に及ぼす影響 : 小学生の家族認識を中心に / 久世妙子, 中村喜美子
日本家政学会誌 [47-2] (1996.02) p.1-8
728. 幼児を怖がる幼児の家族療法事例 / 大下由美
家族心理学研究 [10-2] (1996.11) p.77-90
729. やはり名簿は両性混合が圧倒的多数 (北京で) : 性の区別が差別につながる / 安藤節子
季刊女子教育もんだい [67] (1996.春) p.35-42
730. いじめと子どもの不安, 家庭での対応 / 深谷和子
季刊教育法 [105] (1996.03) p.10-20
731. 思春期危機とカウンセリング : 不登校, 家庭内暴力をめぐって / 高橋良臣
現代のエスプリ [351] (1996.10) p.96-104
732. 子どもたちはテレビ局に手紙を書いた : メディアに潜む性差別を見抜く子に
季刊女子教育もんだい [67] (1996.春) p.49-54
733. さようなら, 赤と黒の整列 : 学校で作られる女の子, 男の子 / 川合真由美
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.47-54
734. 明治期の「女性学」 : 山口小太郎の女性観と用語「女性学」 / 遠藤織枝
ことば [17] (1996.12) p.102-113
735. 良妻賢母と博愛奉仕の心理歴史的研究 : 戦前の我が国における婦徳教育と日本赤十字社救護看護婦の精神教育の関連に注目して / 山本捷子
社会教育学研究 [3] (1996.04) p.17-28
736. 台湾高等女学校の研究 : 台湾高女卒業生のアンケート調査から(1) / 山本禮子
和洋女子大学紀要 文系編 [36] (1996.03) p.97-113
737. 日本における女子高等教育の歩み(序説) / 谷岡郁子
中京女子大学研究紀要 [30] (1996.03) p.141-146
738. 貝原益軒の女子教育論に関する考察 / 浅沼アサ子
東京家政学院大学紀要 [36] (1996.07) p.85-93
739. 少数民族地域における女児未就学問題 : 寧夏回族自治区をめぐって / 新保敦子
中国研究月報 [50-7・8] (1996.07・08) p.52-63
740. 中教審第二小委「審議のまとめ」(案)全文(上) : 社会の変化に対応する教育の在り方について
内外教育 [4726] (1996.05.28) p.8-15
741. 五四運動時期の中国女子教育 / 小林善文
神戸女子大学文学部紀要 [29] (1996.03) p.59-72
742. 戦前期女子高等教育と中等教員無試験検定 / 佐々木啓子
東京大学大学院教育学研究科紀要 [36] (1996) p.205-215
743. ジェンダーと教育 / 小山静子
教育学研究 [62-3] (1996.09) p.58-64
744. 未婚女性教員の定年退職と老後 : 否定的通念の検討 / 高橋久美子
老年社会科学 [18-1] (1996.09) p.23-31
745. PTAの再生-親の復権 : PTAの歴史から考える / 杉村房彦
月刊社会教育 [40-11] (1996.11) p.6-11
746. 現代の親の子育て意識とPTA活動 / 内海和雄
月刊社会教育 [40-11] (1996.11) p.12-17

747. ネットワークの時代の子育てとPTA：熊本からの報告 / 山下雅彦
月刊社会教育 [40-11] (1996.11) p.24-29
748. 父親懇談会と父親のありかた：小平市・三中PTAのとりくみ / 久下幸廣
月刊社会教育 [40-11] (1996.11) p.35-41
749. イギリスにおける父母の学校参加 / 西村絢子
月刊社会教育 [40-11] (1996.11) p.42-45
750. 女生徒のエンパワーメントめざした指導を：「女子卒業生進路追跡調査」から / 上野高校女子教育問題研究会
季刊女子教育もんだい [67] (1996.春) p.62-71
751. 生活科の教科構成原理としての発達論に関する再検討 / 吉川成司
教育学部論集 [41] (1996.12) p.43-60
752. 高等学校1994年度入学生への教育過程における家庭科：神奈川県と三重県の場合 / 鈴木敏子, 尾嶋由紀子
横浜国立大学教育紀要 [36] (1996.10) p.71-90
753. 高等学校家庭科「保育」領域の授業実践(1)：他者理解と自己理解を目的とする保育授業 / 猪野郁子, 藤田依子, 正村徳子
島根大学教育学部紀要. 教育科学 [30] (1996.12) p.17-25
754. 占領下の日本における家庭科教育の成立と展開(3)：M.ウィリアムソンの出張報告書に記された家庭科教育の進展 / 柴静子
広島大学教育学部紀要. 第2部 [45] (1996) p.179-189
755. 昭和二十年時代の「家庭科教育」誌に見る生活者としての女性家庭科教員(2)：女性教員の力量と生活意識 / 大塚洋子
家庭科教育 [70-12] (1996.12) p.66-71
756. 家庭科教育における家族・保育に関する授業：1989年学習指導要領移行期間の実践記録から / 大塚洋子
生活社会科学研究 [3] (1996.09) p.75-87
757. 「家庭科」「家事」から学んだこと：食事作り・洗濯の実習から / 白田敏幸
季刊女子教育もんだい [69] (1996.秋) p.46-52
758. 家庭科にみる戦後50年：学校の「解放区」として新生した家庭科 / 半田たつ子
季刊女子教育もんだい [66] (1996.冬) p.30-36
759. ジェンダーと家庭科教育 / 伊藤セツ
日本家政学会誌 [47-6] (1996.06) p.83-84
760. ジェンダーと家庭科教育 / 荒井紀子
日本家政学会誌 [47-6] (1996.06) p.58-87
761. 親役割の獲得と家庭科教育 / 諏訪きぬ
日本家政学会誌 [47-7] (1996.07) p.87-89
762. 親役割と家庭科教育 / 友定啓子
日本家政学会誌 [47-7] (1996.07) p.90-91
763. 明治期小学校における「家事・裁縫」教育(2)：栃木県の事例を中心に / 板橋文夫
家庭科教育 [70-2] (1996.02) p.77-83
764. 小学2年生・ジェンダーの授業：男だから、女だから、おかしい!?：かるやかに性別役割を超えよう / 野村正幸
ひと [24-6] (1996.06) p.35-42
765. 米国高校家庭科教科書の検討2：Family Livingに見る家族の学習視点：男女の役割観, 関係性をめぐって / 荒井紀子[ほか]
家庭科教育 [70-4] (1996.04) p.21-27
766. 「家庭経営」自由研究課題を取り入れて：「家庭一般」四単位男女必修を終えて(1) / 安田智子
家庭科教育 [70-4] (1996.04) p.75-80
767. 米国高校家庭科教科書の検討3：Family Livingに見る家族の学習視点：現代家族の多様性をとらえる / 井上えり子[ほか]
家庭科教育 [70-5] (1996.05) p.34-40
768. 高等学校男女共学必修家庭科実施後の生徒の反応 / 貴田康乃, 田中洋子
家庭科教育 [70-5] (1996.05) p.41-45
769. 米国高校家庭科教科書の検討(1)：Family Livingに見る家族の学習視点：配偶者選択と契約としての結婚 / 田中弘子[ほか]
家庭科教育 [70-3] (1996.03) p.32-39
770. 男女共学時代の家庭科教育と性教育：高等学校家庭科教員を対象に行った調査結果を中心に / 大樽裕子
現代性教育月報 [14-5] (1996.05) p.4-7
771. 家庭科教育のこれから / 和田典子, 芦谷薫
月刊婦人展望 [472] (1996.06) p.5-8
772. 戦後日本家庭科教育史にみるジェンダー・家族と経済開発 / 正保正恵
家庭経営学研究 [31] (1996.03) p.17-24
773. 小学生の性別意識と家庭科 / 表真美, 平田裕子
家庭科教育 [70-6] (1996.06) p.45-51
774. 米国高校家庭科教科書の検討(4)：Family Livingに見る家族の学習視点：家族の危機について学ぶ / 山田綾[ほか]
家庭科教育 [70-7] (1996.07) p.35-44
775. ジェンダーと家庭科 / 朴木佳緒留
家庭科教育 [70-9] (1996.09) p.6-10
776. 母性・父性の意識の形成 / 佐藤秋子
家庭科教育 [70-9] (1996.09) p.33-40
777. 「家族・家庭生活」領域における知識習得と社会的関心：女子短期大学生を対象として / 金子佳代, 榊原昌代
家庭科教育 [70-9] (1996.09) p.56-63
778. 家庭生活領域の指導のための教材開発 / 中沢孝江
家庭科教育 [70-10] (1996.10) p.56-63

779. 中学校家庭科「家庭生活」領域に関する基礎的研究：経済生活に関する中学生の実態と家庭の教育力 / 小島郷子, 中井克美
高知大学教育学部研究報告. 第1部 [52] (1996)
p.201-220
780. 家庭科の男女共学が未来につながるもの / 榑田真澄
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.61-64
781. 「働くこと」を問いつづける：生徒の意識調査結果から / 中野和代
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.67-72
782. 女性解放の視点から見なおす美術教育：男性主体の美術の枠組みを男女のものに / 森山洋子
季刊女子教育もんだい [66] (1996.冬) p.55-61
783. 「総合」科における 生命と性 の教育 / 松村順子
教育 [46-11] (1996.11) p.47-59
784. 男女共同参画社会と学校教育
教育委員会月報 [47-9] (1995.12) p.22-27
785. 教科書の中に見る性差別：国語・社会科の教科書を点検する / 東京教組「女と男の自立をすすめる教育すいしん委員会」
季刊女子教育もんだい [67] (1996.春) p.55-61
786. わが国の保育者に関する法制の史的考察(1)：保育者の資格・身分・待遇に関する法制を中心として / 小澤文雄
一宮女子短期大学紀要 [35] (1996.12) p.50-64
787. 親と保育者の関係 2：国際化する保育現場と保育者養成の課題 / 日浦直美
聖和大学論集 [24-A] (1996) p.65-72
788. 学童保育に関わる父母組織と地域活動 / 田中美奈子
社会福祉 [37] (1996) p.91-103
789. 女流儀のおしゃべりが学校文化を変える：からだに自然なコミュニケーションへ / 今村梅子
ひと [24-3] (1996.03) p.10-18
790. 「男女共学」の中の女子差別を議論するために / 堀内真由美
女性学年報 [17] (1996) p.88-99
791. アカデミック・ハラスメント問題を考える
京都婦研連だより [55] (1996.03) p.1-5
792. 「女性と健康」：同窓会誌「めぐみ」より / 谷祝子
女性学評論 [10] (1996.03) p.79-92
793. アメリカ合衆国における女性の大学：その概観と近年の改革の基本的動向 / 坂本辰朗
教育学部論集 [41] (1996.12) p.21-42
794. 授業「女性学」を考える：短大生の変化から何を学ぶか / 内海崎貴子
女性学年報 [17] (1996) p.122-129
795. 戦後高等教育のジェンダー構造：「女子短期大学」での私の30年 / 安川悦子
季刊女子教育もんだい [66] (1996.冬) p.23-29
796. 不況化における地方大卒女子の就職：就職の社会的規定要因と本人の仕事観 / 遠藤かおり
研究ノート大学と社会 [29] (1996.03) p.195-222
797. 就業志向と就職活動：ある地方4年制女子大学の卒業後の進路分化 / 似内寛
研究ノート大学と社会 [29] (1996.03) p.223-292
798. 本学卒業生に見る既婚若年女性の職業と意識 / 池木清
女子教育研究 [17] (1996.05) p.1-31
799. 冬の時代を迎えた女子大学と夫婦別姓時代 / 米田泰子
家庭科教育 [70-6] (1996.06) p.21-25
800. 女子大学および女子短期大学における情報活用能力の育成に向けて / 小島浩司, 白井靖敏
名古屋女子大学紀要 家政・自然編 [42] (1996.03) p.123-128
801. 女子大イメージの虚と実：パンフレットは何を語るのか / 井上靖子[ほか]
人間関係論集 [13] (1996.03) p.147-189
802. コンピュータに関する女子短期大学生の意識 / 大家勝彦
福山市立女子短期大学紀要 [22] (1996) p.93-100
803. 日本初の女性学専攻修士課程を開設 / 矢木公子
RIM [1-5] (1996.05) p.7-9
804. 少子化の中の私立幼稚園 保育内容の現状：実態調査からの報告 / 伊藤宣子
季刊保育問題研究 [162] (1996.12) p.40-49
805. 女性社会教育職員の実在形態：女性問題の視点から / 佐藤三三
弘前大学教育学部紀要 [76] (1996.10) p.113-126
806. どうなる情報化時代の女性施設 / 「女性施設ジャーナル」編集委員会
女性施設ジャーナル [2] (1996) p.6-28
807. 震災と女性施設：阪神大震災が顕在化させたもの / 清原桂子
女性施設ジャーナル [2] (1996) p.94-99
808. 女性情報の共有化をめざす「情報連絡会」の試み / 関典子
女性施設ジャーナル [2] (1996) p.67
809. 女性施設の100年史：PART 2 / 志熊敦子[ほか]
女性施設ジャーナル [2] (1996) p.74-93
810. 館長サミット：女性センターの役割とは / 有馬真喜子[ほか]
女性施設ジャーナル [2] (1996) p.120-131
811. 活動の拠点 女性会館の現状とこれから22：宝塚市立女性センター / 井口容子
月刊婦人展望 [469] (1996.03) p.17

812. オーストラリアのワーキング・ウィメンズ・センターを訪ねて / 森玲子
女性労働 [21] (1996.09) p.103-105
813. ジェンダーセンシティブな女性センターを：グループみこしの研究から / 米田禮子
月刊自治研 [38-9] (1996.09) p.59-68
814. 女性会館の現状とこれから25：京都市女性総合センター / 金井秀子
月刊婦人展望 [476] (1996.10) p.17
815. <ウィルホール>を満杯にするまで / 渋谷典子
あごら [224] (1996.12) p.2-12
816. わたしたちの女性センター：四日市女性センターの誕生 / 坂倉加代子
あごら [224] (1996.12) p.14-23
817. 女性センターを考える / 木村泰子
あごら [224] (1996.12) p.24-27
818. 活動の拠点：女性会館の現状とこれから24：福井県生活学習館 / 政野澄子
月刊婦人展望 [475] (1996.09) p.17
819. おきたま青年白書：青年と女性から地域へのメッセージ / 木村雅博
月刊社会教育 [40-3] (1996.03) p.30-37
820. 子育てネットワークづくりは独自性と共同の事業：稚内・子育て・教育運動の18年 / 飯田光
子どもの文化 [28-3] (1996.03) p.4-10
821. 周産期精神保健と母子臨床：赤ちゃんとお母さんとのより良い出会いのために / 鈴木廣子
こころの科学 [66] (1996.03) p.22-26
822. 両親の養育態度と賞賛・叱責場面での子どもの自己教育力 / 篠原弘章
熊本大学教育学部紀要. 人文科学 [45] (1996) p.207-224
823. 生涯学習社会における家庭教育(2) / 佐藤啓子
人間科学研究 [18] (1996) p.21-30
824. 地域の教育力・家庭の教育力と「生きる力」 / 佐藤晴雄
季刊教育法 [107] (1996.09) p.17-22
825. 夢を育てる家庭教育 / 金崎美美子
児童心理 [50-18 (臨増)] (1996.12) p.138-143
826. 父親の家庭教育参加支援事業：あったか父親講座 / 秋田市教育委員会社会教育課
青少年問題 [43-2] (1996.02) p.38-42
827. 各省庁にみる「男性と子育て」の取り組み：父親の子育て参加を図るため家庭教育参加の支援・促進 / 手塚健郎
子ども家庭福祉情報 [12] (1996.08) p.72-74
828. 家庭教育研究所
家庭教育研究所紀要 [18] (1996) p.178-181
829. 日立家庭教育センター
家庭教育研究所紀要 [18] (1996) p.173-177
830. 幼児の社会的場面における自己制御機能の発達に関わる母親のしつけ / 佐藤淑子
家庭教育研究所紀要 [18] (1996) p.131-140
831. 手作りガイド発信：子育て情報満載
子ども未来 [294] (1996.03) p.3-6
832. 宮城県における家庭教育相談事業の歩み：すこやか家庭教育相談事業の7年間を総括して / 畑山みさ子
宮城学院女子大学・同短期大学附属幼児教育研究所研究年報 [5] (1996.03) p.21-26
833. 家族におけるジェンダー形成：社会化価値の性差 / 片瀬一男
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.85-92
834. 子育て情報とどうむきあうか / 増山均
日本の学童ほいく [247] (1996.03) p.10-15
835. 社会教育における女性学学習 / 内藤和美
季刊女子教育もんだい [68] (1996.夏) p.89-94
836. 家庭科学研究所六十余年の歩み：研究所の閉鎖に当たって / 木村静枝
家庭科教育 [70-6] (1996.06) p.11-20
837. 北京から帰って：これからの江東区の女性の学習を考える / 杉本千代
月刊社会教育 [40-9] (1996.09) p.22-28
838. 「ひとを元気にする」まちづくり：起業家育成きたもと塾：夢みる女性のエネルギー引き出す生涯フォーラム [1160] (1996.07) p.38-42
839. 地域住民の自己教育活動：女性政策と自己教育活動 / 千葉悦子
生涯学習研究年報 [1] (1996.03) p.77-93
840. 女性問題学習と公民館：女性指導員の役割 / 遠藤知恵子
北海道大学教育学部紀要 [71] (1996) p.65-82
841. カルチャーセンター講座の比較分析 / 永野俊雄
社会教育 [51-1] (1996.01) p.10-18
842. お洒落な女は不潔な女：からだで読む「スベクテイター」のファッション批評 / 細川祐子
女性学年報 [17] (1996) p.40-55
843. データ・ウォッチング：「子」がつく名前の女の子は頭がいい？ / 坂井博通
季刊子ども学 [12] (1996.夏) p.119-123
844. 売買春に関する法制度の新しい動き：タイの新売買春防止・禁止法を中心に / 藤岡美恵子
アジアに生きる女たちの21世紀 [9] (1996.12) p.63-66
845. なぜ女性性器切除の廃絶運動にかかわるのか / ヤンソン柳沢由実子
アジアに生きる女たちの21世紀 [9] (1996.12) p.67-69

846. インタビュー：複眼で見る：性器切除と女性の
人権 / ヤンソン柳沢由美子, 梶原公子, 稲邑恭子
くらしと教育をつなぐ We [5-3] (1996.06)
p.4-11
847. いまどきの結婚式と新生活 / 森川さゆり
生活の設計 [184] (1996.06) p.17-20
848. 「伝統」への挑戦 Womanist Warrior Walker /
風呂本惇子
女性学評論 [10] (1996.03) p.47-64
849. 仕組みられた「水子信仰」ルーツと展開：「男制」の思
想と社会の形成(下) / 溝口明代
女性学 [4] (1996) p.180-206
850. 日本の女性は何をすべきか：先住民と「自然」：ア
イヌ女性として思う / 計良智子
アジアに生きる女たちの21世紀 [7] (1996.06)
p.74
851. ナチ体制に対する女性の支持と関与：投票行動と
出産政策の問題を中心に / 井上茂子
歴史評論 [552] (1996.04) p.77-87
852. アメリカにおける女性の戦争参加をめぐる論争 /
杉森長子
歴史評論 [552] (1996.04) p.88-98
853. やせている女は美しいか？ / 浅野千恵
へるめす [63] (1996.11) p.45-49
854. 中高年期女性の骨密度と運動歴との関連について
の疫学調査研究：5,000人以上を対象にした骨粗
鬆症データを用いて / 加納克己[ほか]
厚生指標 [43-10] (1996.09) p.3-7
855. 摂食障害と育児援助 / 小林隆児
こころの科学 [66] (1996.03) p.43-47
856. 青年期女子における摂食障害の発病機序と家族に
関する研究：質問紙調査と事例研究からの
考察(第2報) / 折井亜子
日本女子大学大学院紀要. 家政学研究科・人間社会
学研究科 [2] (1996) p.39-51
857. 男の脳と女の脳 / 杉下守弘
現代のエスプリ [349] (1996.08) p.137-146
858. 母乳哺育の母体への影響 / 根津八紘
周産期医学 [26-4] (1996.04) p.499-503
859. 新生児期の母子相互作用：ハイリスク新生児とそ
の母親の場合を考える / 柏木宏介, 白瀧貞昭
Imago [7-1] (1996.01) p.46-54
860. 新生児・乳幼児の行動と中枢神経発達に関する
研究：プレヒトウルの新生児行動学 / 白瀧貞昭
Imago [7-1] (1996.01) p.40-41
861. 胎内の音環境 / 今泉敏, 志村洋子
Imago [7-1] (1996.01) p.56-62
862. 母乳銀行：欧米の状況 / 笠則義
周産期医学 [26-4] (1996.04) p.471-475
863. 電話での育児相談は利用者にどう評価されてい
るか / 植松文子[ほか]
小児保健研究 [55-5] (1996.09) p.657-662
864. 21世紀の子ども達：子供達のために今如何に行動
すべきか / 大西鐘壽
小児保健研究 [55-5] (1996.09) p.613-620
865. 世界の母乳栄養の状況 / 喜多悦子[ほか]
周産期医学 [26-4] (1996.04) p.465-470
866. 母親 乳幼児治療：世界の最前線：1サンフラン
シスコ市民病院INFANT-PARENT PROGRAMと
アリシア・リーベルマン / 渡辺久子
こころの科学 [66] (1996.03) p.61-64
867. 更年期障害の女性と連想テスト / 小林俊雄
家庭科教育 [70-9] (1996.09) p.80-84
868. 海外法律情報アメリカ：出産予定日間近の妊
娠中絶 / 清水隆雄
ジュリスト [1085] (1996.03.01) p.71
869. 妊婦・幼児を持つ母親の喫煙行動と「喫煙が子ども
に与える影響」に関する知識保有について /
永田憲行[ほか]
熊本大学教育学部紀要. 自然科学 [45] (1996)
p.239-245
870. 胎教の効果に関する一考察 / 水上明子, 港夏希
熊本大学教育学部紀要. 自然科学 [45] (1996)
p.145-151
871. 妊娠にともなう妊婦本人と妊婦周辺の喫煙行動
の変容 / 車谷典男[ほか]
厚生指標 [43-13] (1996.11) p.28-34
872. 妊娠・産褥期における不安の変動 / 花沢成一
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.87-97
873. 児童精神科医の見る子育て不安 / 佐々木正美
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.28-32
874. 助産婦の立場からみた子育て不安：不安内容の質
的な変化 / 松岡恵
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.33-37
875. 妊産婦における周産期の母性の変容過程 /
姫野喜久子[ほか]
研究論叢 芸術・体育・教育・心理 [46-3] (1996)
p.41-54
876. 元気な「助産婦」ネットワークを目指して：ジモ
ンの活動を振り返る / 中根直子
看護 [48-5] (1996.04) p.50-54
877. 社会的評価を考慮した教育内容・方法を構築す
る：母性看護学の展開 / 玉上麻美
看護 [48-10] (1996.08) p.72-76
878. 最新中国人口事情北京会議を終えて / 彭玉
世界と人口 [265] (1996.04) p.6-13

自然科学

879. 優生保護法改正と今後の問題 / 大脇雅子[ほか]
月刊婦人展望 [474](1996.08) p.5-10
880. 優生保護法から母体保護法へ: 改正劇 のてん
末と、これからの課題 / 芦野由利子
現代性教育月報 [14-8](1996.08) p.6-7
881. チュニジアを訪ねて: リプロダクティブ・ヘルス
へのチャレンジ / 鈴木良一
世界と人口 [273](1996.12) p.28-32
882. リプロダクティブ・ライツ/ヘルスをめぐる世界
の流れ / 芦野由利子
婦人新報 [1146](1996.03) p.8-10
883. 「優生保護法」から「母体保護法」へこれからの課
題 / 芦野由利子
世界と人口 [269](1996.08) p.6-9
884. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ: 日本の女性が
おかれている現状 / 丸本百合子
婦人新報 [1146](1996.03) p.4-7
885. 二十年後のウェル・ビーイング 9 完: 女性の健康の
ための教育センター/クリニックを/
ヤンソン・柳沢由実子
世界と人口 [264](1996.03) p.18-22
886. 女性労働者のための母性健康管理をすすめるた
めに / 中林正雄
婦人と年少者 [118](1996.12) p.24-29
887. リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・
ヘルス: 国連人口開発委員会におけるカイロ
会議の第1回フォローアップ / 阿藤誠, 中川聡史
人口問題研究 [52-1](1996.04) p.60-73
888. 二十年後のウェル・ビーイング 8: 女性健康運動の
移り変わり / ヤンソン・柳沢由実子
世界と人口 [263](1996.02) p.22-26
889. リプロダクティブ・ヘルス/ライツと思春期保
健 / インガー・ブリュッゲマン
世界と人口 [273](1996.12) p.6-15
890. 女性とビタミンK / 池田ひろ
家庭科教育 [70-7](1996.07) p.74-78
891. 中年女性の健康と食生活に対する意識 /
関口紀子[ほか]
東京家政大学研究紀要 2.自然科学 [36]
(1996.02) p.67-79
892. 女性の健康とカルシウム / 水上戴子
家庭科教育 [70-3](1996.03) p.40-45
893. 青少年期の若者達のやせ願望 / 古川裕
青少年問題 [43-1](1996.01) p.28-33
894. これからの母子保健の問題点 / 平山宗宏
母子保健情報 [34](1996.11) p.4-7
895. 現代社会が抱える子どもの「心とからだ」の重要
課題 / 玉橋征子, 上山真知子
現代と保育 [40](1996.10) p.2-29

896. 子育てを支援する地域社会のあり方 / 伊藤裕康
母子保健情報 [34](1996.11) p.34-39
897. 育児不安と子育て / 佐藤紀子
母子保健情報 [34](1996.11) p.27-33
898. 日本とフィリピンのもとの栄養・健康・ラ
イフスタイルに関する比較研究: 北海道とヌエバ
エシー八州に住む妊娠・授乳・育児期の母親の調査
研究を通じて / オカンボ・メリッサ・ブラザ
北海道大学教育学部紀要 [72](1996) p.191-211
899. 国際シンポジウム「女性と子どもの健康問題とヘル
スプロモーションに関する看護研究の動向」/
兼松百合子
母子保健情報 [34](1996.11) p.63-65
900. 国民生活基礎調査にみる女性と児童の健康 /
山口浩司
母子保健情報 [34](1996.11) p.76-87

技 術

901. 環境意識の高い大学女子学生の衣生活行動と日常
の生活行動との関係 / 高森壽
熊本大学教育学部紀要.自然科学 [45](1996)
p.189-206
902. 男性とフェミニズムを語る(2)エコロジーと
脱原発: 男中心の原子力社会を終わりにする:
土俵を下りる男たち / 高木仁三郎, 松井やより
アジアに生きる女たちの21世紀 [7](1996.06)
p.77-81
903. エコロジーとフェミニズムをどうつなげるか: 環
境の危機を乗り越えるために: 水俣40周年, チェ
ルノブイリ10周年に /
松井やより, 加地永都子, 有村順子
アジアに生きる女たちの21世紀 [7](1996.06)
p.3-8
904. 女性と環境: 問い直される 共生 の価値 /
綿貫礼子
アジアに生きる女たちの21世紀 [7](1996.06) p.9-13
905. 西側の女性が西洋文明を問う: 北の消費パターン
がもたらす南の環境破壊と貧困 / マリア・ミース
アジアに生きる女たちの21世紀 [7](1996.06)
p.15-20
906. 西側の女性が西洋文明を問う: 「エコ・フェミニズ
ム」と「フェミニストのエコロジー」に向けて /
イネストラ・キング
アジアに生きる女たちの21世紀 [7](1996.06)
p.21-22
907. アジア女性たちが目ざす社会: 持続可能な開発と
は何か / カムラ・バシ
アジアに生きる女たちの21世紀 [7](1996.06)
p.23-25
908. 家庭生活に視点を置いた環境教育 / 木村美智子
家庭科教育 [70-10](1996.10) p.28-33

909. アジア女性たちが目ざす社会：女性は21世紀に向けて持続可能な暮らしを求める：環境と開発草の根の視点倫理・公正・正義が基本 / ベギー・アントロパス, ジュディス・ピゾット
アジアに生きる女たちの21世紀 [7] (1996.06)
p.26-28
910. 住民参加型小規模生産プロジェクトとジェンダー：コスタリカ、アレナル環境保全地域の事例調査から / 萩原なつ子
女性文化研究所紀要 [5] (1996.03) p.35-51
911. 性差の建築：ダンディ、モード、モダン / 田中純
Imago [7-6] (1996.05) p.100-115
912. 風呂敷きに対する価値観と時代的変遷 / 徳山孝子, 森田知都子
一宮女子短期大学紀要 [35] (1996.12) p.25-37
913. アンペイド・ワーク概念とその評価に関するフェミニズム視点からの検討 / 古田睦美
女性労働研究 [30] (1996.07) p.66-72
914. アンペイド・ワーク測定の試み：ドイツでの試案 / 本多秀司
女性労働研究 [30] (1996.07) p.22-26
915. ライフスタイルの変化と環境 / 大竹美登利
日本家政学会誌 [47-10] (1996.10) p.27-33
916. 戦前家政(学)関係文献に関する年表：明治、大正、昭和前期 / 倉元綾子[ほか]
日本家政学会誌 [47-5] (1996.05) p.73-81
917. メディアは、どう伝えたのか：アンペイドワーク(無報酬労働) / 渥美節子, 斎藤千代
あごら [224] (1996.12) p.86-91
918. 「専業主婦のいない国」のアンペイドワーク：デンマークの市民活動ルポ / 竹信三恵子
季刊女子教育もんだい [69] (1996.秋) p.93-99
919. 「家庭経営」におけるジェンダー・イクイティの視点 / 蔵重和子
家庭科教育 [70-12] (1996.12) p.32-36
920. ホームエコノミクスは何ゆえに誕生したか / 住田和子
人間生活学研究 [4] (1996.10) p.29-40
921. 日本の法制度とアンペイドワーク / 中島通子
国際女性 [10] (1996.12) p.70-73
922. アンペイドワークをめぐる今日的課題 / 久場嬉子
国際女性 [10] (1996.12) p.51-54
923. 家庭経営におけるリスクマネジメントと意思決定 / 奈良由美子
日本家政学会誌 [47-9] (1996.09) p.11-20
924. 家庭内労働の分担における衡平性の知覚 / 諸井克英
家族心理学研究 [10-1] (1996.05) p.15-30
925. オフィスウエアに見る女性の魅力 / 田中ツネ子
聖カタリナ女子短期大学研究紀要 [29]
(1996.03) p.155-176
926. 女子短大生のおしゃれ意識について / 濱野奈津代
比治山女子短期大学紀要 [31] (1996) p.63-72
927. 19世紀前期女性の生活とモード：Journal des Dames et des Modesに見る / 安部美智子
女性文化研究所紀要 [5] (1996.03) p.73-86
928. 女子消費者の生活に関する実態調査(第4報)：化粧に関する意識と実態 / 筒井由紀子
福山市立女子短期大学紀要 [22] (1996)
p.61-66
929. 青少年期における食行動異常と家族関係に関する一研究 / 望月桂
家族心理学研究 [10-2] (1996.11) p.119-134
930. 食文化の形成と女性 / 木村修一
昭和女子大学女性文化研究所紀要 [18]
(1996.09) p.49-60
931. 「育児ノイローゼ」現象の解明から見てきたこと / 佐藤達哉
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.107-115
932. 父親の育児不安：シングルファザーの問題に焦点をあてて / 渡邊秀樹
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.165-171
933. 母性から育児性へ / 大日向雅美
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.116-122
934. 父親と育児 / 汐見稔幸
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.157-164
935. 育児雑誌の四半世期 / 小林亜子
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.123-136
936. 子ども虐待 その裾野の広がり / 平田佳子
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.46-54
937. 祖母の子育て参加の実態について：(第1報)：子育て参加の内容 / 宮中文子[ほか]
小児保健研究 [55-1] (1996.01) p.82-97
938. 子育てマンガ・子育て本ブームと現代の子育て事情 / 江島祥子
保育の研究 [14] (1996.06) p.55-62
939. 電話相談からみた子育ての悩みと不安 / 芹沢茂登子
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.38-45
940. 母親の子育てと育児疲労の心理 / 佐々木保行
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.98-106
941. 「エンジェル係数」調査による子育て費用の構造解明 / 吉田俊六
教育と情報 [464] (1996.11) p.6-13
942. 育児不安への対応：「孤立」に差し伸べる社会的支援 / 柏女豊峰
こども未来 [303] (1996.12) p.8-12
943. 子どもを愛せない最近の母親たち / 大日向雅美
現代のエスプリ [342] (1996.01) p.55-62

944. 子育てネットワークの形態と親の養育態度(2): 地域の教育力回復への手がかりを求めて / 野呂アイ
尚絅女学院短期大学研究報告[43](1996.12)
p.95-104
945. 幼児を保育する母親の育児不安を軽減する要因の検討 / 田中昭夫, 尾添真希子
家庭教育研究所紀要[18](1996)p.61-68
946. 「のんき」に家事・育児を半分こ: 女は「当然」、男は「誇りに思える」子育て状況の中で / 片山拓史
季刊女子教育もんだい[69](1996.秋)p.76-81
947. 国際比較調査からみた日本の父親の子育ての現状と問題点 / 千葉聡子
文教大学教育学部紀要[30](1996.12)
p.139-150

産 業

948. 農村の中老年女性における老後意識の追跡研究(第2報): 1982年と1993年におけるコーホート間差異 / 佐藤宏子
日本家政学会誌[47-11](1996.11)p.1-14
949. 近世農家における家事労働 / 柳美代子
女性史・女性学ノート[4](1996)p.7-19
950. 農村主婦労働におけるエネルギー消費量推定 / 黒澤直次郎, 国井嘉昭, 千葉智則
東北学院大学論集 人間・言語・情報[115]
(1996.12)p.221-230
951. 現代日本農業における女性の地位に関する一考察: その論点と課題 / 今村奈良臣
家政経済学論叢[32](1996.05)p.31-42
952. むらの新しい風: 農村女性によるむらづくりの現在と「新たなネットワーク」 / 藤井チエ子
農村文化運動[142](1996.10)p.3-16
953. 家族経営協定の明と暗: 農業女性のアンペイドワーク解消への第一歩 / 篠崎正美
アジアに生きる女たちの21世紀[8](1996.09)p.21-24
954. 中国の農村家族における女性の現状: 近年の農村調査報告を読み解いて / 丹野美穂
女性学年報[17](1996)p.66-73

芸 術

955. 「理想化」と「女体」: 西洋美術から得たもの・見失ったもの / 浜下昌宏
女性学評論[10](1996.03)p.27-45
956. 女のセクシュアリティアートの目 / 富山妙子
アジアに生きる女たちの21世紀[9](1996.12)
p.25-26

957. 音楽史を聴きなおす: 女性作曲家の作品をめぐる / 小林緑
昭和女子大学女性文化研究所紀要[18](1996.09)
p.125-135
958. 音楽と女性: 女性学より見た音楽界 / 森池日佐子
武庫川女性学研究[1](1996)p.39-45
959. カミングアウトして、どこへ: ジュディス・パトラーとレズビアン映像表象 / 竹村和子
Imago[7-6](1996.05)p.182-193
960. 「エイリアン・フェミニズム」: 記号としての身体・記号としての性 / 内田樹
女性学評論[10](1996.03)p.3-26
961. 映像で語る日本女性史の試み / 松本侑壬子
女性教養[527](1996.09)p.7
962. シネマ最前線にみる(女性像) / 高橋英子
女性と仕事ジャーナル[4](1996.08)p.83-90
963. アメリカ映画に現れた「日本人女性」のイメージ: Interracial Romanceの成功例から見えてくるもの / 増田幸子
女性学年報[17](1996)p.15-25
964. 「女性とメディア」動向レポート: INTERVIEW
松永喜久さんに聞く: ポクシングライター一筋に / 「女性とメディア」研究会
総合ジャーナリズム研究[33-4](1996.秋)
p.104-107

言 語

965. 子ども・ことば・ジェンダー / 中村桃子
季刊子ども学[12](1996.夏)p.78-84
966. 「母」文字の辞書的解釈: 母性研究の一環として / 恵良具子
日本女子大学人間社会研究科紀要[2](1996)p.131-136
967. 英語の性差別語と日本語人への影響: 英語教科書の調査と共に / 佐々木恵理
ことば[17](1996.12)p.13-30
968. 新聞報道の外国人談話に見る男女差: 文体と終助詞使用の関係を中心に / 谷部弘子
ことば[17](1996.12)p.58-72
969. 96春中国女文字現地調査報告 / 遠藤織枝, 陳力衛, 劉穎
文学部紀要[10-1](1996.10)p.1-31

文 学

970. (女)のゆくえ / 山田登世子
新潮[93-4](1996.04)p.184-189
971. 足のフェティシズム: 靴のセールスマンと刺青師 / 別府恵子
女性学評論[10](1996.03)p.65-78

972. Kate Chopin(1850~1904)のThe Awakening「めざめ」(1899)と有島武郎(1878~1923)の「或る女」(1919)/ 餘野木玲子
RIM [1-4](1996.01) p.14-19
973. グリムのメルヘンと明治の家父長制 / 野口芳子
武庫川女性学研究 [1](1996) p.21-30
974. 絵本の中のジェンダー / 佐々木宏子
季刊子ども学 [12](1996.夏) p.70-77
975. メルヘンに見る女性像 / 森恭子
Imago [7-5](1996.04) p.76-85
976. 「シンデレラ」ある解釈 / アン・パリング; 伊賀順子訳
Imago [7-5](1996.04) p.194-207
977. 「美女と野獣」と「すばらしい羊」童話にみるカップルのありかた:ファーザーコンプレックスの女性とマザーコンプレックスの男性の出会い / アイリーン・ガッド; 林サオダ訳
Imago [7-5](1996.04) p.208-225
978. 「キッチン」のテキストで(家族)を考える / 酒井一郎
聖カタリナ女子短期大学研究紀要 [29](1996.03) p.1-15
979. 作品の中の女性:一茶の場合 / 黄色瑞華
国際文化研究所紀要 [2](1996.08) p.65-75
980. 詩歌を通して女性問題を考える:隔週五日制への一つの試み / 内田正子
解放教育 [26-3](1996.03) p.80-95
981. 童謡詩人金子みすゞ,その詩からみる女としての人生:作曲活動を通して / 吉岡しげ美
共栄学園短期大学研究紀要 [12](1996) p.271-288
982. E.イェリネクの戯曲に見る男女間闘争:クララ・S.と女ヴァンパイア,エミリーとカルミラの場合 / 中込啓子
大東文化大学紀要・人文科学 [34](1996.03) p.487-496
983. 明治の「生意気娘」たち(中):「女学生」と小説 / 小関三平
女性学評論 [10](1996.03) p.121-152
984. 「伸子」は男根的(ファリック)なテキストか? / 北田幸恵
RIM [1-5](1996.05) p.12-15
985. シェイクスピアのヒロインたち / 鳥井清
大阪樟蔭女子大学論集 [33](1996.03) p.49-65
986. 埋もれた女性の物語:「嵐が丘」についての一考察 / 杉村使乃
日本女子大学大学院文学研究科紀要 [2](1995) p.27-39
987. ロマンティック・フレンドシップ とオルコットのアダムレス・エデン / 渡辺和子
女性学年報 [17](1996) p.1-14
988. お友達はダイナマイト:「アナイス・ニンの日記」の問題点 / 矢川澄子
新潮 [93-5](1996.05) p.220-229
989. 切っちゃダメ?!:ヨーロッパの現代伝説におけるフロイト以前/以後 / 池田香代子
Imago [7-5](1996.04) p.130-135

新着図書案内

1. 「生き路びきno.3：自分らしい生き方を探す」
家庭通信社（1997.11）
2. 「いつまで待てばいいの？：民法改正を望む
ひとこと集」民法改正をすすめるグループ
（1997）
3. 「居場所としての『保健室』」（モノグラフ中
学生の世界；vol.55）ベネッセ教育研究所
（1997.2）
4. 「今どきのアンペイドワーク」
田代俊子記念基金運営委員会（1997.1）
5. 「今どきの親の子育て観 子ども編」
くもん子ども研究所（1998.2）
6. 「男と女の自立と新たな絆：いま家族を考
える」（社会科学研究所公開講演集；1996年
度（第20号））明治大学社会科学研究所
（1997.3）
7. 「男と女のサイエンス」
日本生理人類学会（1997）
8. 「男らしさ・女らしさ」（モノグラフ・高校
生；vol.50）ベネッセ教育研究所（1997.8）
9. 「Open sesame! ひらけごま：イラストでよ
む北京世界会議『行動綱領』」
プラウ・プロジェクト（1997.3）
10. 「介護保険法案に市民修正を：3つの修正と
5つの提案」介護の社会化を進める1万人市
民委員会（1997）
11. 「科学技術とジェンダー：21世紀を女性科学
者の世紀に」
東京大学女性研究者懇話会（1997.11）
12. 「学校内の人間関係」（モノグラフ中学生の
世界；vol.57）ベネッセ教育研究所（1997.9）
13. 「家庭教育におけるテレビメディアの実態と
保護者の意識調査：全国PTA対象」
日本PTA全国協議会（1997）
14. 「97-98連合女性活動ハンドブック：男女平
等参画の職場と社会をつくろう！時間外・休
日労働および深夜労働の男女共通規制の実
現！」
連合女性局編、日本労働組合総連合会（連合）
（1997.1）
15. 「健康の値段：アンケート調査」
東海銀行（1997.8）
16. 「厚生省心身障害研究生涯を通じた女性の健
康づくりに関する研究報告書」厚生省心
身障害研究生涯を通じた女性の健康づくりに
関する研究研究班（1997.3）
17. 「国際婦人教育振興会のあゆみ：特集25周年
記念に寄せて」国際婦人教育振興会（1997.8）
18. 「国際女性の地位協会10年のあゆみ」
国際女性の地位協会（1997.11）
19. 「子育て生活基本報告書：園児、小学校1・
2年生の母親を対象に」
ベネッセ教育研究所（1998.3）
20. 「国家公務員セクシュアル・ハラスメント調
査結果について」人事院（1998.3）
21. 「子どもとメディア」（モノグラフ・小学生
ナウ；vol.17-2）ベネッセ教育研究所
（1997.11）
22. 「さいたま女のネットワーク」
さいたま女のネットワーク編集委員会
（1997.4）
23. 「慈愛寮に生きた女性たち」
慈愛会編、東京創文社（1997.3）

24. 「ジェンダーの神話から新話へ」
「若者とジェンダーを考える会」実行委員会
(1997.2)
25. 「ジェンダー・女性学セミナー： 青年男女
の共同参画をめざすために 報告書」ジェン
ダー・女性学セミナー事務局編、愛知淑徳大
学ジェンダー・女性学研究所(1997.3)
26. 「児童生徒の覚せい剤等の薬物に対する意識
等調査報告書」
文部省体育局学校健康教育課(1997.1)
27. 「社会における男女のあり方に関する意識調
査調査報告書」ジェンダー・女性学セミナー
実行委員会編 愛知淑徳大学ジェンダー・女
性学研究所(1997.5)
28. 「出産及び幼児教育に関する調査」(三和銀
行ホームコンサルタント調査レポート；
no.199)
三和銀行(1998)
29. 「生涯学習態度形成に関する調査研究報告書
：地域における生涯学習団体活動を行ってい
る人々を中心に」生涯学習態度形成研究
会、第百生命フレンドシップ財団(1997.1)
30. 「少子化と子育て環境の充実」
特別区協議会調査部資料室(1997.9)
31. 「情報相談の分析&回答マニュアル」尼川洋
子ドーンセンター情報ライブラリストッフ、
大阪府男女協働社会づくり財団(1997.3)
32. 「職場におけるセクシュアル・ハラスメント
に関する調査研究会報告書」
職場におけるセクシュアル・ハラスメントに
関する調査研究会(1997.12)
33. 「女性のエンパワーメントのための学習」
日本女子社会教育会(1997.3)
34. 「女性の人的ネットワークの拡がり」と生涯学
習との関連に関する調査」井口哲夫(1997.5)
35. 「女性学を教える 学ぶ 創る 企画する コーデ
ィネートする：日本女性学会女性学教育ワー
クショップ」日本女性学会1996年秋季大会
「女性学教育ワークショップ」有志(1997)
36. 「女性学の視点で見るわれわれの現在」
大阪女子大学女性学研究センター(1997.11)
37. 「女性社員の処遇と活用に関する調査結果」
社会経済生産性本部(1997.9)
38. 「女性の社会進出に関する部会レポート：フ
ォローアップ調査結果の概要と今後の課題」
経団連・企業行動委員会女性の社会進出に
関する部会(1997.2)
39. 「女性の人権とは：'96アジア女性基金国際
フォーラム報告書」女性のためのアジア平和
国民基金(アジア女性基金)(1997)
40. 「女性の職業・キャリア意識と就業行動に
関する研究」日本労働研究機構(1997)
41. 「女性の地位に関する意識調査報告書」
愛知県女性団体連盟(1997)
42. 「女性の地位とは？」モニカ・ピンセント
著；女性学研究会訳、北九州市立女性センタ
ー(1997.1)
43. 「女性問題研修プログラム：企業内研修ガイ
ドブック」
北九州市立女性センター ムーブ(1997.1)
44. 「シングル男性の生活と意識に関する調査」
東京都生活文化局(1997.12)
45. 「図説 変わる家族と子ども」
日本女子社会教育会(1997.2)
46. 「生活研究プロジェクト 高齢社会の食生活
調査報告書」日本ヒープ協議会(1997.11)
47. 「性差別、おかしくない？こんなこと：ジェ
ンダーGENDERの窓から」
かながわ女性会議(1997.3)
48. 「青少年の消費行動と非行に関する研究調査」
総務庁青少年対策本部(1997.3)
49. 「セクシュアル・ハラスメント事例収集結果
報告書：職場・学校・地域の事例にみる実態」
神奈川県立かながわ女性センター(1998.2)

50. 「全国の現代主婦3657人に聞く危機管理意識」
第百生命保険（1998.2）
51. 「大学生の男女共同参画社会に関する意識調査報告書：（男女共同参画社会づくりと学校教育：望ましいパートナーシップの形成をめざして）」
「男女共同参画社会づくりと学校教育」実行委員会（1997.3）
52. 「大学教育とジェンダー」お茶の水女子大学
ジェンダー研究センター（1997.3）
53. 「男女共同参画社会づくりと学校教育：望ましいパートナーシップの形成をめざして」
男女共同参画社会づくりと学校教育実行委員会（1997.3）
54. 「男女共同参画社会に関する世論調査」
内閣総理大臣官房広報室（1998.1）
55. 「男女雇用平等への取り組み国際交流集会報告集」連合女性局編、日本労働組合総連合会（1997.5）
56. 「妻と夫の財産：女性と財産に関する研究調査報告書」東京女性財団（1997.3）
57. 「ディジション・メイキングへの女性の参画」
大学婦人協会（1997.3）
58. 「東京都の婦人学級30年：女性の主体形成のあゆみをみる」東京都婦人学級史研究会（1997.3）
59. 「東京・ニューヨークの働く母親 400人に聞く暮らしと健康意識に関する調査調査報告書」ヤクルト本社（1997.1）
60. 「都内女性センター情報 96」
女性施策を考える会（1997.3）
61. 「新座市公私立高校に通う高校生の男女平等意識調査：報告書」
埼玉県新座市企画総務部企画課（1997）
62. 「二世帯同居家族の意識調査」
大和ハウス工業生活研究所（1997.1）
63. 「日本人と結婚した在日外国人女性に対する支援推進のための調査研究」
国際日本語普及協会（1997）
64. 「乳がん患者の会 新樹 十年の歩み」
新樹の会編集委員会（1997.1）
65. 「乳幼児栄養調査結果の概要（平成7年）」
厚生省児童家庭局母子保健課（1997.2）
66. 「ネオダダから21世紀型魔女へ：岸本清子の人と作品」女性とアートプロジェクト（1997.12）
67. 「パキスタンの働く女性：綿摘み女性労働者と縫製業の女性労働者」
アジア女性研究フォーラム（1996）
68. 「働く母たちの定年：百人の証言」働く母の会編、読売・日本テレビ文化センター（1997.3）
69. 「発展と調和 21世紀経営に挑む女性経営者たち 実施報告書」2001年日本委員会（1997）
70. 「パートタイム労働に係る調査研究会報告」
パートタイム労働に係る調査研究会（1997.8）
71. 「母親は変わったか：若い世代のお母さん」（モノグラフ・小学生ナウ；vol.17-1）
ベネッセ教育研究所（1997.5）
72. 「被暴力女性問題解決ワークショップ：シェルター等、被暴力支援機関の抱える問題と、関連会社資源および支援制度の整備：報告書」
横浜市女性協会（1997.6）
73. 「夫婦の経済関係：アンケート調査」
東海銀行（1998.3）
74. 「平成8年度青年男女の共同参画セミナー報告書」青年男女が描く明日と近未来事業実行委員会（1997）
75. 「HELP設立10周年国際シンポジウム報告書」
女性の家HELP（1997.2）
76. 「ボランティア・コーディネーターの養成・研修の在り方とプログラム試案」
国立教育会館社会教育研修所（1997）

77. 「ボランティア活動の支援・推進に関する基礎資料」文部省生涯学習局婦人教育課（1997.3）
78. 「民意50年の流れ テーマ別にみた全国世論調査一覧」朝日新聞社世論調査室（1996.4）
79. 「無償労働の貨幣評価について」経済企画庁経済研究所国民経済計算部（1997.5）
80. 「メディアで活躍する女性たち：アジア女性資料センター・ジャーナリスト講座テレビ班講座終了報告」アジア女性資料センター（1997）
81. 「やってみよう！インターネット：女性が開きたいホームページ286」クリスタルの会（1997.1）
82. 「両性の平等と自立：女性の人権の確立をめざして：憲法50年」日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会（1997.3）
83. 「若者を中心としたコミュニケーションの変容：アンケート調査」東海銀行（1997.2）
84. 「若者たちのサラダボールセミナー：文部省委嘱事業青年男女の共同参画セミナー報告書」青年男女のイコールパートナー推進事業実行委員会（1997.3）
85. 「Gender eyes : women's men's and gender studies ; no.1」日本女性学研究会分科会ジェンダーを考える会（1998.2）
86. "Book of abstracts : 6th international interdisciplinary congress on women" *Adelaide, The University of Adelaide* (1996)
87. "Commemorating Beijing : report on the South Asia regional meeting New Delhi, 9th September" *New Delhi, UNIFEM* (1996)
88. "Directory of non-governmental women's organizations in Korea" *Seoul, Korean Women's Development Institute* (1997)
89. "Global trading practices and poverty alleviation in South Asia : regional perspectives, on women and trade" *New Delhi, UNIFEM* (1996)
90. "Human rights and legal status of women in the Asian and Pacific region" *New York, UN* (1997)
91. "Human development in South Asia 1997" *Karachi, Oxford University Press* (1997)
92. "Islamic republic of Iran : national report on women" *Women's Bureau of the Presidential Office* (1997)
93. "Manual village women learning Centre" *Myanmar, U Myint Han* (1996)
94. T.A.Hema Kumari, U.Tataji, "Migrant labour : the gender dimension" *New Delhi, Centre for women's development studies* (1996)
95. "Mini Beijing Conference : report " *Kathmandu, International for Human Rights Environment and Development* (1997)
96. "Pakistan women in development : a statistical mirror" *Islamabad, Pakistan Academy for Rural Development* (1997)
97. "Report of the commission of inquiry for women : Pakistan" *The commission of inquiry for women* (1997)
98. "Sharing a common future : report from Japan " *Tokyo, Makoto Yamaguchi* (1997)
99. "The gap between reproductive intentions and behavior : a study of punjabi men and women" *Islamabad, Population Council* (1997)
100. "Voices of resistance silences of Pain : a resource guide on violence against women" *New Delhi, Centre for Women's Development Studies* (1996)

編 集 後 記

「WINET情報」創刊号をお届けします。

新しい情報専門誌を創刊するにあたって、婦人教育情報センターは、女性・家族に関する情報の発信をしていくこと、そして、女性の情報ネットワークをより細やかに整備していくことが必要ではないかと考えました。

その結果、新情報誌は女性のネットワークをつなげていくことを願い、会館のWINET (Women's Information Network System 女性情報ネットワークシステム) からの情報発信を中心にしたものとして、名前もそのものずばり「WINET情報」と「婦人教育情報」の妹分としてスタートしました。

創刊号は、まだまだ皆様に知ってほしい情報を全部載せられたわけではありません。今後どんどん開拓していきたい情報等もあります。この「WINET 情報」をお読みになった皆様からご意見をいただきながら一緒に育っていきけるような情報誌にしていきたいと思っています。皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。

(Y.I)

WINET情報 創刊号

発行日	平成10年3月31日
編集・発行	国立婦人教育会館 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地
印刷	電話 0493(62)6711 (大代表) 株式会社青松社 電話 03(3479)7111 (大代表)

国立婦人教育会館
ヌエック